

博士課程教育リーディングプログラム
平成25(2013)年度採択プログラム事後評価
アンケート調査結果

調査結果報告

令和2(2020)年2月

独立行政法人日本学術振興会
博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局

目次

【参考：修了者、学生、プログラム担当者の設問の比較】	1
第1部 修了者及び学生アンケート調査結果.....	5
1. 回答者の属性（修了者：問2, 3, 4, 5、学生：問2, 3, 4, 5）	5
2. プログラムへの参加動機（修了者：問6、学生：問6-1）	8
3. プログラムがなかった場合の最終学位（学生：問6-2）	10
4. プログラムに対する評価（修了者：問7、学生：問7）	11
5. プログラムで受けた指導（修了者：問8、学生：問8）	12
6. 環境の整備と有効性（修了者：問9A、学生：問9A）	15
7. 経験の有無と有効性（修了者：問9B、学生：問9B）	16
8. 身に付いた能力（修了者：問10、学生：問10）	18
9. 教員の理解度等（学生：問11）	20
10. プログラムの効果・負担（修了者：問11、学生：問11）	21
11. 修了後の進路（修了者：問12、学生：問12）	22
12. 居住国及び今後の希望（修了者：問13、学生：問13）	26
13. プログラム情報の獲得方法（修了者：問17、学生：問17）	27
第2部 プログラム担当者アンケート調査結果.....	28
1. 回答したプログラム担当者の属性（問2, 3, 4）	28
2. プログラムへの関与（問3）	30
3. 指導等の内容（問5）	31
4. プログラムの整備状況及びその有効性（問6）	32
5. プログラムの有効性（問7）	34
6. 運営・管理（問8）	35
7. プログラムに対する印象（問9）	36
8. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10-1）	37
附録A サンプルと回答者数	38
附録B 修了者アンケート調査と単純集計結果	40
附録C 学生アンケート調査と単純集計結果.....	53
附録D プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果.....	66

まえがき

独立行政法人日本学術振興会では、文部科学省からの委託により「博士課程教育リーディングプログラム」の審査・評価等を実施している。平成25(2013)年度に採択した18のプログラムが7年度目となる令和元(2019)年度に実施した事後評価において、各プログラムの進捗状況を客観的に評価するための資料として、各プログラムの修了者及び参加している学生、プログラム担当者に対してアンケート調査を行った。本報告は、その概要を示すものである。

実施概要

アンケート実施期間：平成31(2019)年4月18日(木)～令和元(2019)年5月27日(月)

アンケート対象修了者及び学生：

1. 抽出条件

・修了者

プログラムに選抜された学生（プログラムが独自に授与する学位又はプログラム修了証の授与対象者。編入も含む。）のうち、平成30(2018)年度末までにプログラムを修了した全学生

・学生

プログラムに選抜された学生（プログラムが独自に授与する学位又はプログラム修了証の授与対象者。）のうち、平成30(2018)年度末までにプログラムに入学（編入も含む。）した学生で、かつ現在（アンケート実施時点）も在籍している全学生（休学中の者を含む。）

2. 対象者数

・修了者：255名

・学生：690名

3. 回答者数

・修了者：201名（回答率78.8%）

・学生：601名（回答率87.1%）

アンケート対象プログラム担当者：

1. 条件

平成31(2019)年4月1日現在の全プログラム担当者（プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成等を総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤又は非常勤の者。ただし、同日付けで新たに担当者となった者を除く。）のうち3割程度（対象者は博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局にて無作為に抽出）。

2. 対象者数

339名

3. 回答者数

221名（回答率65.2%）

【参考：修了者、学生、プログラム担当者の設問の比較】

以下の設問については、修了者、学生、プログラム担当者へ同じ質問をしています。参考までに対応する設問の一覧を示します。

修了者		学生		プログラム担当者	
【2. プログラムへの参加動機】					
問 6	このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。	問 6 1	このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。		
<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている ・産業界、官界、NPO、国際機関への就職など自分の将来の可能性が広がる ・通常の博士課程では得られない幅広い知識や経験が得られる ・他の研究科（専攻）の学生や教員、留学生等との交流の幅が広がる ・留学や海外インターンシップなど海外での経験が積める ・グローバルな舞台で活躍していくために Ph. D. が必要 ・経済的な支援が充実している ・何となく面白そうだった ・友人・知人や研究室の先輩等の教員以外の人にプログラムを勧められた ・指導教員等に勧められた（自分の意志で参加） ・指導教員等に勧められた（断ることができなかった） 					
【4. プログラムに対する評価】					
問 7	プログラムの以下の点をどのように評価しますか。	問 7	プログラムの以下の点をどのように評価していますか。		
<ul style="list-style-type: none"> ・他の専門分野の学生との交流 ・他大学の学生との交流 ・専門分野以外の教員との出会い ・企業人との交流 ・専門分野以外の幅広い知識や経験 ・奨励金や授業料の補助など大学からの経済的支援 ・議論することに対する自信をつけること ・アカデミア以外の分野で活躍する自信をつけること ・語学力向上のためのカリキュラム ・インターンシップの機会 					

修了者		学生		プログラム担当者	
【5. プログラムで受けた指導】				【3. 指導の内容】	
問 8	このプログラムで、以下の指導をどの程度受けましたか。 また、受けた場合、それは有効でしたか。	問 8	このプログラムで、以下の指導をどの程度受けましたか。 また、受けた場合、それは有効ですか。	問 5	このプログラムで以下のことを担当していますか。 また、担当している場合、それは有効だと思いますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・指導教員以外の教員からの指導 ・企業や官界等の学外者からの指導・助言 ・主専攻以外の分野の授業等の履修 ・研究室ローテーション ・プロジェクト形式による授業や課題 ・授業外のサポート（メンター等） ・産業界、官界、NPO、国際機関など教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 				<ul style="list-style-type: none"> ・指導学生以外の学生への指導 ・主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等 ・研究室ローテーションの受入れ ・プロジェクト形式による授業や課題 ・授業外のサポート（メンター等） 	
【6. 環境の整備と有効性】				【4. プログラムの整備状況及びその有効性】	
問 9 A	このプログラムにおいて、以下のことは整備されていましたか。 また、それは有効でしたか。	問 9 A	このプログラムにおいて、以下のことは整備されていますか。 また、それは有効ですか。	問 6	このプログラムで以下のことは整備されていますか。 また、「十分にされている」あるいは「ある程度されている」を選択した場合、それは有効だと思いますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・奨励金や授業料の補助など大学からの経済的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会 				<ul style="list-style-type: none"> ・企業や官界等の学外者による指導 ・産業界、官界、NPO、国際機関など教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 ・奨励金や授業料の補助など大学からの経済的支援 ・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 ・通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 ・国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・本プログラムの中での留学 ・海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動 	
【7. 経験の有無と有効性】					
問 9 B	このプログラムによって、以下のことを経験しましたか。 また、経験した場合それは有効でしたか。	問 9 B	このプログラムによって、以下のことを経験しましたか。 また、経験した場合それは有効でしたか。		
<ul style="list-style-type: none"> ・国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ・海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満） ・海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月以上） ・本プログラムの中での留学（3月未満） ・本プログラムの中での留学（3月以上1年未満） ・本プログラムの中での留学（1年以上） ・海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動 					

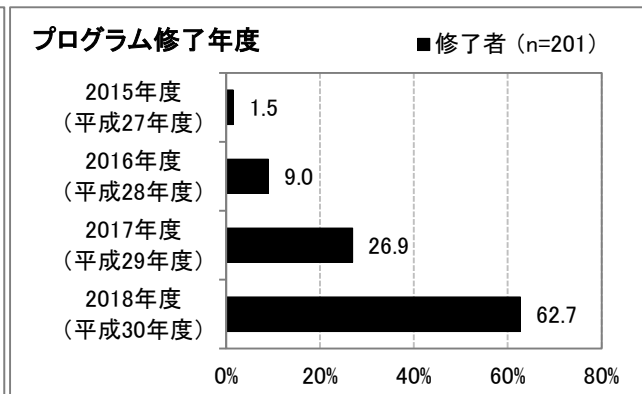
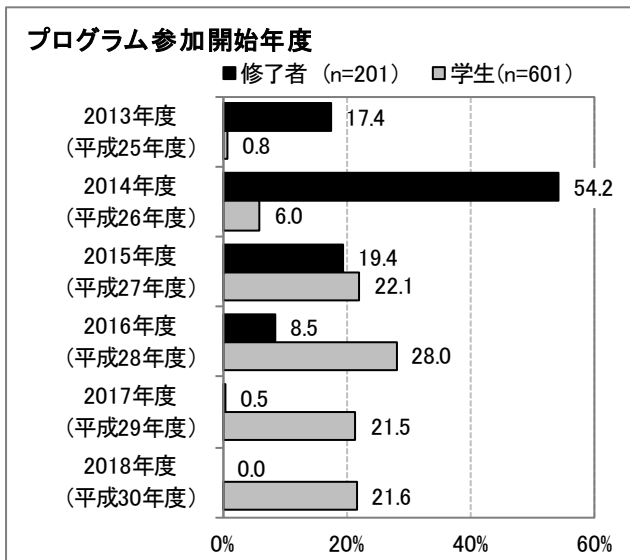
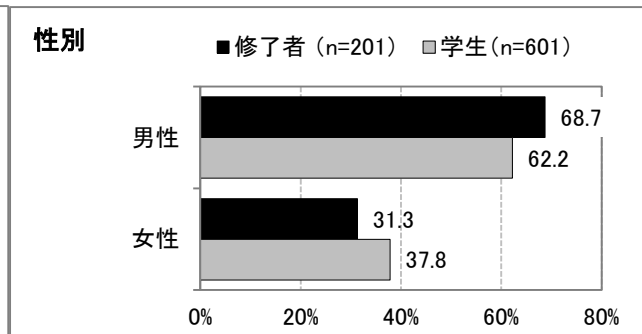
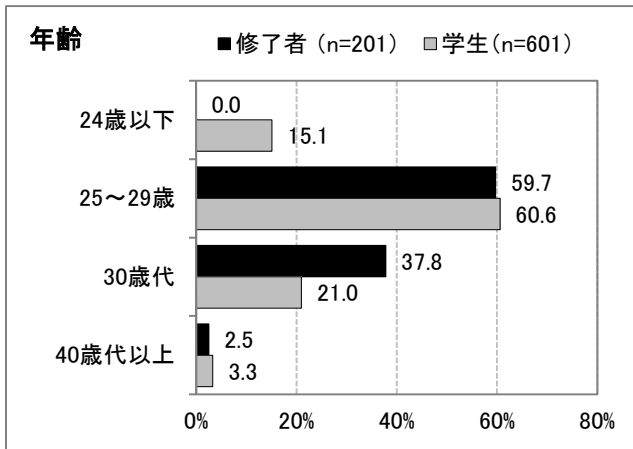
修了者		学生	プログラム担当者	
【8. 身に付いた能力】			【5. プログラムの有効性】	
問 10	このプログラムに参加することによって、以下の能力は どう変化しましたか。		問 7	このプログラムは、学生が以下の能力を 向上させる上で、どの程度有効だと思いますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・高度な専門的知識・研究能力 ・高い国際性 ・専門以外の分野の幅広い知識 ・物事を俯瞰し本質を見抜く力 ・自ら課題を発見し解決に挑む力 ・独創的な能力 ・チームのマネージメント力 ・企画立案、関係者との調整、統率する能力 ・他者と協働する力 ・ディスカッション能力 ・プレゼンテーション能力 ・語学力 			<ul style="list-style-type: none"> ・高度な専門的知識・研究能力 ・高い国際性 ・専門以外の分野の幅広い知識 ・物事を俯瞰し本質を見抜く力 ・自ら課題を発見し解決に挑む力 ・独創的な能力 ・チームのマネージメント力 ・企画立案、関係者との調整、統率する能力 ・他者と協働する力 ・ディスカッション能力 ・プレゼンテーション能力 ・語学力 	
/			【9. プログラムへの評価】	
			問 11	以下の点についてどう考 えますか。
			<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムに参加する教員間でプロ グラムについての理解が共有され ている ・一部の教員に負担が集中している ・指導教員や研究室スタッフを含め、 プログラムに参加していない教員 等はプログラムの目的を理解し、プ ログラムに参加することに協力的 である 	
【7. プログラムに対する印象】			【7. プログラムに対する印象】	
問 11	以下の点についてどう考えますか。		問 9	以下の点について、どう考えますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究だけではなく、産業界や官 界、NPO、国際機関等で活躍する 人材を育成する可能性が大きい ・所属研究室での指導とこのプログ ラムでの指導が二重負担になって いた ・このプログラムによって自身の研 究に新たな示唆・知見が得られた ・このプログラムによって自身の進 路選択に関して新たな示唆・知見が 得られた ・所属研究室において自分の専門的 な研究を進めて、業績をあげられた ・修了後の進路に不安があった ・後輩にもこのプログラムを勧めたい 			<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究だけではなく、産業界や官 界、NPO、国際機関等で活躍する 人材を育成する可能性が大きい ・所属研究室での指導とこのプログ ラムでの指導が二重負担になってい る ・このプログラムによって自身の研究 に新たな示唆・知見が得られた（得 られそうである） ・このプログラムによって自身の進路 選択に関して新たな示唆・知見が得 られた（得られそうである） ・所属研究室において自分の専門的な 研究を進めて、業績をあげられるか 不安がある ・修了後の進路に不安がある ・後輩にもこのプログラムを勧めたい 	
【10. プログラムの効果・負担】			【7. プログラムに対する印象】	
問 11	以下の点についてどう考えますか。		問 9	以下の点について、どう考えますか。
<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究だけではなく、産業界や官 界、NPO、国際機関等で活躍する 人材を育成する見込みがある ・学生にとって所属研究室での指導とこのプログラムで の指導が二重負担になっている ・このプログラムによって学生自身の研究に新たな示 唆・知見が得られる（得られそうである） ・このプログラムによって学生自身の進路選択に関して 新たな示唆・知見が得られる（得られそうである） ・学生が所属研究室において専門的な研究を進め業績を あげられるか懸念がある ・学生の将来の進路に不安がある ・これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧 めたい 			<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究だけではなく、産業界や官界、NPO、国際 機関等で活躍する人材を育成する見込みがある ・学生にとって所属研究室での指導とこのプログラムで の指導が二重負担になっている ・このプログラムによって学生自身の研究に新たな示 唆・知見が得られる（得られそうである） ・このプログラムによって学生自身の進路選択に関して 新たな示唆・知見が得られる（得られそうである） ・学生が所属研究室において専門的な研究を進め業績を あげられるか懸念がある ・学生の将来の進路に不安がある ・これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧 めたい 	

修了者		学生		プログラム担当者
問 1 2	プログラム修了後どのような職等に就きましたか。また、今後の希望は持っていますか。	問 1 2	修了後の就職等についてどのような希望を持っていますか。	/
	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業に就職（研究者以外として） ・民間企業に就職（研究者として） ・官公庁に就職 ・国際機関に就職 ・NPO・NGO等（公共的サービスの提供主体）に就職 ・医師、弁護士等の専門職 ・起業 ・大学（海外を含む）に研究者として就職 ・その他公的研究機関（海外を含む）に研究者として就職 ・求職中 ・ポスドク（博士研究員） ・決めていない 		<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業に就職（研究者以外として） ・民間企業に就職（研究者として） ・官公庁に就職 ・国際機関に就職 ・NPO・NGO等（公共的サービスの提供主体）に就職 ・医師、弁護士等の専門職 ・起業 ・大学（海外を含む）に研究者として就職 ・その他公的研究機関（海外を含む）に研究者として就職 ・ポスドク（博士研究員） ・決めていない 	
問 1 3	居住国について選択してください。また、今後の希望は持っていますか。	問 1 3	修了後の居住国について希望は持っていますか。	
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本 ・日本あるいは母国以外の外国 ・母国に帰国 ・未定 			

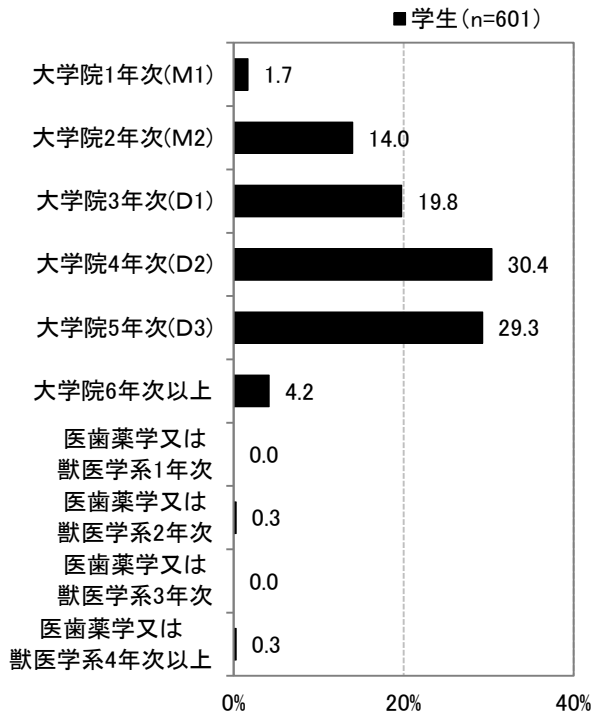
第1部 修了者及び学生アンケート調査結果

1. 回答者の属性（修了者：問2, 3, 4, 5、学生：問2, 3, 4, 5）

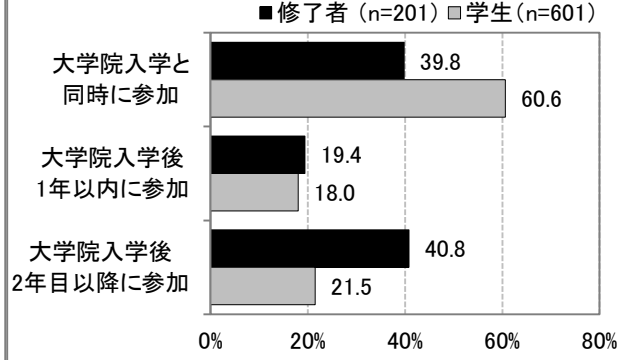
本項目では、アンケートを回答した学生の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。



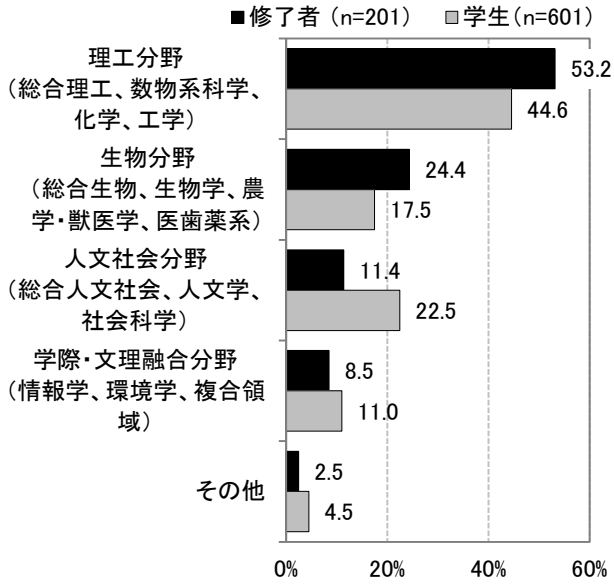
現在の学年



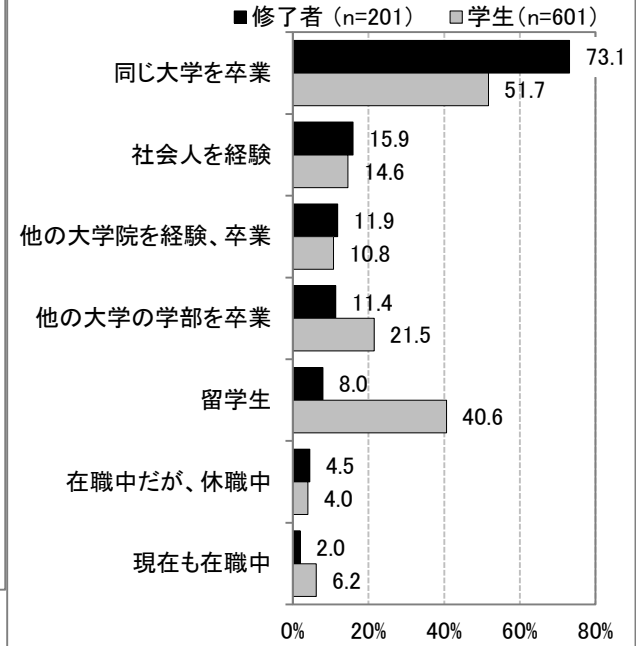
プログラム参加時期



学位論文執筆予定分野

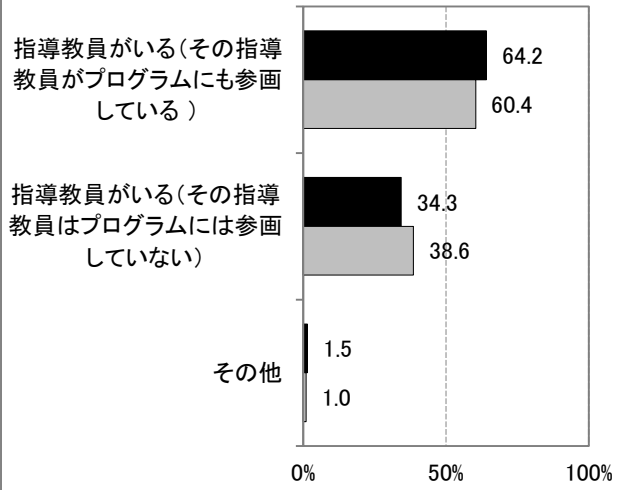


経歴 [複数回答可]



指導教員とプログラムとの関係

■ 修了者 (n=201) □ 学生 (n=601)



2. プログラムへの参加動機（修了者：問6、学生：問6-1）

このプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全てと、その中で最も強い動機（図1）について聞いている。

複数選択を可とした設問で、「通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる」、「経済的な支援が充実している」については、修了者・学生ともに概ね80%を超えている。この2つの回答については、いずれも「最も強い動機（単一回答）」であるとの回答が25%程度以上あり、他と比較して多くなっている。なお、「最も強い動機（単一回答）」については、この2つに次いで「留学や海外インターンシップなど海外での経験が積める」（修了者13%、学生：9%）、「プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている」（修了者10%、学生15%）と回答している。

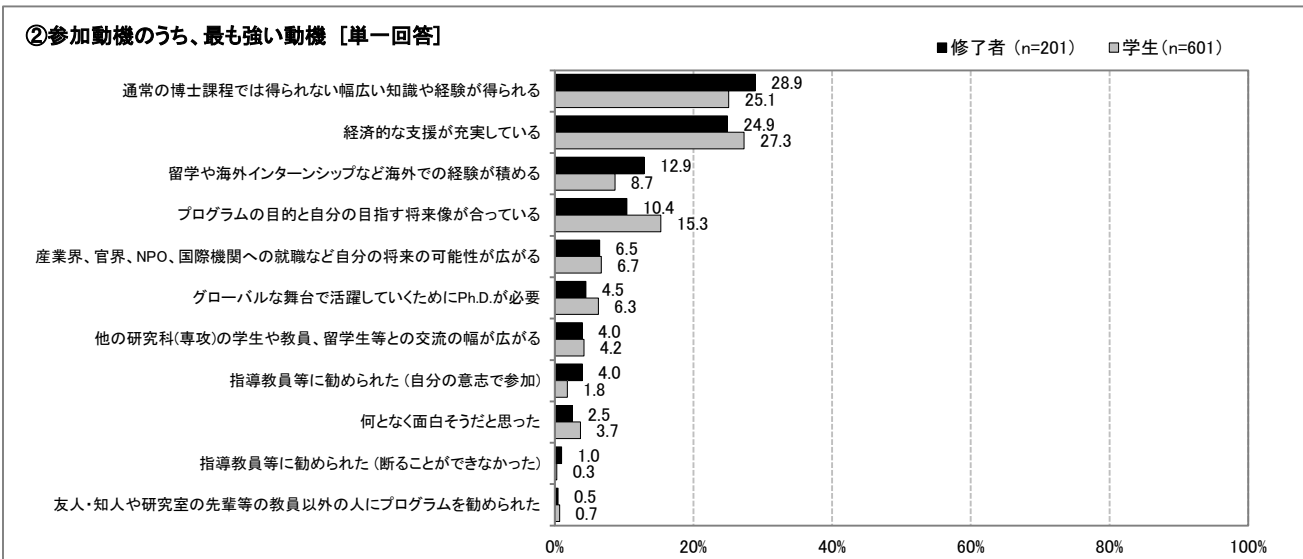
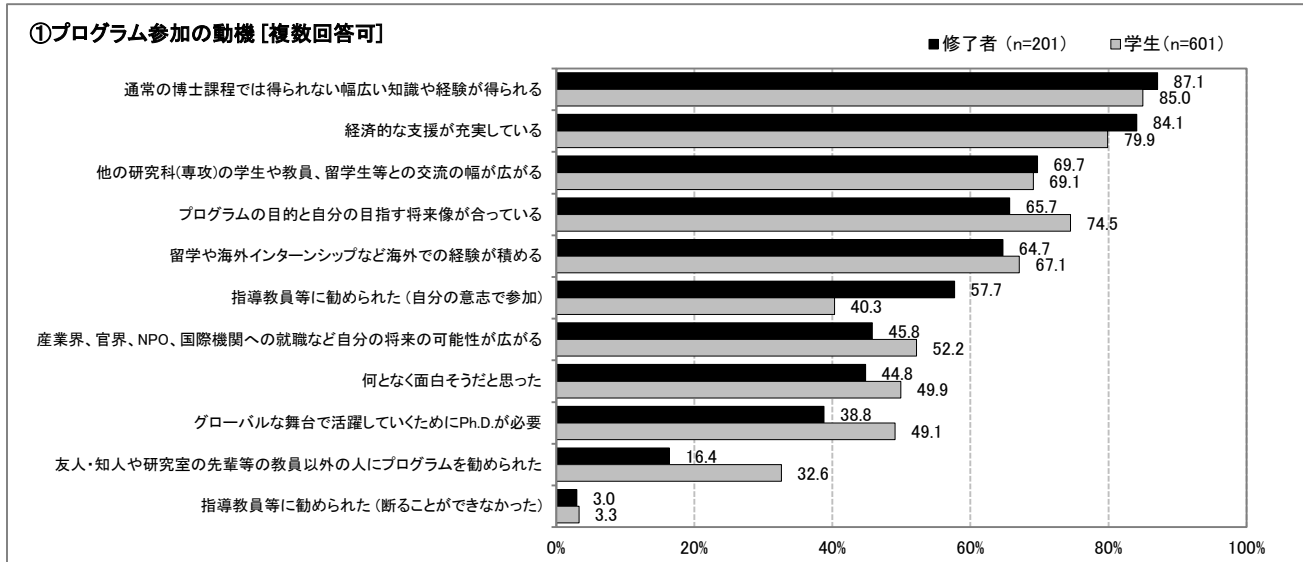


図1 プログラムへの参加動機（上：複数回答、下：単一回答）

修了者については、プログラムに参加した動機（複数選択可）として回答したものがどの程度満たされたかについて聞いている。（図2）

いずれの項目においても、「期待より良かった」、「期待どおりだった」と肯定的な回答した者が70%を超え満足度が高い。特に、「留学や海外インターンシップなど海外での経験が積める」については、95%以上の修了者が肯定的な回答をしており、修了者の満足度が最も高い項目となっている。

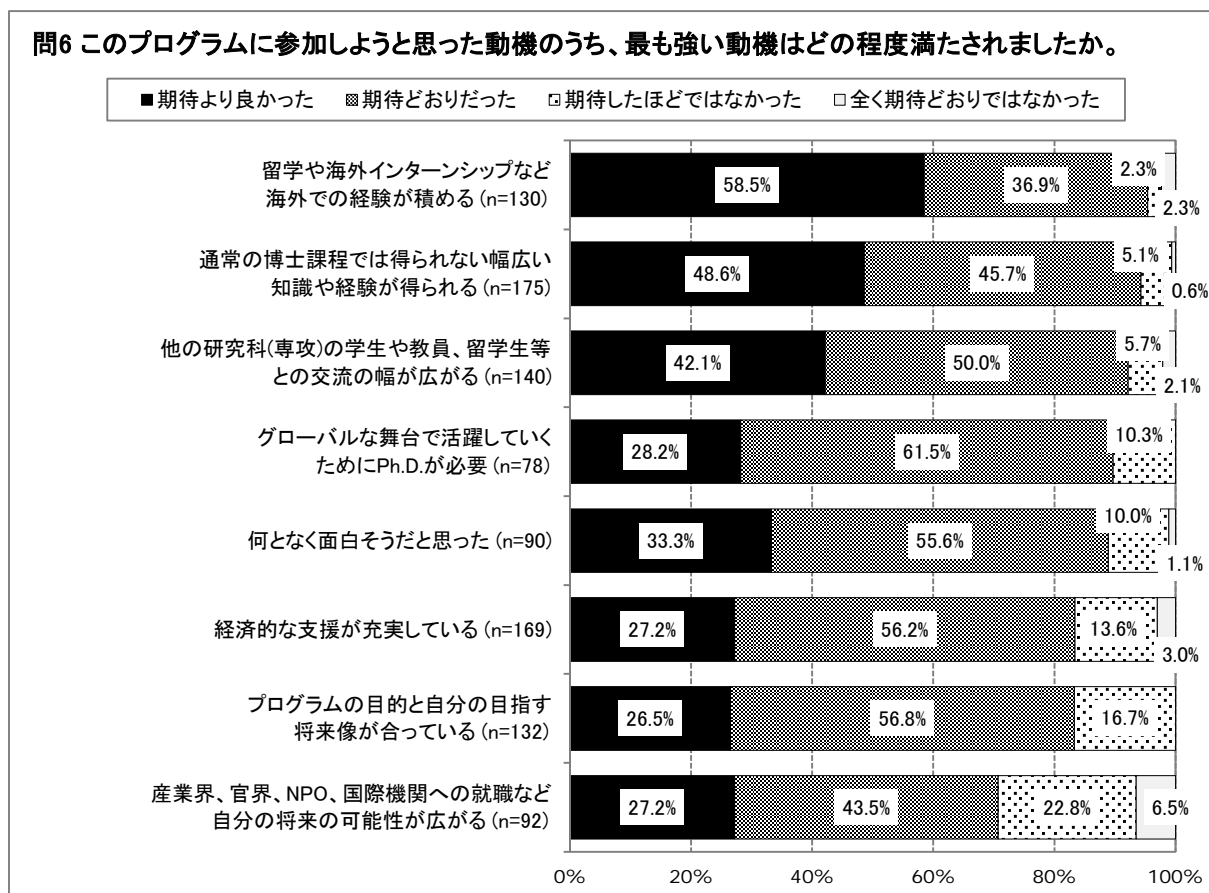


図2 【修了者】プログラムへの参加動機に対する満足度

3. プログラムがなかった場合の最終学位（学生：問6-2）

学生にこのプログラムがなかった場合、どの最終学位を選択していたかについて聞いている。（図3）

「修士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）」、「博士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）」がそれぞれ217名（全体の36%）となっており、特に高い割合を占めている。一方で、約半数の学生が、本プログラムがなかった場合の最終学位を修士以下としており、本プログラムを契機に、博士の学位取得を決意した学生が相当程度いたことがうかがえる。

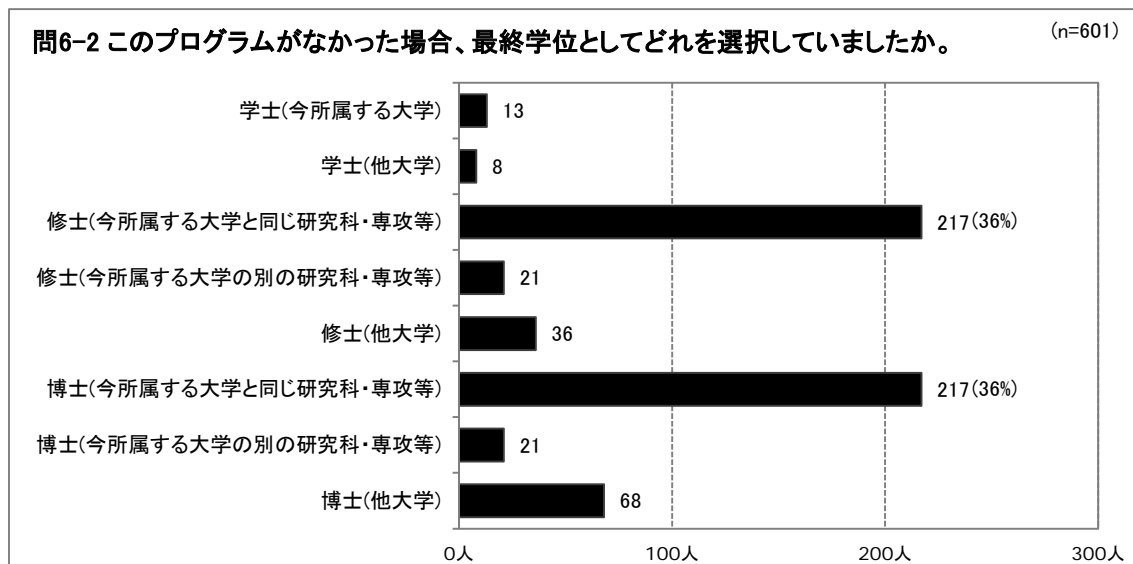


図3 【学生】プログラムがなかった場合の最終学位

4. プログラムに対する評価（修了者：問7、学生：問7）

このプログラムをどのように評価するか聞いている。（図4）

「他の専門分野の学生との交流」、「専門分野以外の幅広い知識や経験」、「専門分野以外の教員との出会い」など、自身の専門分野を超えた交流や知識の取得について 80%以上の修了者・学生が「非常に良い」又は「良い」と肯定的な回答をしている。一方で、「他大学の学生との交流」について肯定的に評価する回答は相対的に低く（修了者 46%、学生 52%）なっている。

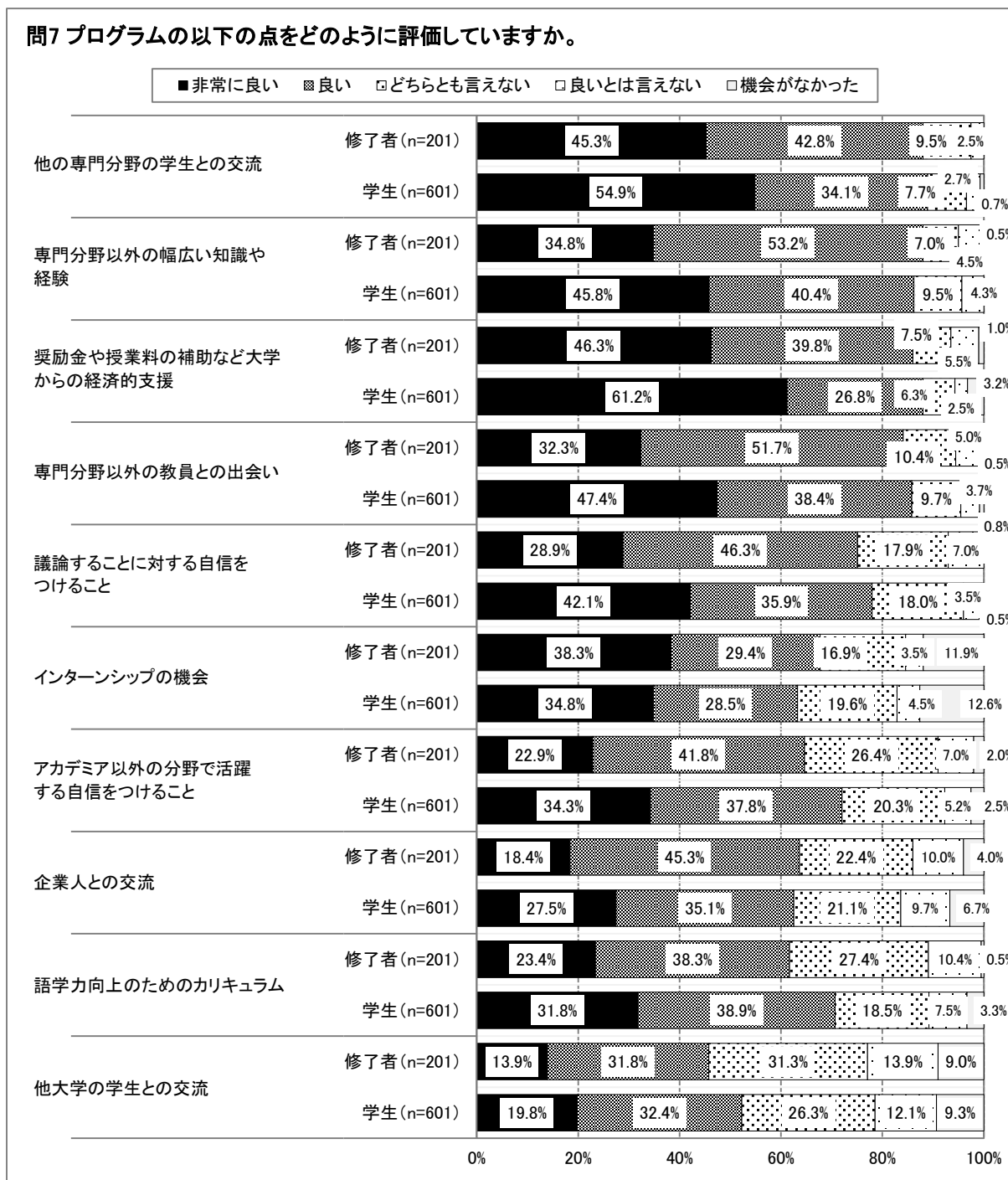


図4 プログラムに対する評価

5. プログラムで受けた指導（修了者：問8、学生：問8）

このプログラムでどのような指導をどの程度受けたか（図5）について聞くとともに、「受けていない」の回答者のうち学生については今後受ける予定があるかどうかを聞いている（図6）。また、受けた場合その指導は有効であったか（図7）についても聞いている。

90%を超える修了者・学生が、「主専攻以外の分野の授業等の履修」、「指導教員以外の教員からの指導」、「プロジェクト形式による授業や課題」を経験している。一方で、「研究室ローテーション」を経験している修了者・学生はそれぞれ60%未満と相対的に低くなっている。

また、それぞれの指導に対する有効性については、いずれも「有効」「ある程度有効」と肯定的な回答した者の合計は概ね80%以上となり、有効性に対する評価は高い。

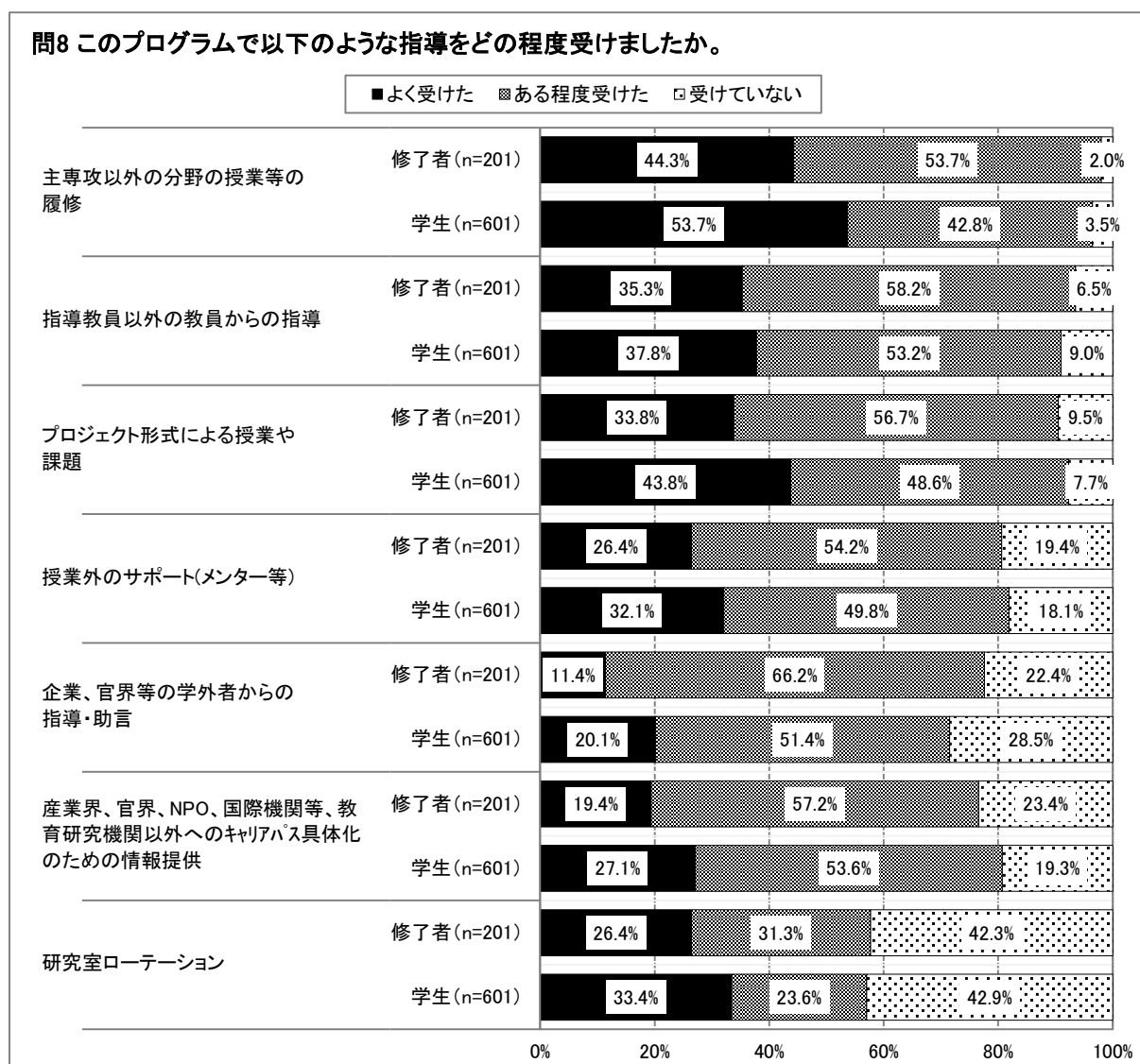


図5 プログラムで受けた指導

< 「受けていない」 を選択した場合のみ回答 > (学生のみ)

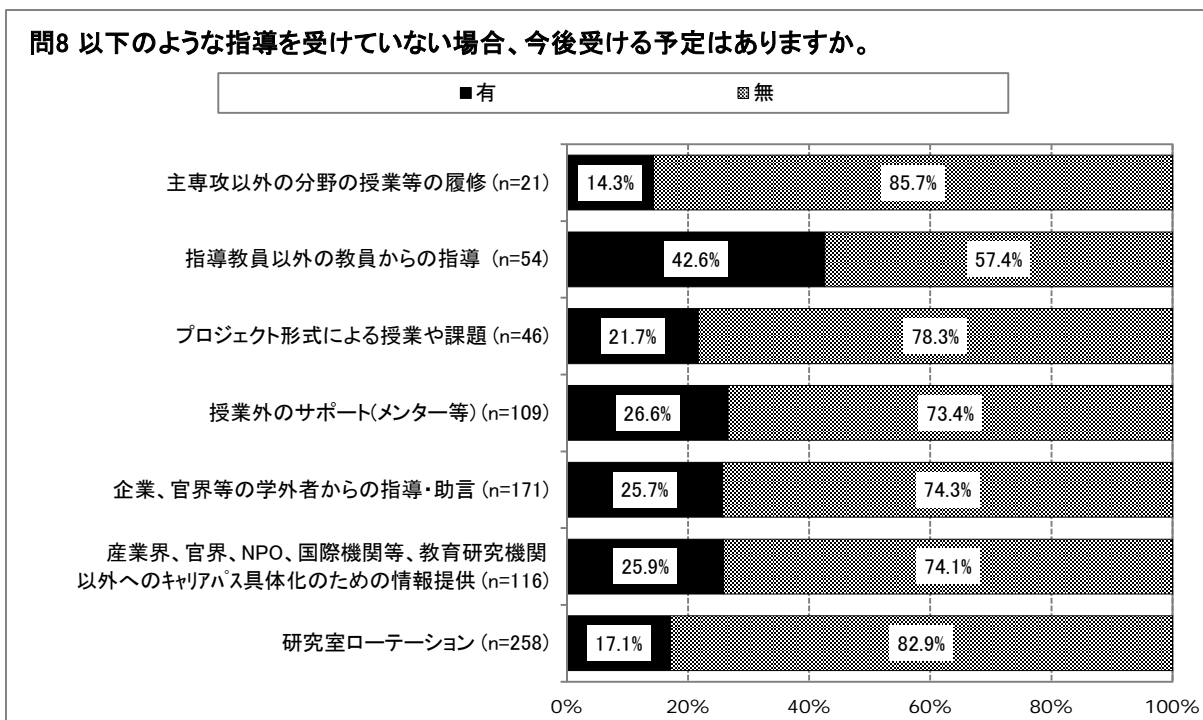


図6 【学生】指導を受けていない場合、今後指導を受ける予定の有無

< 「よく受けた」「ある程度受けた」を選択した場合のみ回答 >

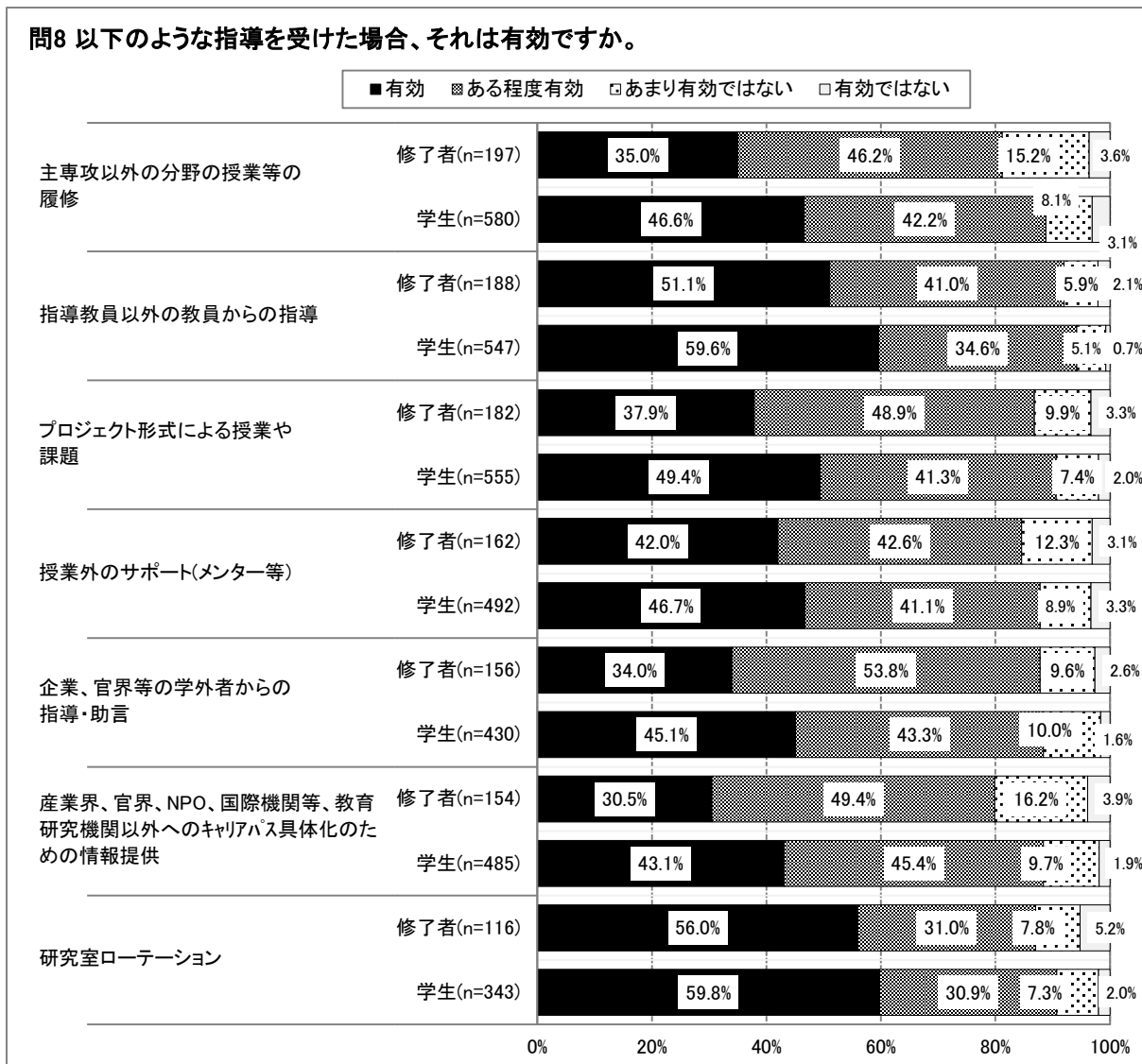


図7 指導を受けた場合の有効性

6. 環境の整備と有効性（修了者：問9A、学生：問9A）

研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され経験しているか（図8）、それが有効か（図9）、について聞いている。

「奨励金や授業料の補助など大学からの経済的支援」については、90%以上の修了者・学生がその整備状況及び有効性に対して肯定的な回答をし、評価が特に高い。その他の「異分野の学生間で切磋琢磨できる環境」、「通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」、「学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会」についても、整備状況やその有効性について、肯定的な意見が80%を超え多数を占めている。

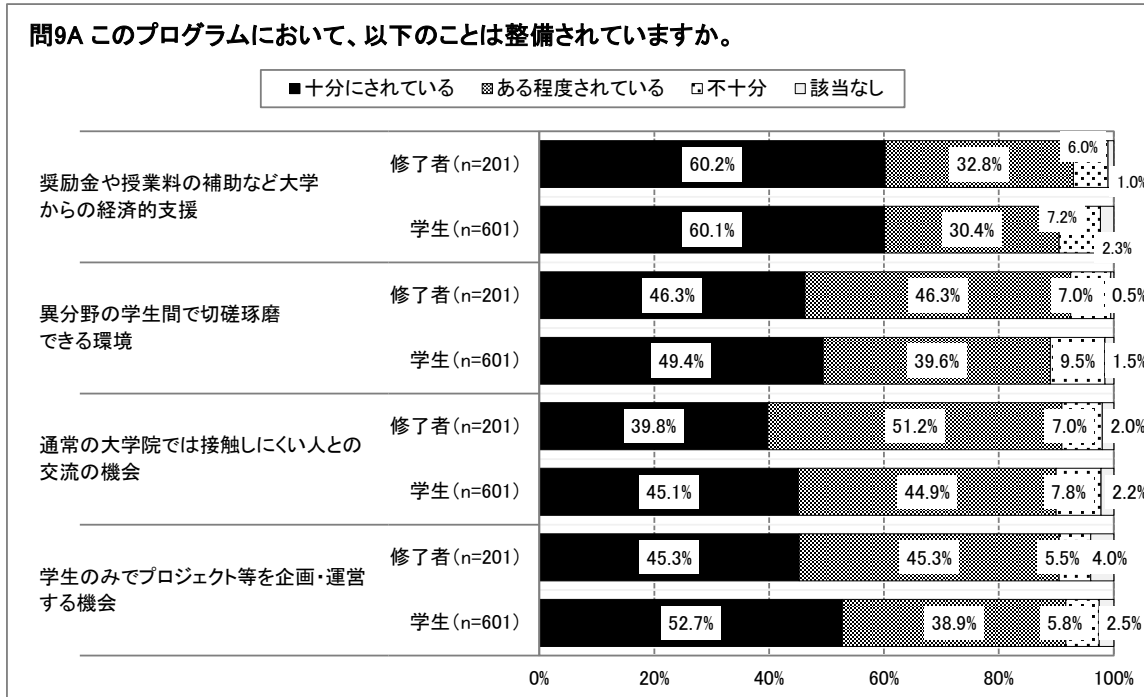


図8 プログラムで整備された環境

< 「十分にされている」「ある程度されている」「不十分」を選択した場合のみ回答 >

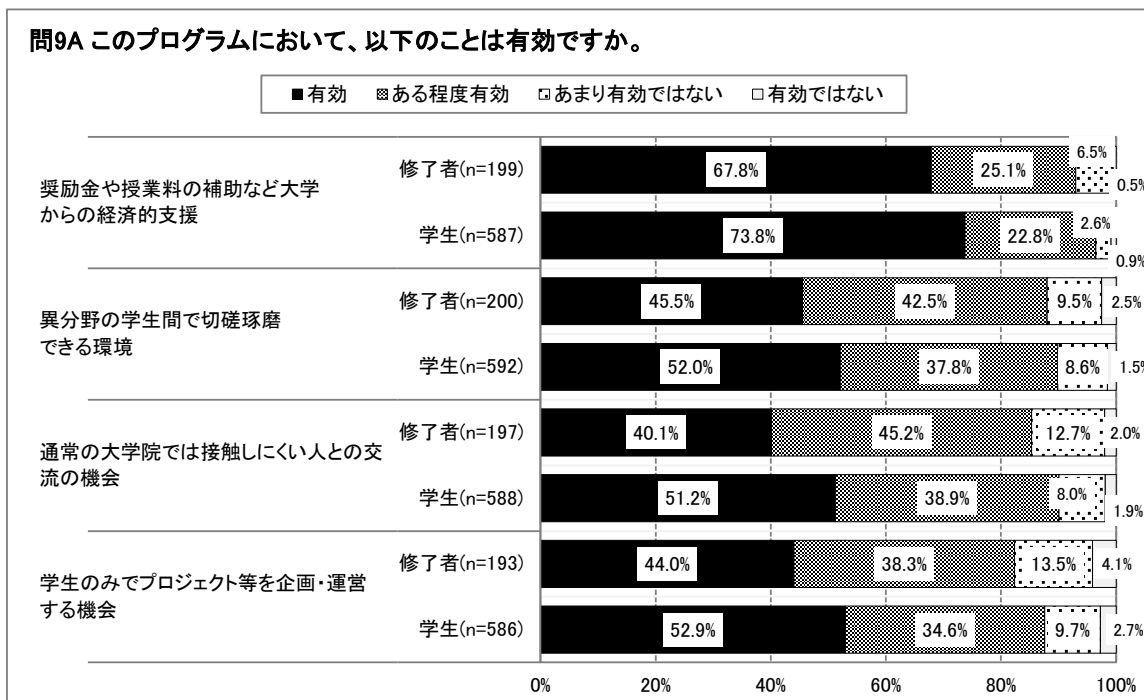


図9 整備された環境の有効性

7. 経験の有無と有効性（修了者：問9B、学生：問9B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図10）、それが有効であったか（図11）について聞いている。

国内外の研修・インターンシップ、留学、その他学外活動のいずれにおいても、「参加した」又は「これから参加」と回答した学生が一定数おり、実際に活動に参加した修了者・学生の90%以上が、いずれの項目についても「有効」又は「ある程度有効」であると回答している。

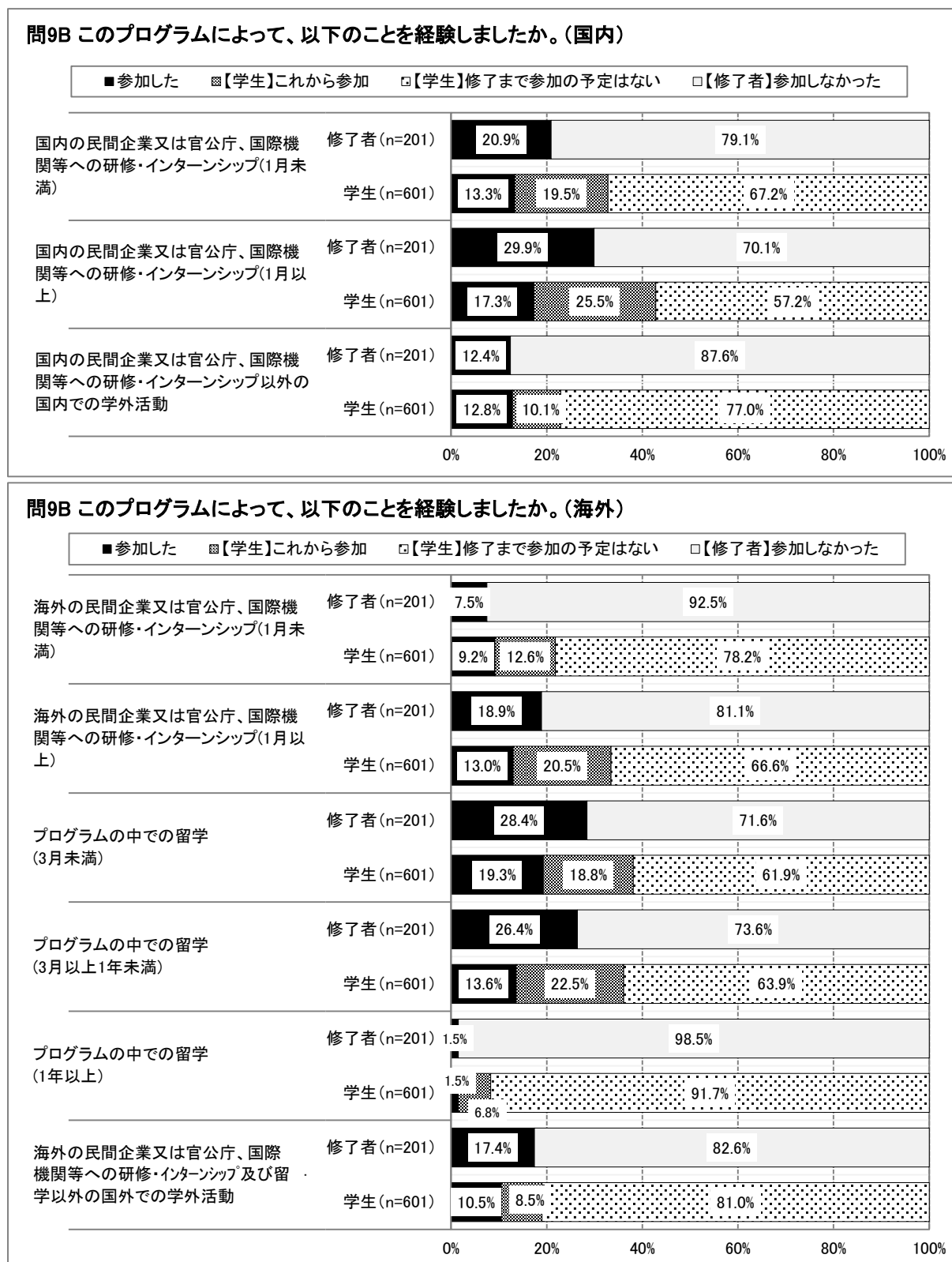


図10 プログラムでの経験

<「参加した」を選択した場合のみ回答>

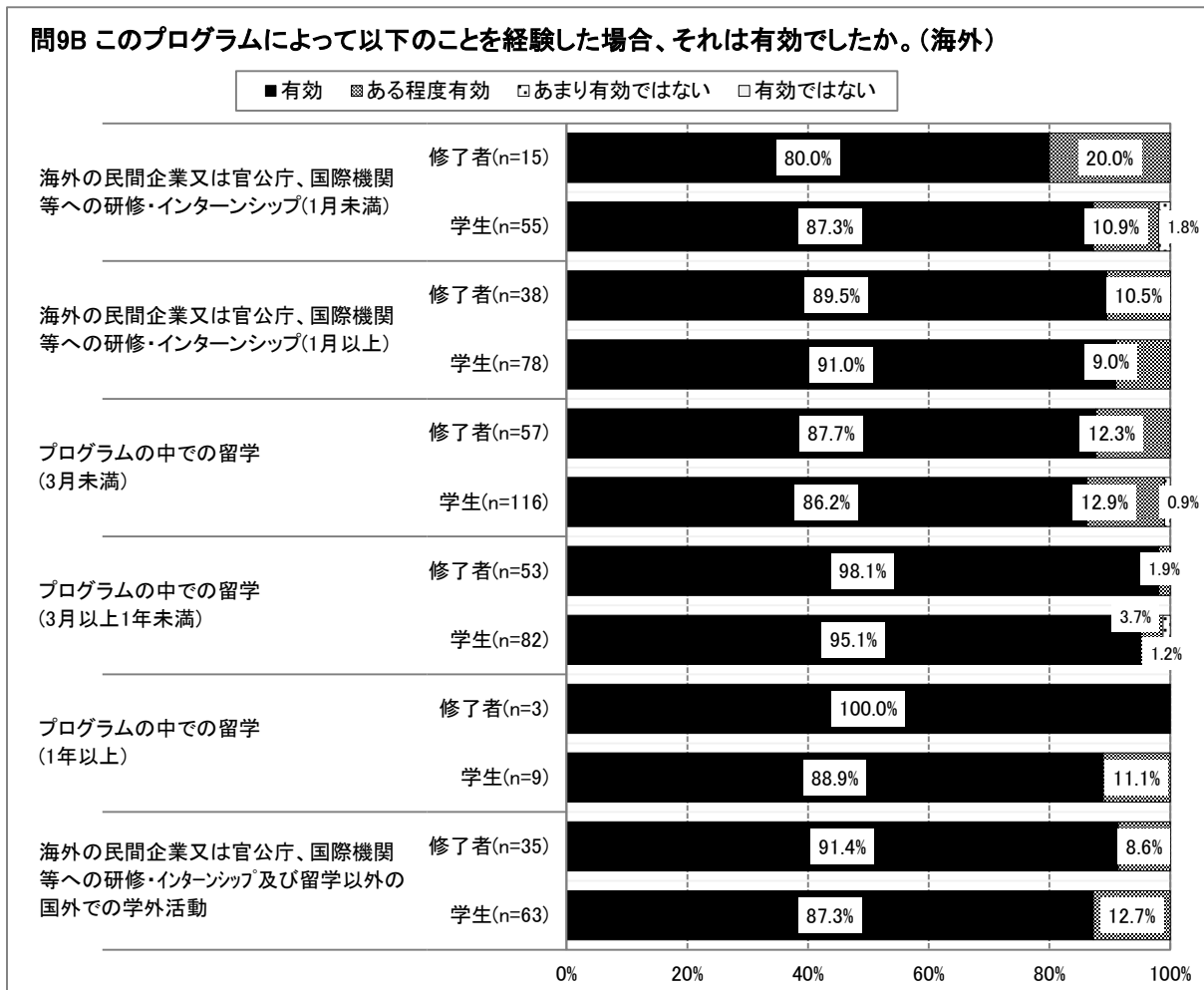
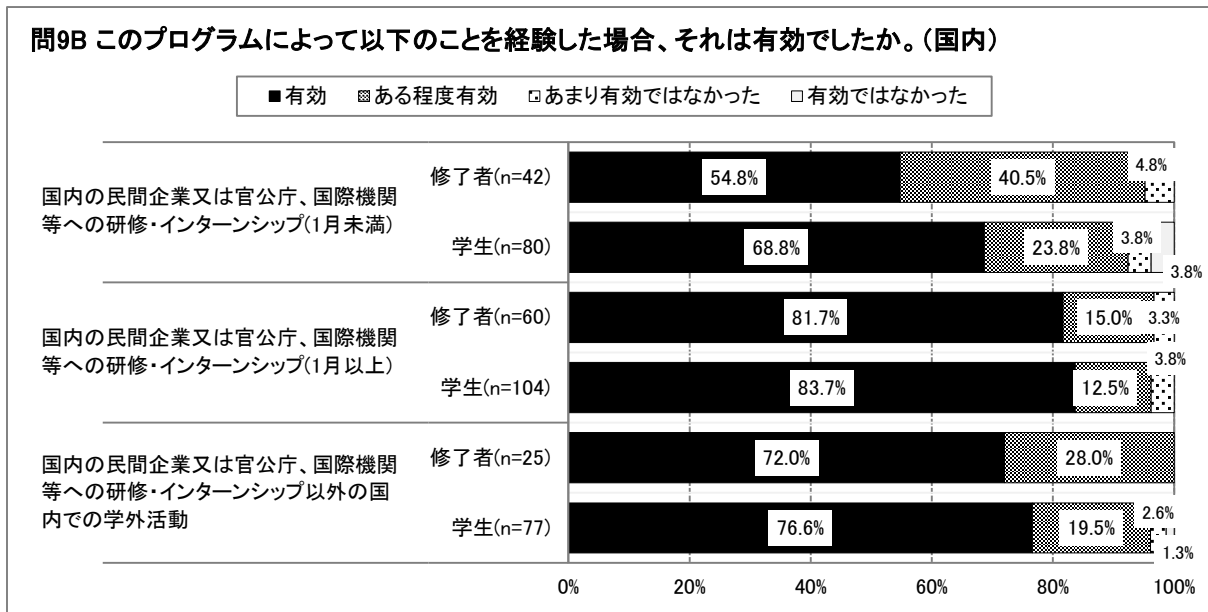


図 11 プログラムでの経験の有効性

8. 身に付いた能力（修了者：問10、学生：問10）

プログラムに参加することにより身に付いた能力（図12、13）を聞いている。

学生、修了者共に、本プログラムに参加する前から有していた能力として、「他者と協働する力」、「プレゼンテーション能力」、「高度な専門的知識・研究能力」と回答する割合が多い。プログラムに参加することによって、「専門以外の分野の幅広い知識」、「高い国際性」、「高度な専門的知識・研究能力」、「ディスカッション能力」については、90%以上の修了者・学生が「向上した」又は「ある程度向上した」と肯定的な回答をしている。その他の能力も、その割合が75%以上となっており、修了者・学生は総じて能力の伸長を実感している。

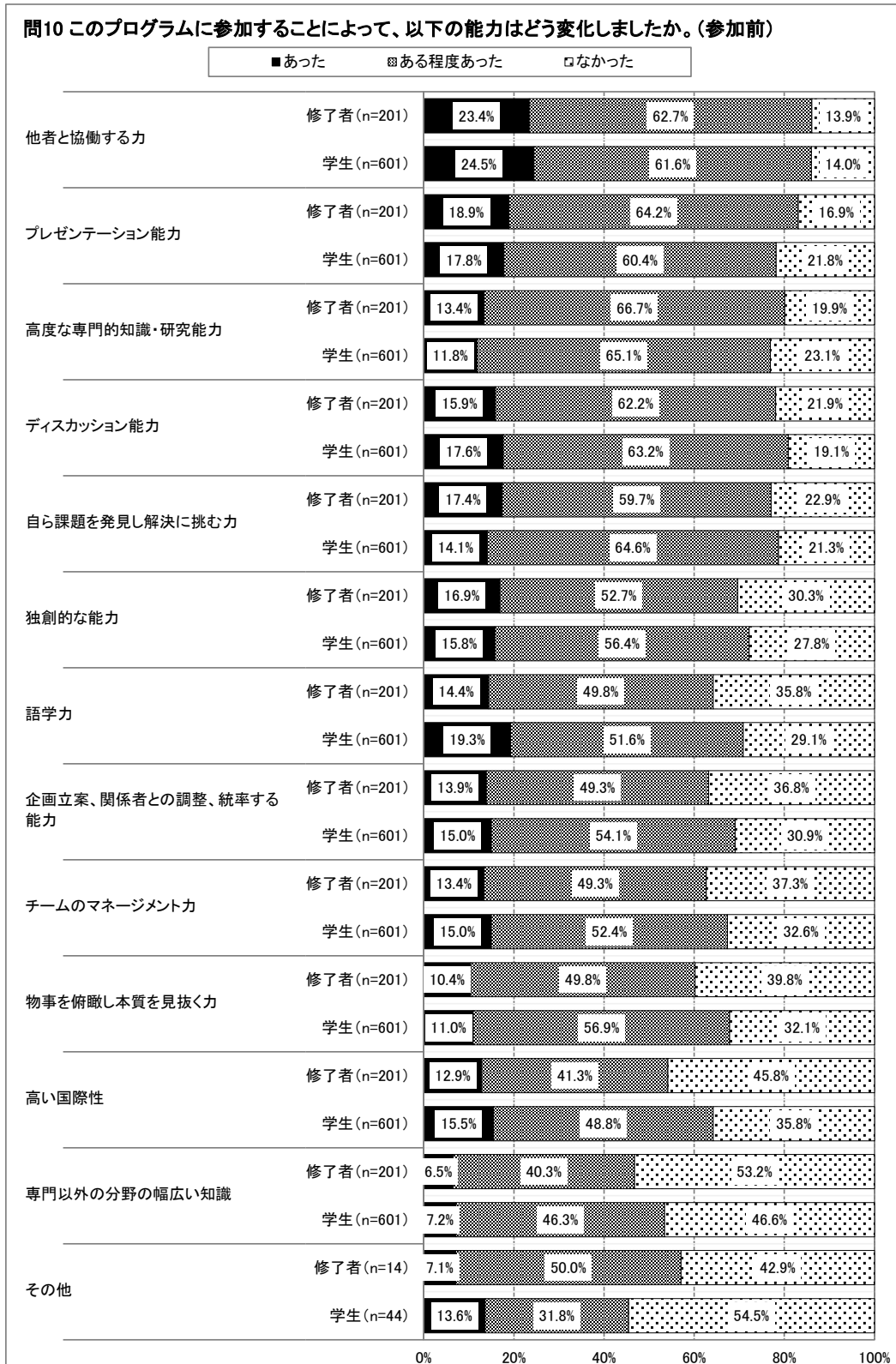


図12 プログラム参加前の能力

問10 このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。(参加後)

■ 向上した ▨ ある程度向上した □ 変化なし

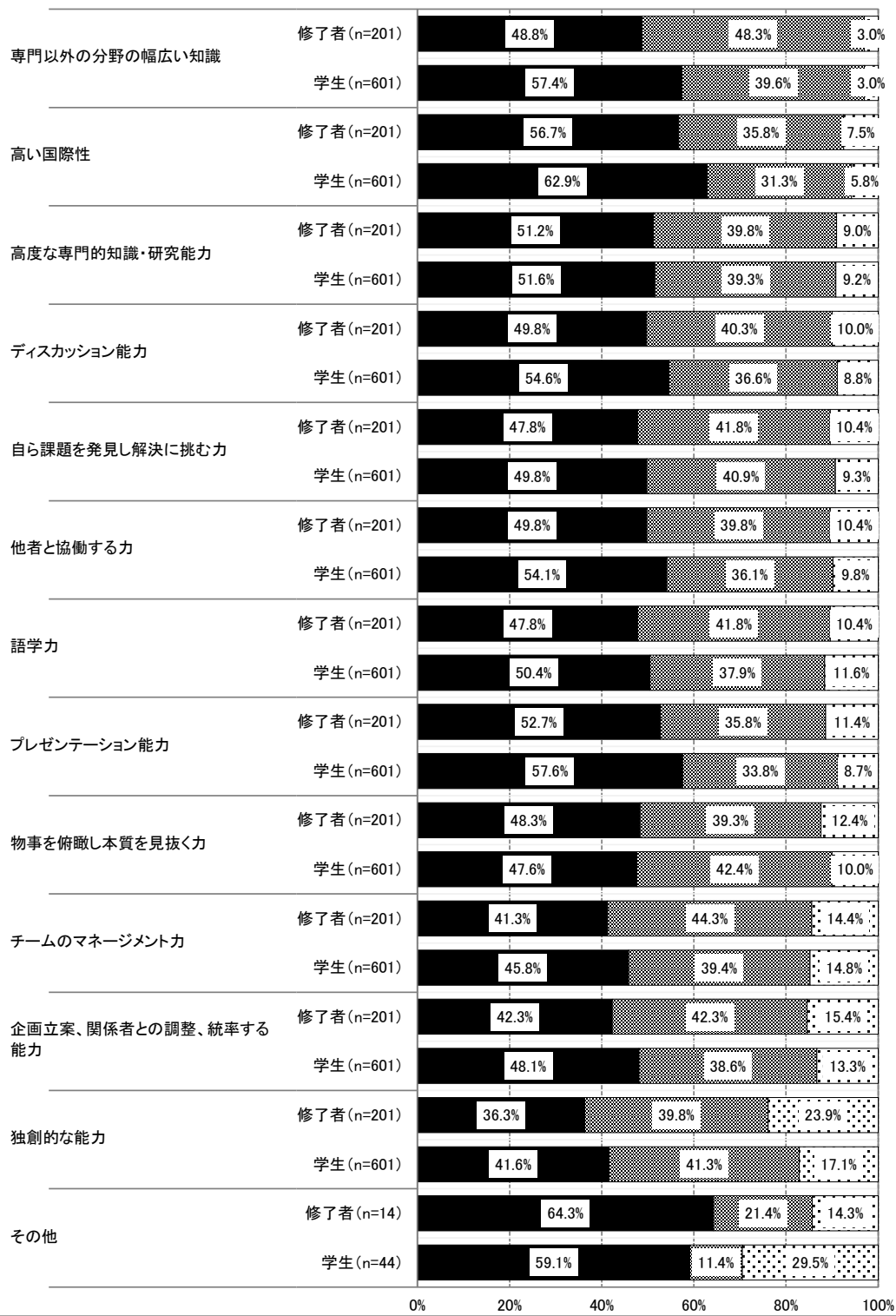


図 13 プログラム参加後の能力

9. 教員の理解度等（学生：問11）

学生にプログラムに実際に参加している教員や、プログラムに参加していない周囲の教員等のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する印象を聞いている。（図14）

「指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等」の理解や協力、「プログラムに参加する教員の間」での理解の共有については肯定的な意見が70%を超えている。一方で、一部の教員への負担の集中については、「非常にそう思う」又は「そう思う」の割合が67%となっており、一部の教員に負担が集中している傾向が見られる。

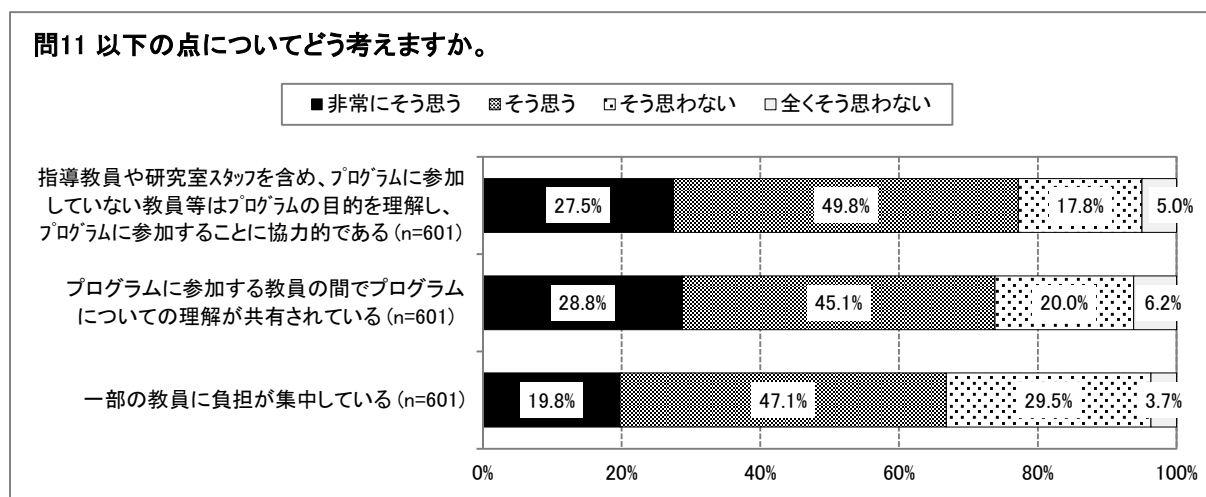


図14 【学生】教員の理解度等

10. プログラムの効果・負担（修了者：問11、学生：問11）

学生にプログラム参加による研究面やキャリア面での効果、また負担について聞いている。（図15）

修了者・学生ともに80%以上が「後輩にもこのプログラムを勧めたい」、「学術研究だけではなく、産業界や官界、NPO、国際機関等で活躍する人材を育成する可能性が大きい」について肯定的な回答をしている。「修了後の進路」への不安については、肯定と否定で回答がほぼ半数ずつに分かれており、「非常にそう思う」及び「全くそう思わない」の回答も一定数見られることから、学生によってややばらつきがあると言える。また、「所属研究室において自分の専門的な研究を進めて、業績をあげる」ことについては、学生の半数が不安を抱いているものの、修了者の78%が「業績をあげられた」と回答しており、修了者と学生で違いが見られる。また、「所属研究室での指導とこのプログラムでの指導」による二重負担を感じている学生は、修了者と比較して10%程度低くなっており、二重負担に対する改善が見られる。

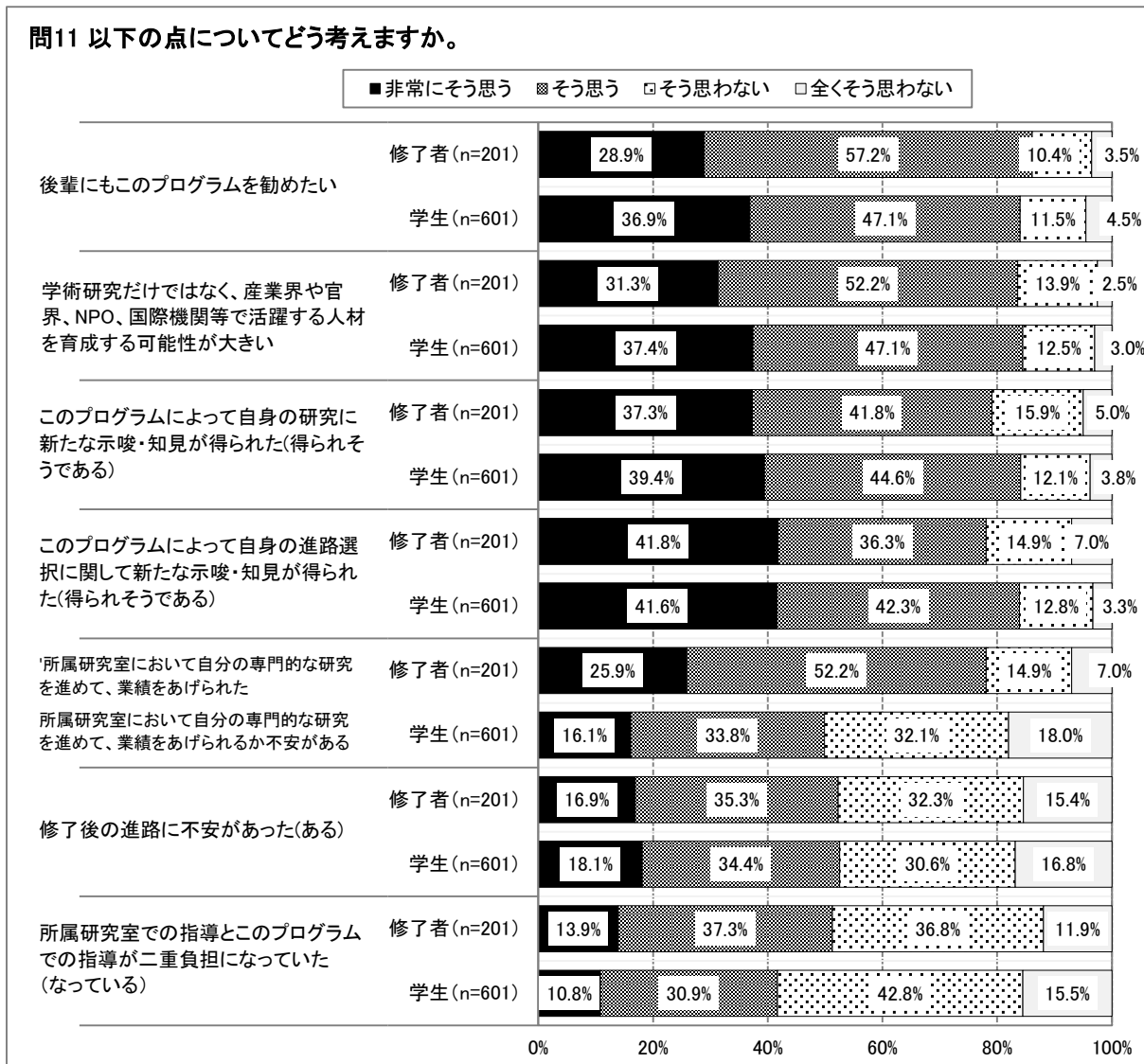


図15 プログラムの効果・負担

11. 修了後の進路（修了者：問12、学生：問12）

修了者に対しては、大学院入学時及び今後の希望（ある場合のみ）、プログラム修了時とアンケート回答時点（平成31(2019)年4月1日時点（現在））の状況について聞いている。学生に対しては、大学院入学時及びアンケート回答時点（平成31(2019)年4月1日時点（現在））の希望、及び決定した進路について聞いている。（図16～図22）

修了者については、大学院入学時及び今後の希望としては、いずれも「民間企業」、「大学（海外を含む）」、「その他公的研究機関（海外を含む）」の研究職を選択する者が多い点は両時点で共通するが、大学院入学時では4番目に回答の多かった「ポスドク」の26%が、アンケート回答時点では10%と半数以下になっている。一方で、大学院入学時に比較的选择した者が少なかった、「起業」、「NPO、NGO等」を選択した者と、アンケート回答時点で今後の希望として選択した者との比較では、「起業」は10%から24%、「NPO、NGO等」は3%から8%といずれも2倍以上に増加している。このことから、企業・大学・公的研究機関の研究職を希望する者は多いものの、プログラム及び修了後の経験から、当初には選択肢としなかった進路も希望するように変化していることがうかがえる。また、修了時及びアンケート回答時点の進路状況では、半数を超える修了者が、民間企業や官公庁等、アカデミア以外の様々な進路で活躍している。

学生については、大学院入学時及びアンケート回答時点の希望として、「民間企業」、「大学（海外を含む）」、「その他公的研究機関（海外を含む）」、「ポスドク」の研究職を選択した者が多く、調査の時点によって全体的な傾向に大きな差は見られないが、起業を希望する学生は入学後に10%増加している。また、入学時と比較して、アンケート回答時点においては全ての項目について回答者の割合が増加していることから、学生の選択肢が多様になりつつあることがうかがえる。

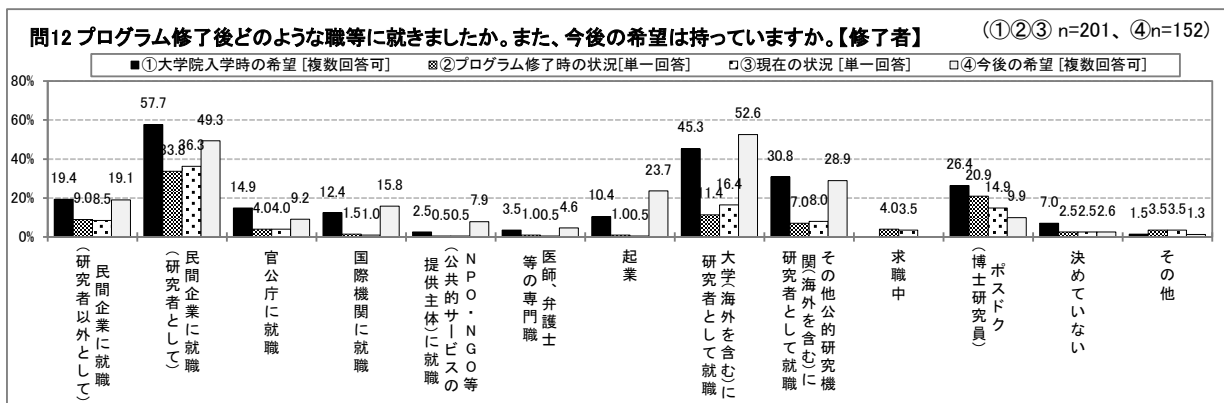


図16 【修了者】①大学院入学時の希望、②プログラム修了時の状況、③現在（平成31(2019)年4月1日）の状況、④今後の希望の比較

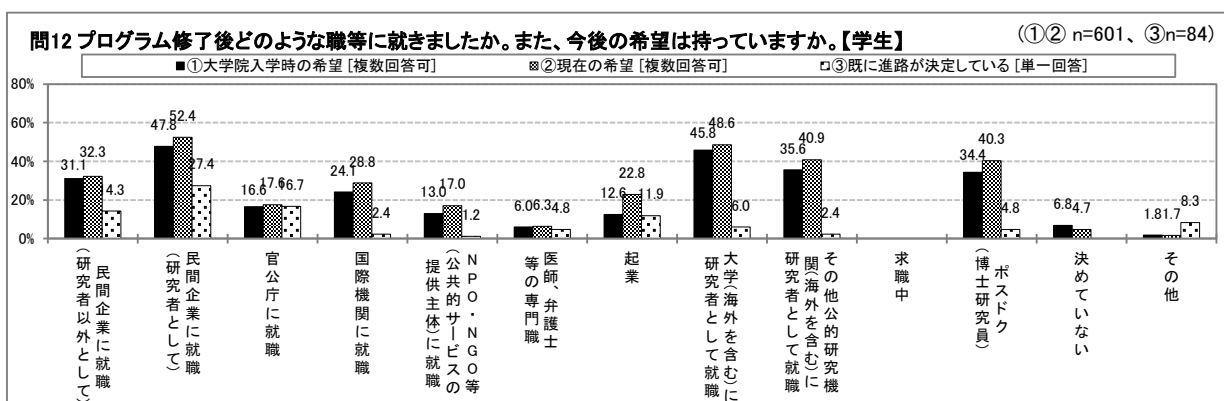


図17 【学生】①大学院入学時の希望、②現在（平成31(2019)年4月1日）の希望、③進路決定済みの比較

修了者の進路状況を以下に示す[プログラム修了時及び現在(平成 31(2019)年 4 月 1 日時点)]。

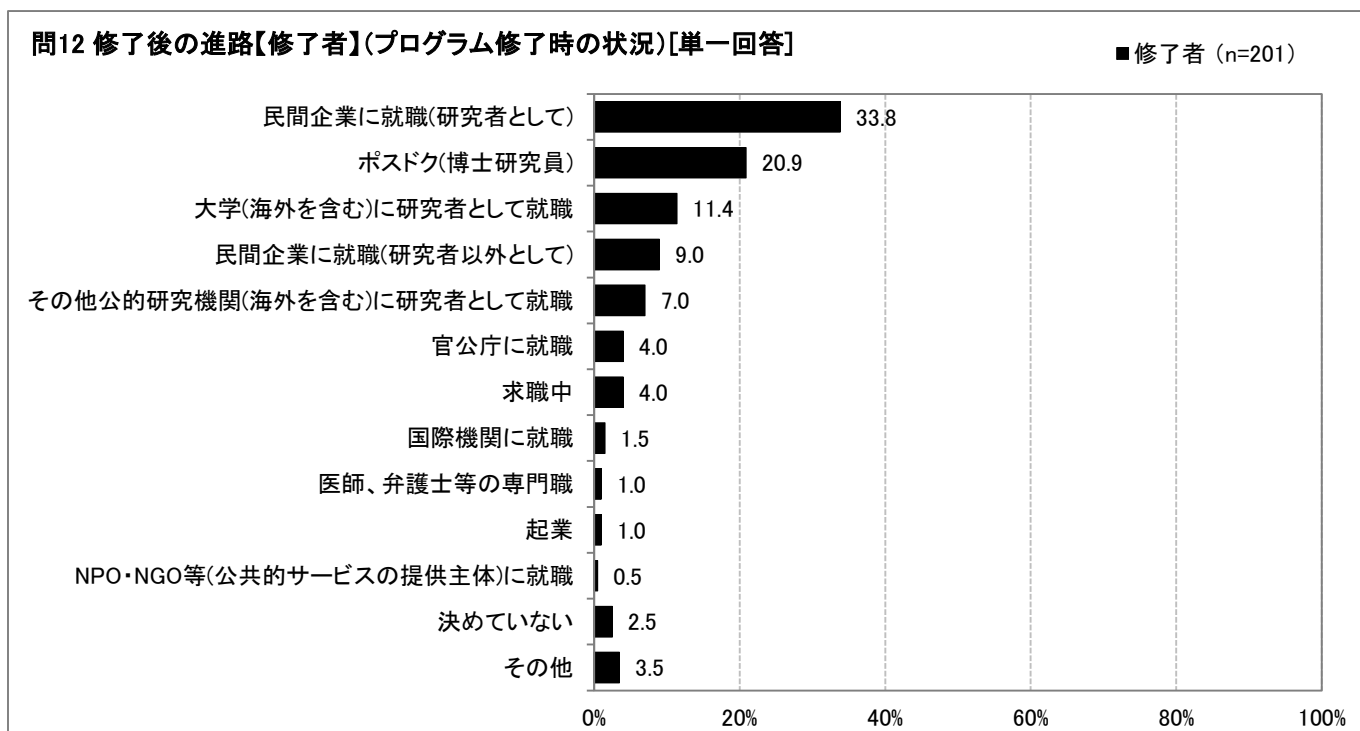


図 18 【修了者】プログラム修了時の進路状況

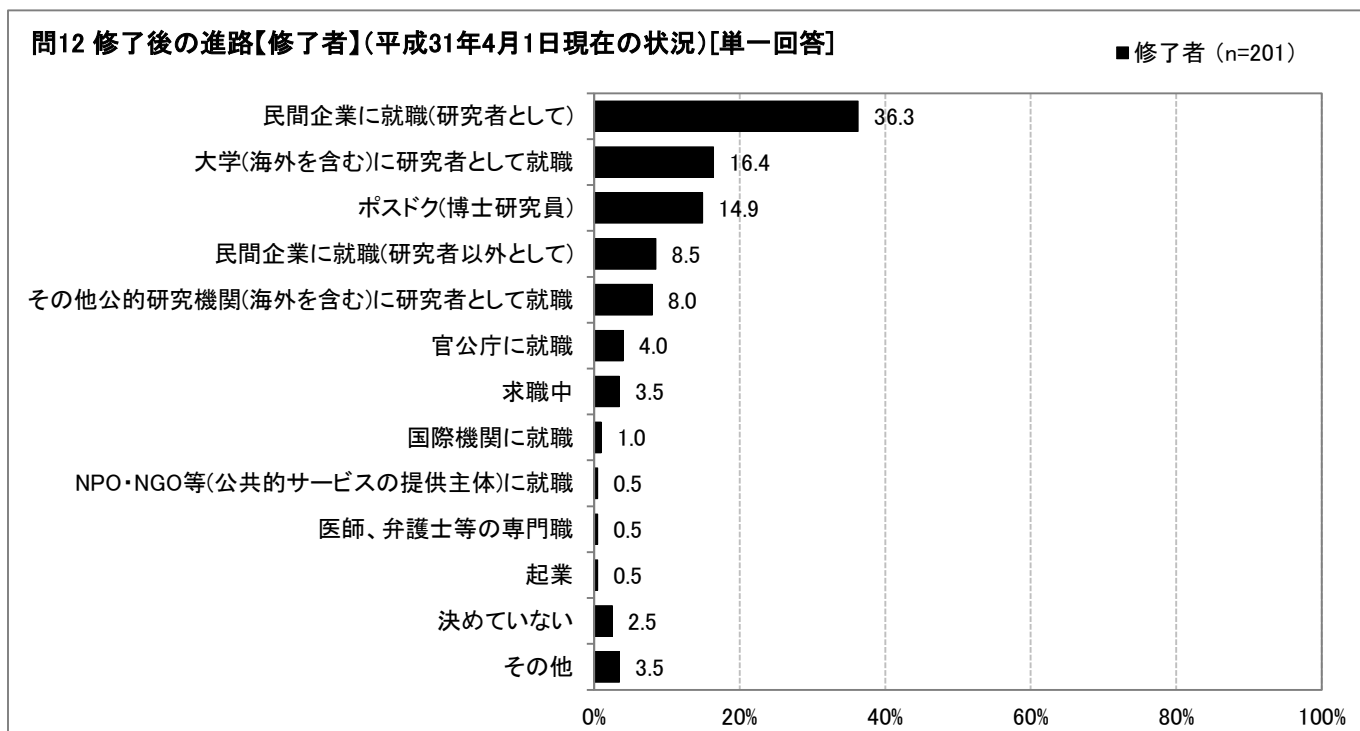


図 19 【修了者】現在(平成 31(2019)年 4 月 1 日)の進路状況

学生のうち、既に進路が決定している場合の進路を下記に示す。

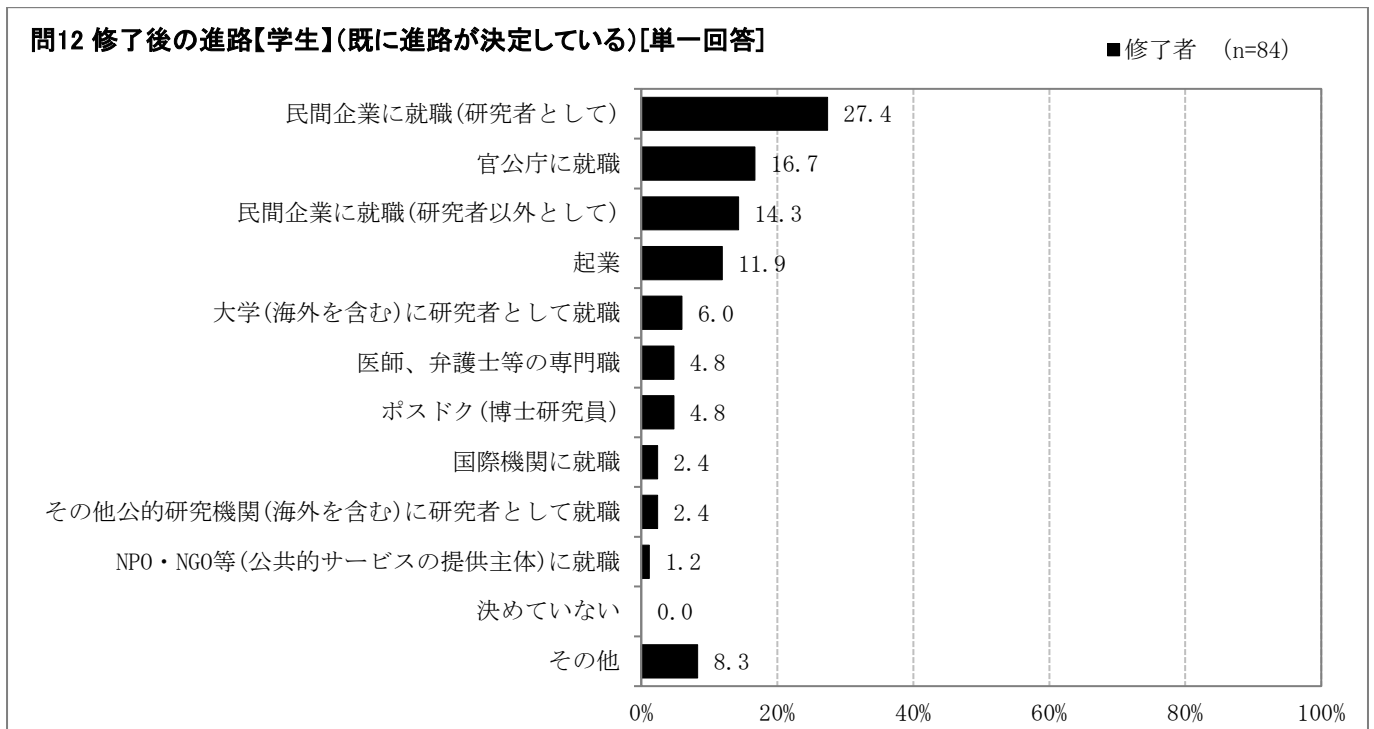


図 20 【学生】既に決定している進路

修了者、学生について、入学時及び現在（平成 31(2019)年 4 月 1 日時点）の進路の希望を下記に示す。

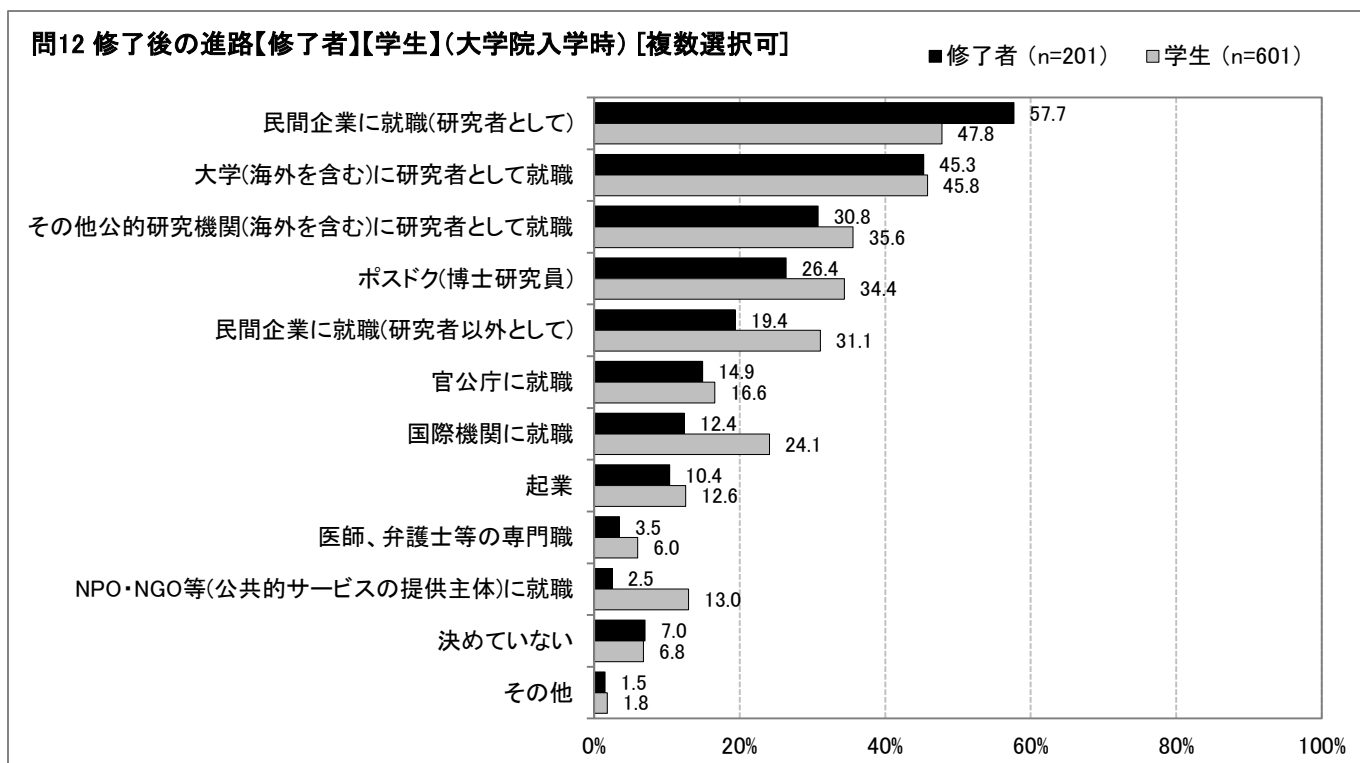


図 21 大学院入学時の進路の希望

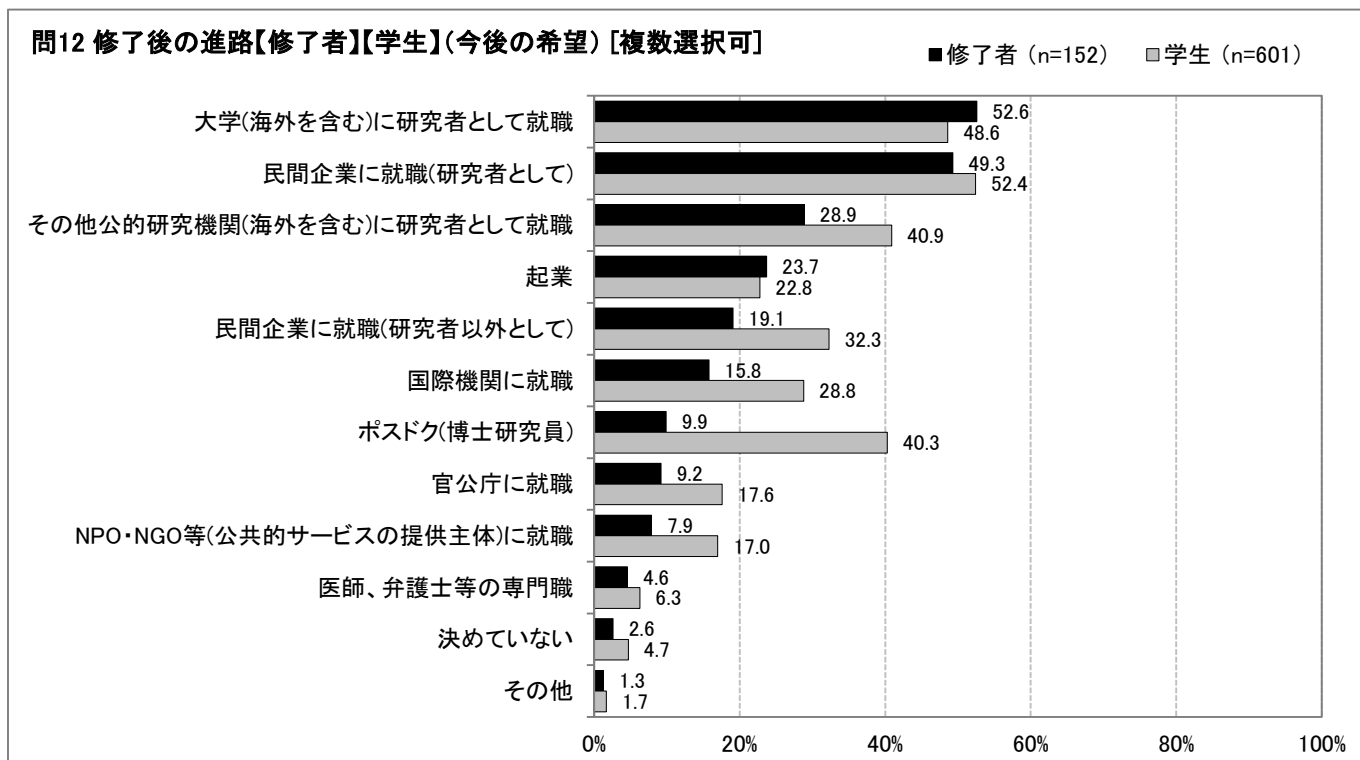


図 22 【修了者】今後の進路の希望、【学生】現在（平成 31(2019)年 4 月 1 日）の進路の希望

12. 居住国及び今後の希望（修了者：問13、学生：問13）

居住国についての現在及び今後の希望について聞いている。（図23）

修了者の現状及び修了者・学生の今後の希望のいずれも、「日本」と回答する者が最も多い点は共通しているが、今後の希望について、半数の修了者は「日本あるいは母国以外の外国」と回答し、学生でも37%となっている。前述「8.身に付いた能力」における「高い国際性」の向上も背景にあり、海外に進出する意欲が高まっており、グローバルに活躍するリーダーの育成という本プログラムの趣旨に適っていることがうかがえる。

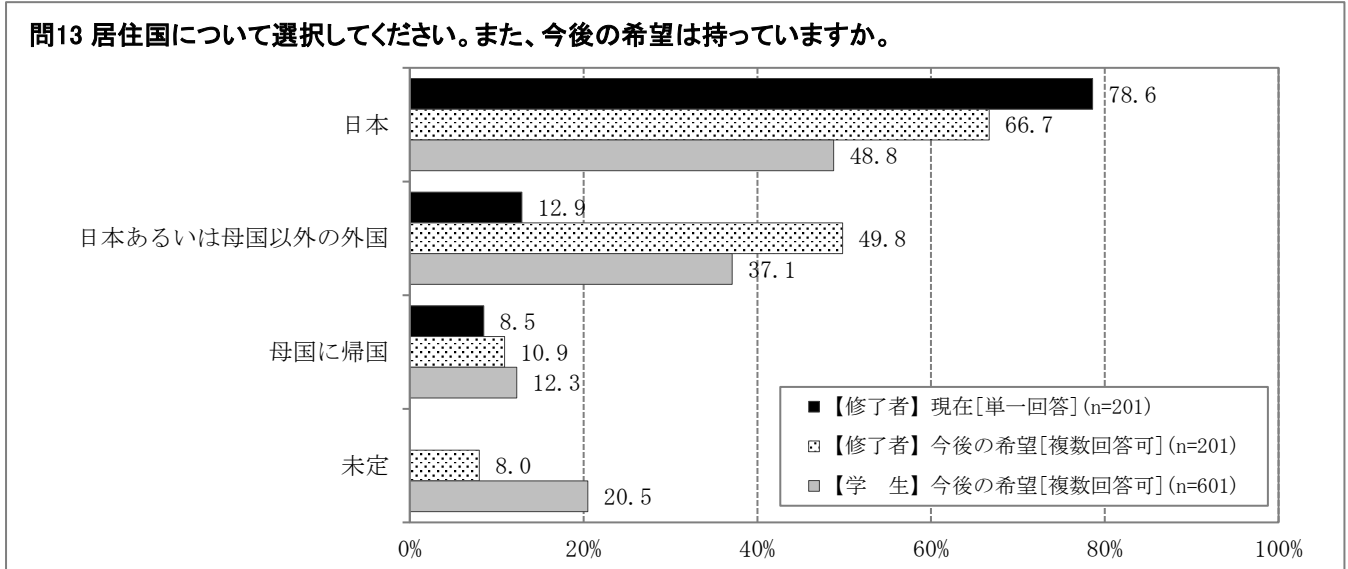


図23 【修了者】現在の居住国と今後の希望、【学生】居住国の今後の希望

13. プログラム情報の獲得方法（修了者：問17、学生：問17）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答を選択した人数を掲載する。なお、本項目は任意回答としている。（図24）

修了者と学生で「学内の友人・知人」の選択率の差が顕著で、修了者が33名（17%）、学生が241名（41%）となっていることから、プログラムの成熟につれ、学生同士のやりとりが大きな役割を果たしていることがうかがえる。また、修了者では「プログラム担当者の教員」、「大学で行われた説明会・シンポジウム等」の2項目が他の項目よりも比較的に多い一方で、学生では「大学で行われた説明会・シンポジウム等」、「学内の友人・知人」、「プログラム担当者の教員」、「参加プログラムのウェブサイト」、「参加プログラムのリーフレット等」の5項目などが比較的に多いことから、プログラムへの入学希望者がプログラムを認知する機会が多様化していると言える。

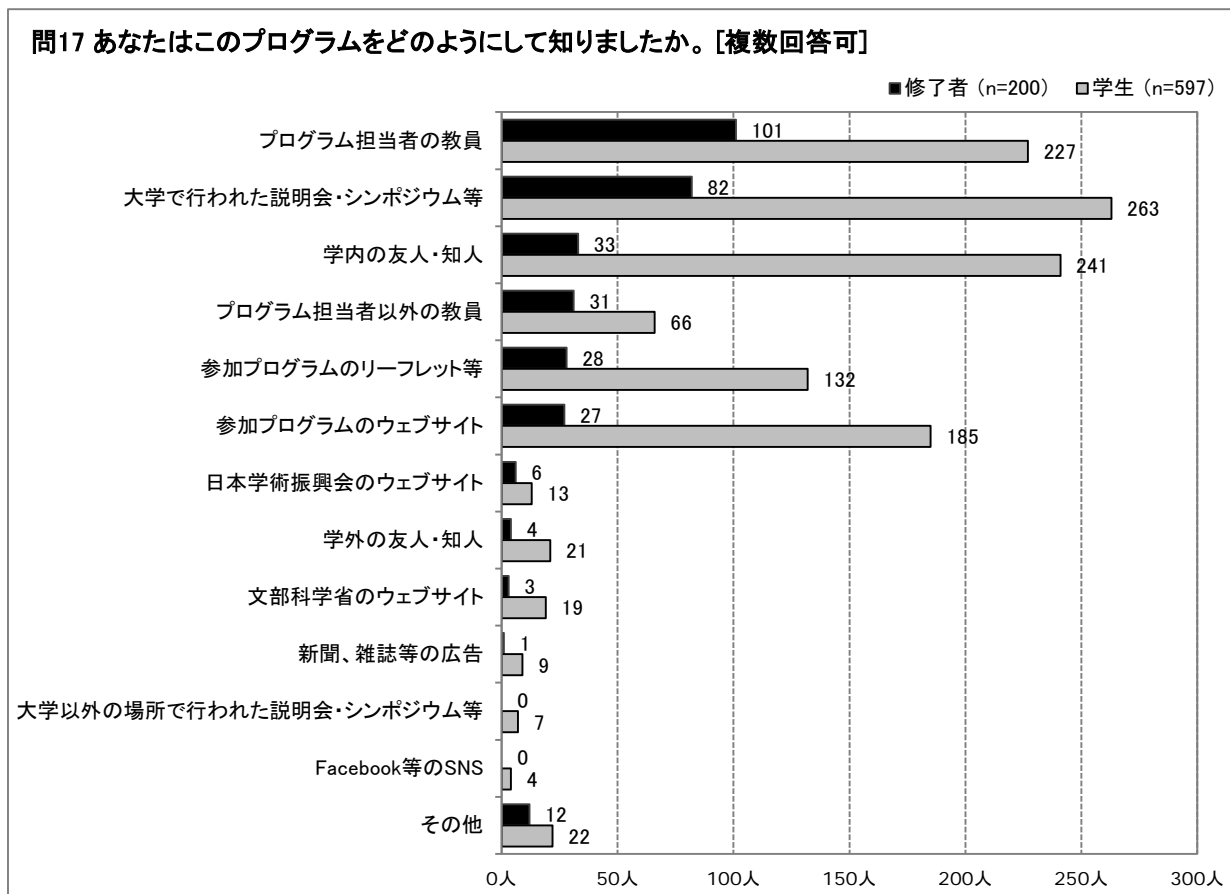
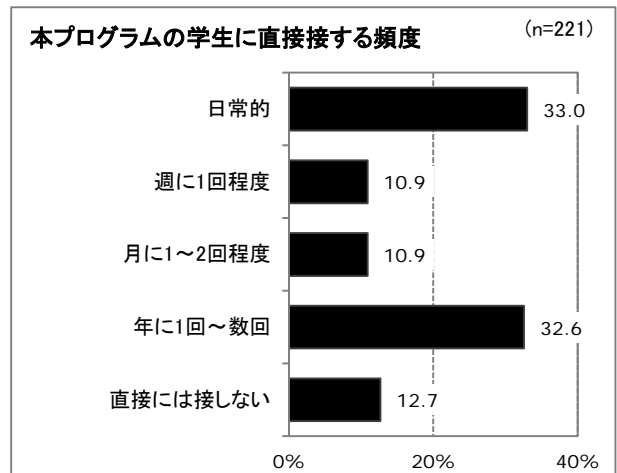
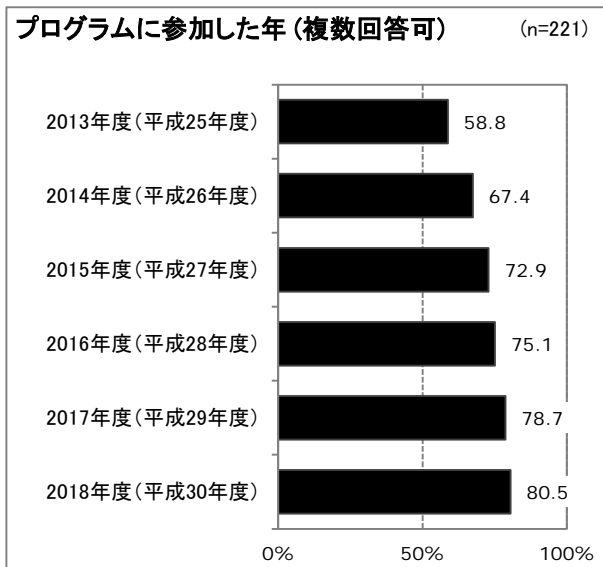
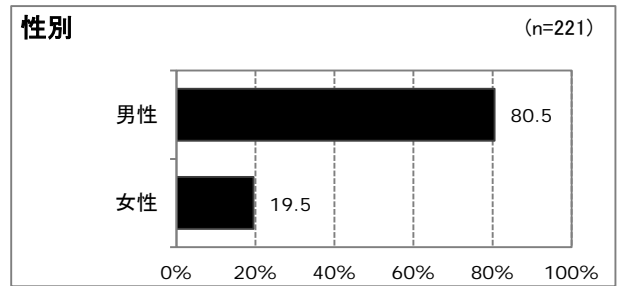
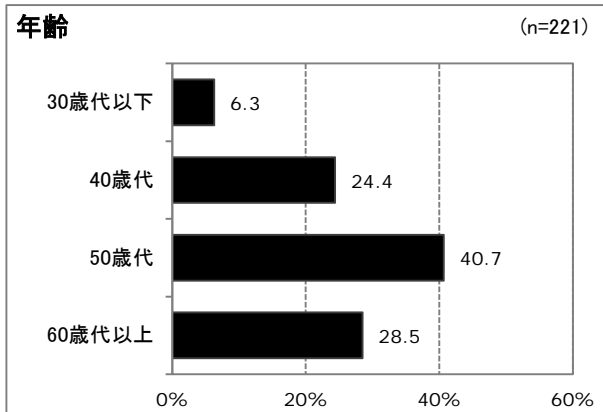


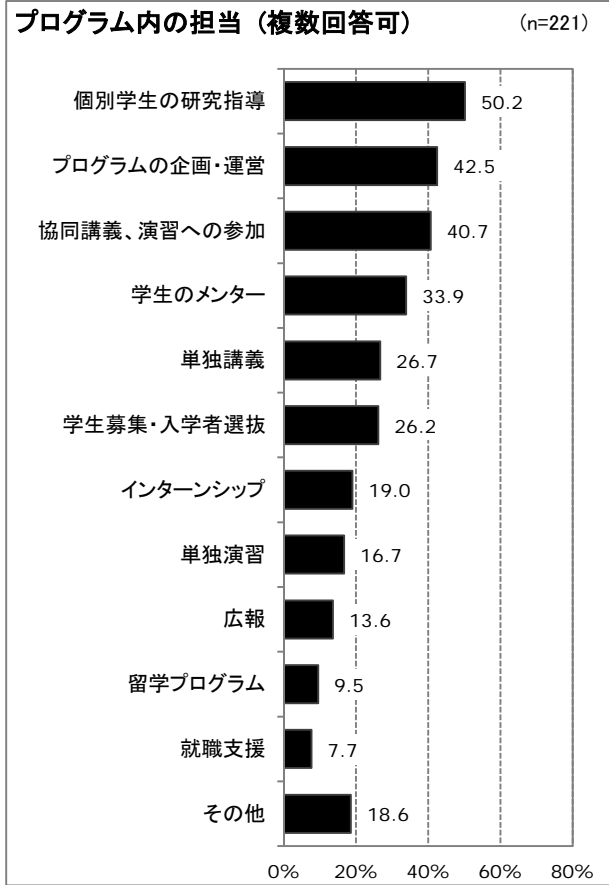
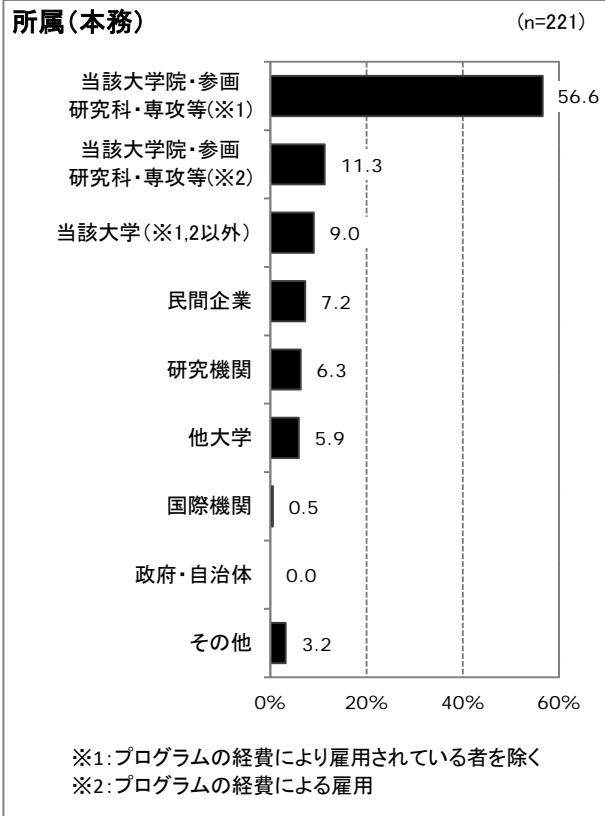
図24 プログラム情報の獲得方法

第2部 プログラム担当者アンケート調査結果

1. 回答したプログラム担当者の属性（問2, 3, 4）

本項目ではアンケートに回答したプログラム担当者の属性について、各回答を選択した割合を掲載する。





2. プログラムへの関与（問3）

プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤または非常勤の者（以下、「プログラム担当者」）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、平成30(2018)年度の実績としてのエフォートを聞いている。（図25）

平成30(2018)年度の実績においては、エフォート「1割未満」とするプログラム担当者が55%となっており、「1割以上2割未満」とするプログラム担当者と合計すると、77%がエフォート2割未満でプログラムに関与している。その割合は、プログラム申請時より高くなっている。一方で、本プログラムに7割以上のエフォート率で本プログラムに関与する教員の割合も、プログラム申請時と平成30(2018)年度の実績では、3%から12%となっていることから、当初の想定を超えて特定の教員がプログラムの運営を担っている側面があると言える。

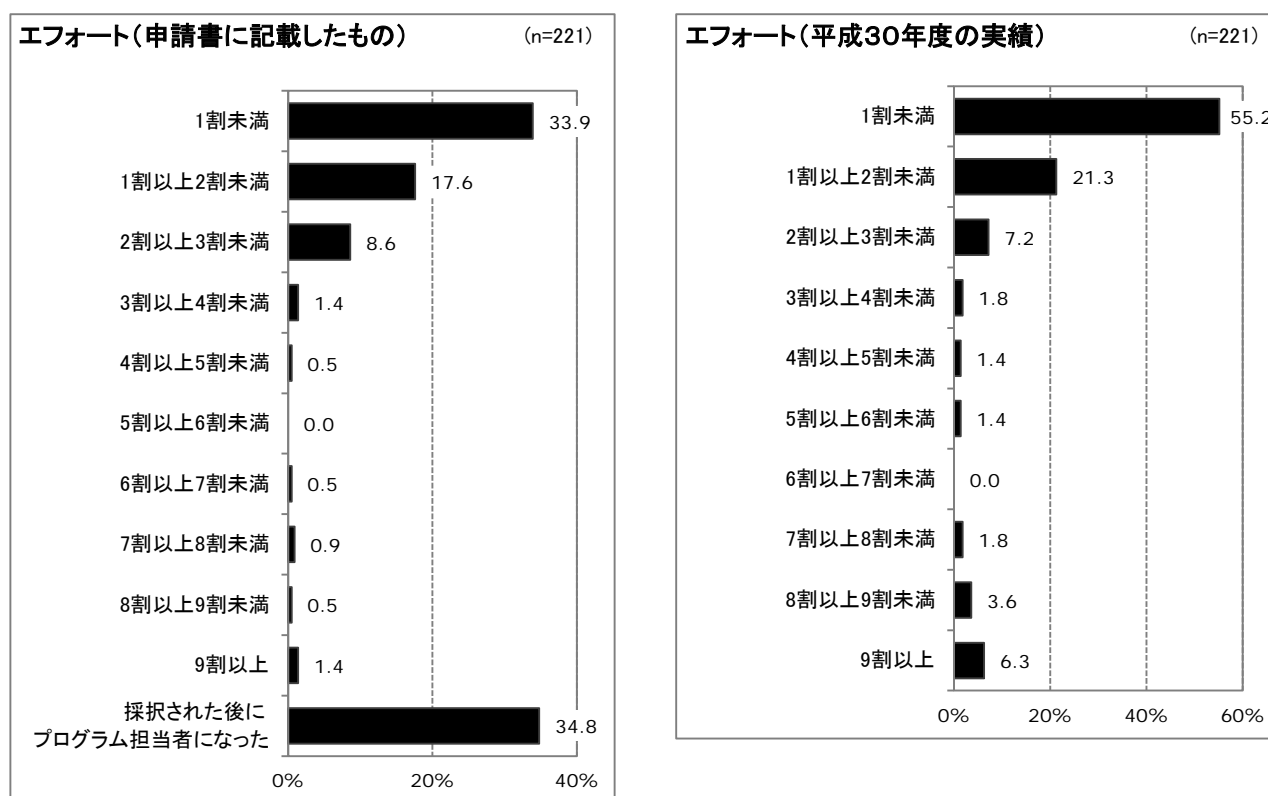


図25 申請時の想定と平成30(2018)年度実績のエフォート (n=221)

3. 指導等の内容（問5）

プログラム担当者に対し、どのような指導等を担当しているか（図26）、また担当している場合はその有効性（図27）について聞いている。

「よく担当している」「担当している」と回答した項目で半数以上となったのは「主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等」のみであったが、その有効性については、「授業外のサポート（メンター等）」、「指導学生以外の学生への指導」、「プロジェクト形式による授業や課題」、「研究室ローテーションの受入れ」も含め、全ての指導について、ほぼ全ての担当者が肯定的な回答をしている。

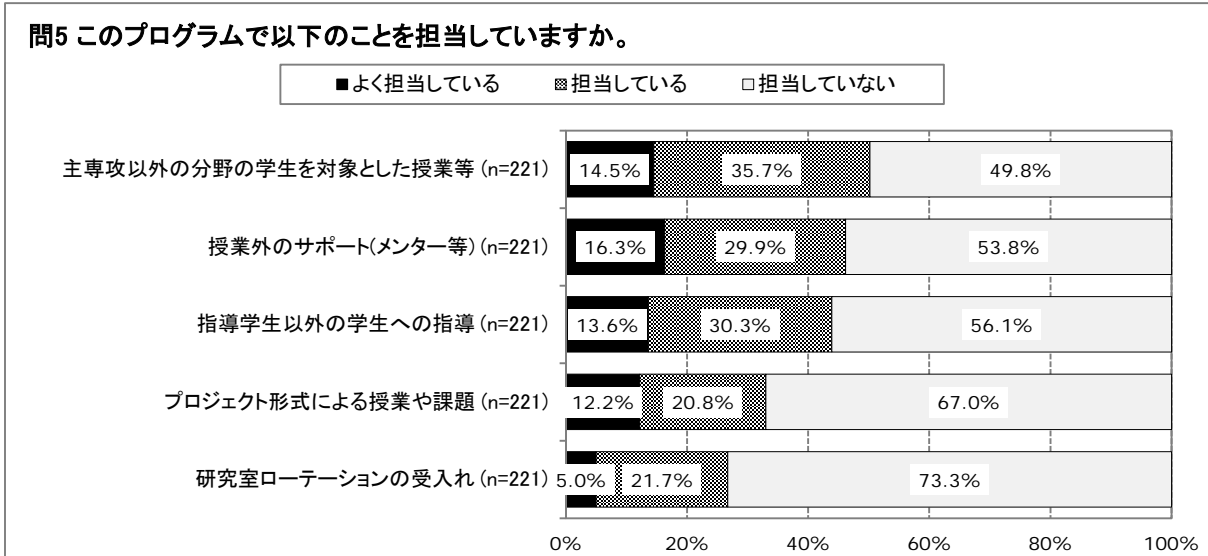


図26 プログラムで担当している指導等

< 「よく担当している」「担当している」を選択した場合のみ回答 >

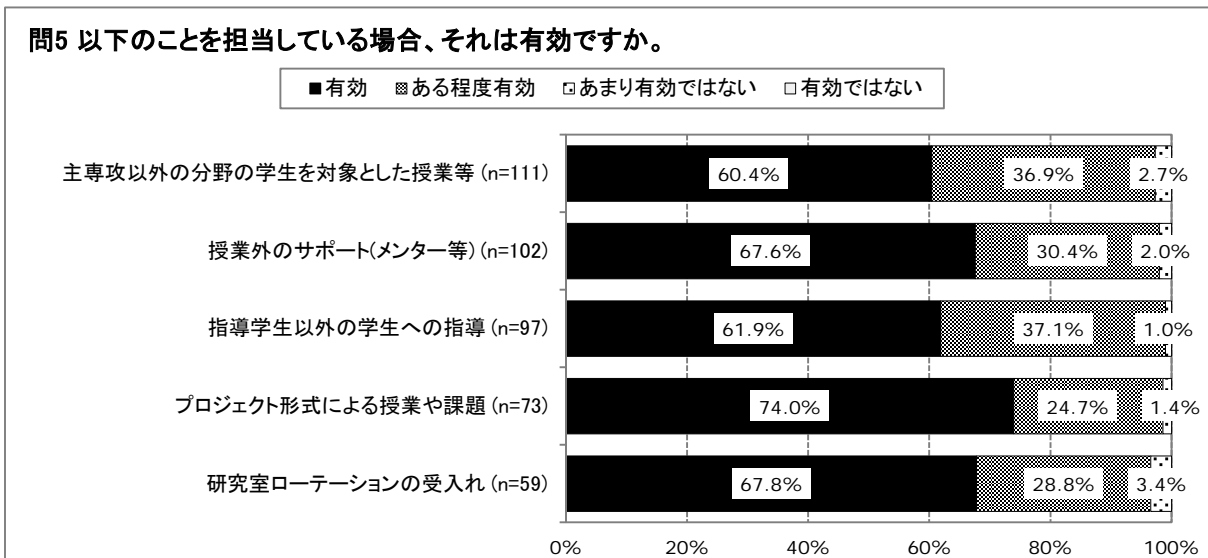


図27 指導等の有効性

4. プログラムの整備状況及びその有効性（問6）

プログラム内で学生のために整備された環境について、それが十分整備されていると感じているか（図28）、また「されている」を選択した場合にはそれが有効と考えているか（図29）について聞いている。

「通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」、「異分野の学生間で切磋琢磨できる環境」、「金銭的支援」、「学外者による指導」、「教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供」の全ての整備状況について、80%以上が「十分にされている」、「ある程度されている」と回答している。キャンパス外の活動としては、留学や民間企業・官庁・国際機関へのインターンシップが中心となっている。

また、これらの活動・整備の有効性については、ほぼ全ての担当者が肯定的な回答をしている。

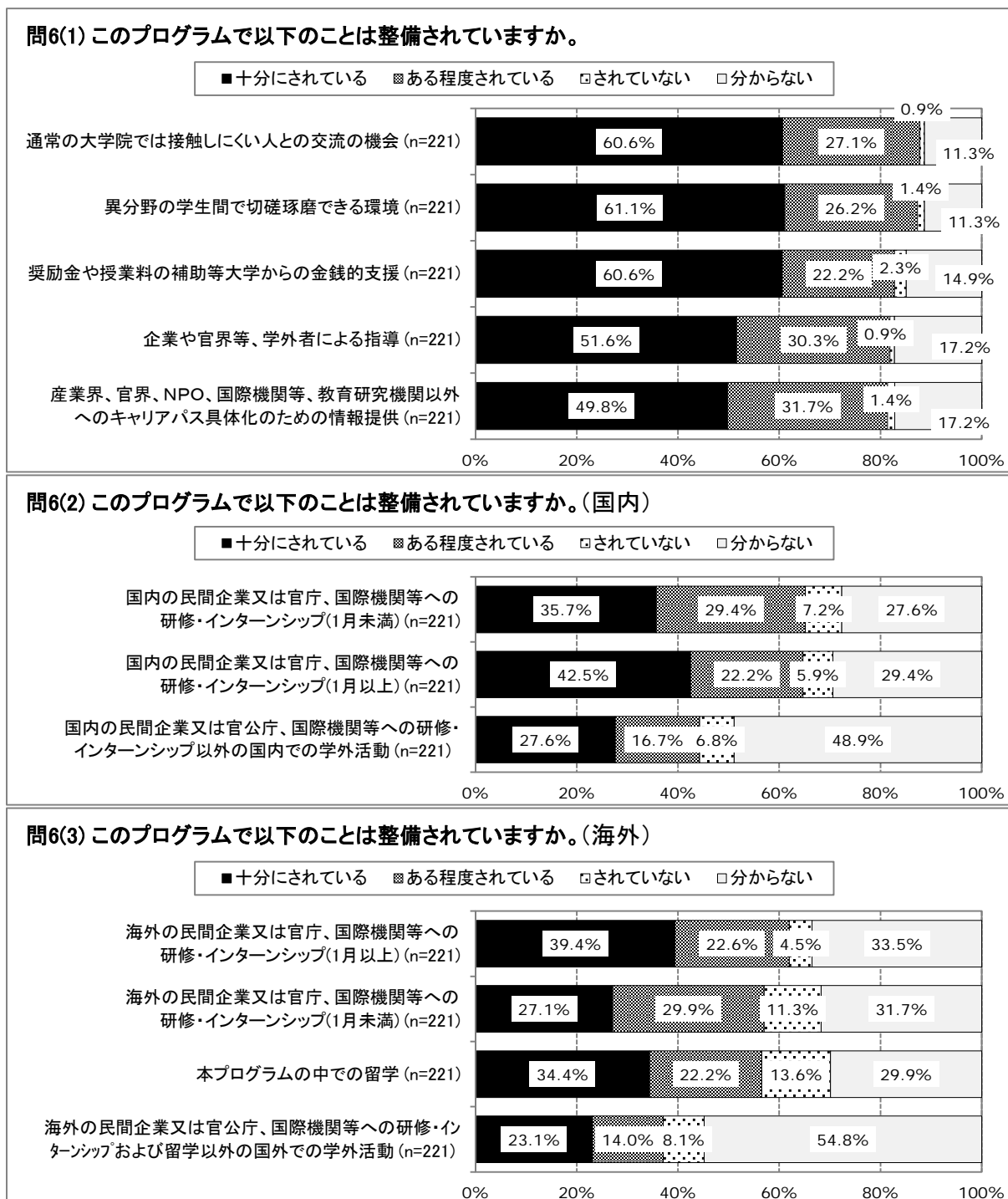


図28 プログラムの実施や環境の整備状況

< 「十分にされている」「ある程度されている」を選択した場合のみ回答 >

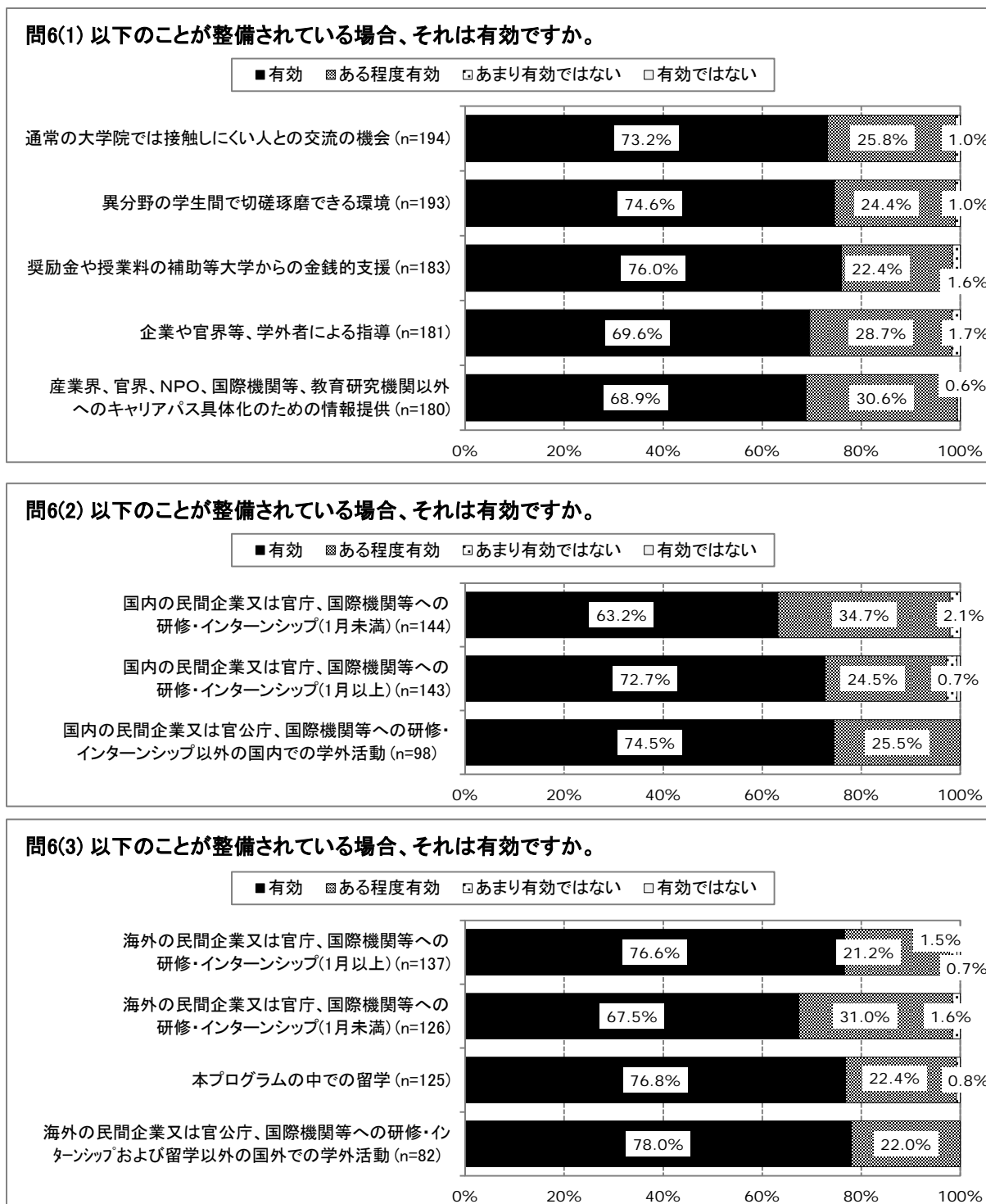


図 29 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

5. プログラムの有効性（問7）

プログラムに参加することにより、学生に各種能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いている。（図30）

質問した全ての能力について、プログラムが有効であるとの回答が多数を占めており、「非常に有効」との回答が多い項目は、「プレゼンテーション能力」（70%）、「自ら課題を発見し解決に挑む力」（67%）、「高い国際性」（66%）、「ディスカッション能力」（63%）、「他者と協働する力」（62%）、「専門以外の分野の幅広い知識」（60%）となっている。

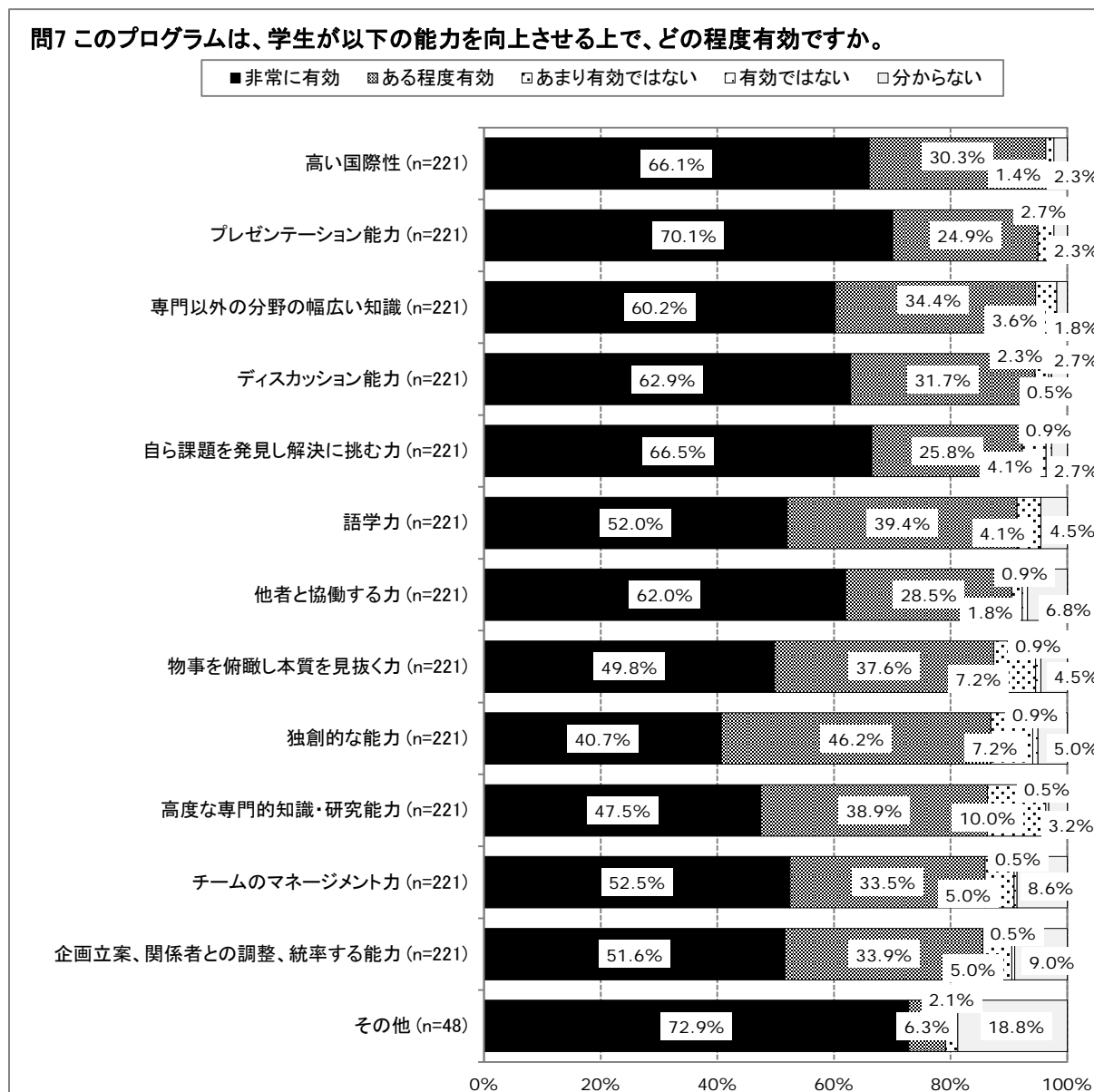


図30 学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性

6. 運営・管理（問8）

プログラムの運営・管理の面についての印象を聞いている。（図31）

「学内外へのプログラム内容や成果の積極的な広報」、「事務職員によるプログラム支援体制の整備」については、肯定的な回答が80%を超えている。一方で、学長のリーダーシップが発揮されているかについては、「そう思わない」、「全くそう思わない」という否定的な回答も13%と一定数見られる。

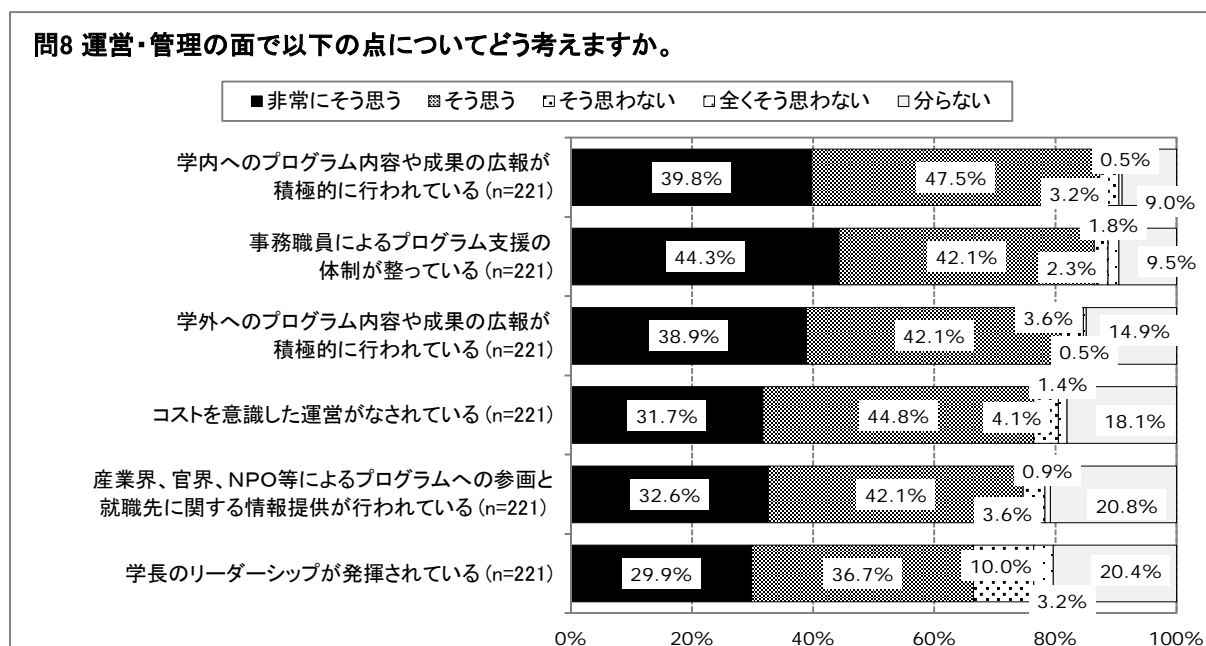


図31 運営・管理の面での印象

7. プログラムに対する印象（問9）

プログラムに参加している学生やプログラムの将来展望などを含めた、プログラムの印象を聞いている。（図32）

プログラム運営に係る設問に対する印象については、概ね肯定的な回答が多く、特に「優秀な学生が多数入学している」、「プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができている」、「大学の執行部がプログラムの目的を理解し、協力的である」について、肯定的な回答は80%を超えている。一方で、否定的な意見として、「一部の教員に負担が集中している」に「非常にそう思う」、「そう思う」との回答の合計は50%を超えている。

学生への効果・負担に係る設問に対しても概ね肯定的な印象が多く、特に、「学生はプログラムの趣旨を良く理解している」、「学生自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られる」、「学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる」については、肯定的な回答が85%を超えているが、否定的な意見として「学生にとって所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている」が34%と一定割合見受けられる。

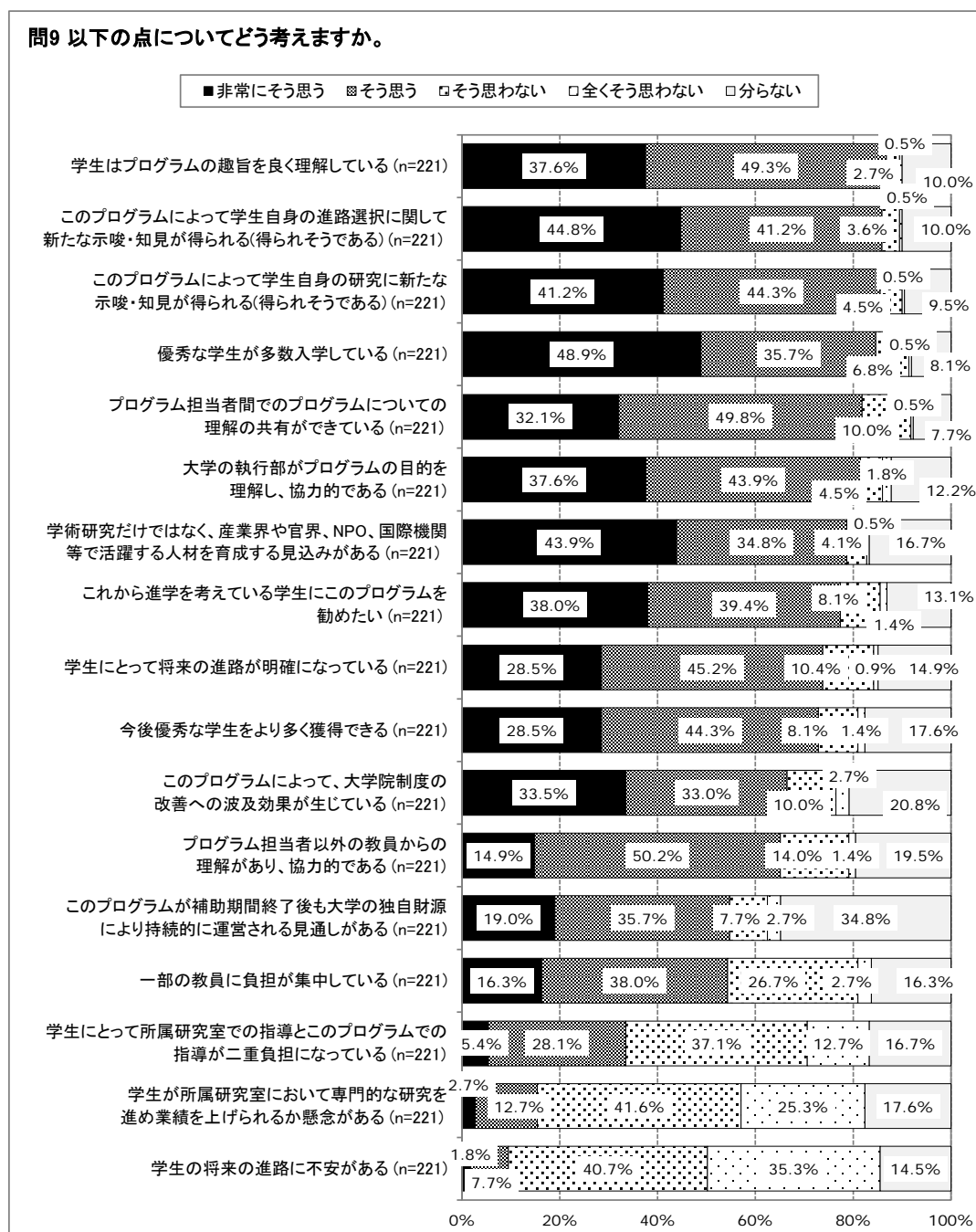


図32 プログラムに対する印象

8. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10-1）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている。（図33）

プログラム担当者が改善に向けた取組を実施している割合が47%で、実施していない割合が53%となっている。

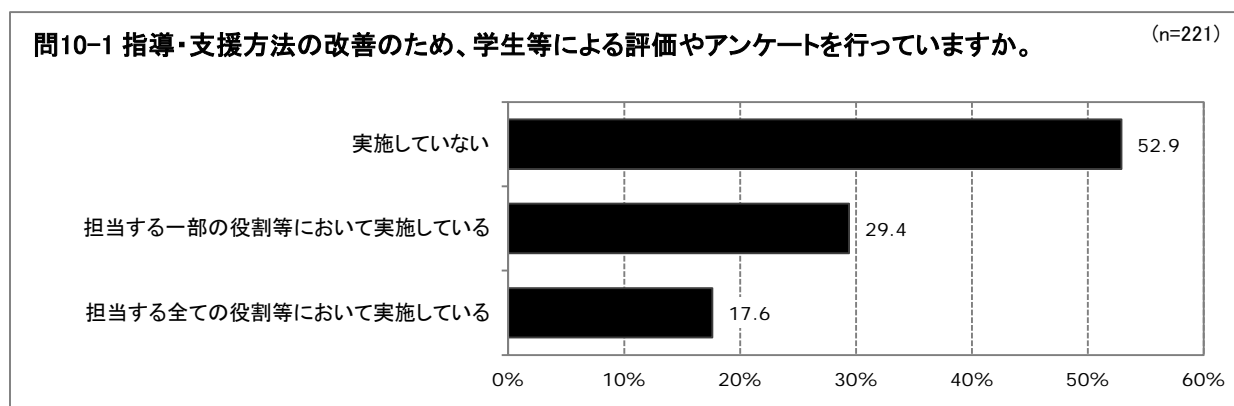


図33 指導・支援の改善のための評価等の実施 (n=221)

附録 A サンプルと回答者数

< 修了者・学生 >

類型	整理番号	機関名	プログラム名称	対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率
オールラウンド型	P01	東京大学	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム	37	22	59.5%	69	62	89.9%
	P02	九州大学	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	26	16	61.5%	45	34	75.6%
複合領域型 (物質)	Q01	北海道大学	物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム	22	19	86.4%	46	39	84.8%
	Q02	東北大学	マルチディメンション物質理工学リーダー養成プログラム	18	17	94.4%	46	40	87.0%
	Q03	大阪府立大学	システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム	20	20	100.0%	41	41	100.0%
複合領域型 (情報)	R01	筑波大学	エンパワーメント情報学プログラム	16	15	93.8%	31	29	93.5%
	R02	名古屋大学	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム	3	2	66.7%	52	46	88.5%
	R03	豊橋技術科学大学	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成	5	5	100.0%	21	18	85.7%
	R04	早稲田大学	実体情報学博士プログラム	18	12	66.7%	24	20	83.3%
複合領域型 (多文化共生社会)	S01	東京大学	多文化共生・統合人間学プログラム	18	9	50.0%	43	36	83.7%
	S02	名古屋大学	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム	4	3	75.0%	42	38	90.5%
	S03	広島大学	たおやかで平和な共生社会創生プログラム	12	10	83.3%	46	34	73.9%
複合領域型 (横断的テーマ)	T01	東京大学	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム	25	23	92.0%	49	41	83.7%
	T02	お茶の水女子大学	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成	8	8	100.0%	20	18	90.0%
オンリーワン型	U01	政策研究大学院大学	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム	8	7	87.5%	31	27	87.1%
	U02	信州大学	ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成	5	5	100.0%	31	30	96.8%
	U03	滋賀医科大学	アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト	5	4	80.0%	23	20	87.0%
	U04	京都大学	霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	5	4	80.0%	30	28	93.3%
総計				255	201	78.8%	690	601	87.1%

注) ・学生の対象者には休学中の者を含む。

<プログラム担当者>

類型	整理番号	機関名	プログラム名称	担当者		
				対象者	回答者	回答率
オールラウンド型	P01	東京大学	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム	17	13	76.5%
	P02	九州大学	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	21	14	66.7%
複合領域型 (物質)	Q01	北海道大学	物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム	22	17	77.3%
	Q02	東北大学	マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム	19	16	84.2%
	Q03	大阪府立大学	システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム	30	26	86.7%
複合領域型 (情報)	R01	筑波大学	エンパワーメント情報学プログラム	20	16	80.0%
	R02	名古屋大学	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム	20	17	85.0%
	R03	豊橋技術科学大学	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成	20	5	25.0%
	R04	早稲田大学	実体情報学博士プログラム	14	7	50.0%
複合領域型 (多文化共生社会)	S01	東京大学	多文化共生・統合人間学プログラム	25	7	28.0%
	S02	名古屋大学	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム	16	8	50.0%
	S03	広島大学	たおやかで平和な共生社会創生プログラム	20	5	25.0%
複合領域型 (横断的テーマ)	T01	東京大学	活力ある超高齢社会を共創するグローバル・リーダー養成プログラム	21	12	57.1%
	T02	お茶の水女子大学	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成	21	16	76.2%
オンリーワン型	U01	政策研究大学院大学	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム	12	7	58.3%
	U02	信州大学	ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成	12	10	83.3%
	U03	滋賀医科大学	アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト	11	9	81.8%
	U04	京都大学	霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	18	16	88.9%
総計				339	221	65.2%

注) ・プログラム担当者(プログラム責任者、プログラムコーディネーターを除く。)のうち3割程度を博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局により無作為に抽出し、回答の対象者とした。

附録 B 修了者アンケート調査と単純集計結果

博士課程教育リーディングプログラム 平成25(2013)年度採択プログラム事後評価

修了者アンケート調査

- この調査は、博士課程教育リーディングプログラムの平成25(2013)年度採択プログラムに対する事後評価の一環として、各大学の御協力により、文部科学省の指導の下で独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して実施するものです。
- プログラムに参加されていた皆さんに御意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省による新たな施策の検討の参考とします。
- 回答内容は全て統計的に処理されるとともに、回答者個人についての情報が他の目的で使われることはありません。また、調査結果については、プログラムの改善に資するため、回答者個人が特定されないよう、固有名詞の削除や複数の類似意見の統合等の処理を行った上で、当該大学に対して情報提供するほか、集計結果を公表することがあります。

日本学術振興会 個人情報保護規程

<http://www.jsps.go.jp/koukai/data/filebo/kitei.pdf>

- 5月20日(月)までに御回答ください。

参加されていたプログラムと、御自身について伺います

問1 参加していた大学・プログラム名について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別について選択してください。

年齢	1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30歳代	4. 40歳代以上
	0人 (0.0%)	120人 (59.7%)	76人 (37.8%)	5人 (2.5%)

性別	1. 女性	2. 男性
	63人 (31.3%)	138人 (68.7%)

問3 プログラムとの関係について選択してください。

プログラム参加開始年度	1. 2013年度 (平成25年度)	2. 2014年度 (平成26年度)	3. 2015年度 (平成27年度)	4. 2016年度 (平成28年度)	5. 2017年度 (平成29年度)	6. 2018年度 (平成30年度)
	35人 (17.4%)	109人 (54.2%)	39人 (19.4%)	17人 (8.5%)	1人 (0.5%)	0人 (0.0%)

プログラム修了年度	1. 2015年度 (平成27年度)	2. 2016年度 (平成28年度)	3. 2017年度 (平成29年度)	4. 2018年度 (平成30年度)
	3人 (1.5%)	18人 (9.0%)	54人 (26.9%)	126人 (62.7%)

プログラム参加時期	1. 大学院入学と 同時に参加	2. 大学院入学後 1年以内に参加	3. 大学院入学後 2年目以降に参加
	80人 (39.8%)	39人 (19.4%)	82人 (40.8%)

学位論文執筆分野	1. 学際・文理融合 分野 (情報学、環境 学、複合領域)	2. 人文社会分野 (総合人文社会、 人文学、社会科 学)	3. 理工分野 (総合理工、数物 系科学、化学、 工学)	4. 生物分野 (総合生物、生物 学、農学・獣医 学、医歯薬系)	5. その他
	17人 (8.5%)	23人 (11.4%)	107人 (53.2%)	49人 (24.4%)	5人 (2.5%)

5. その他(自由記述)

問4 プログラム参加時の経歴についてあてはまるもの全てを選択してください。

1	プログラムを実施する大学を卒業	147人 (73.1%)
2	留学生	16人 (8.0%)
3	他の大学の学部を卒業(国立高専専攻科修了後学士を取得した場合を含む)後、プログラムに参加	23人 (11.4%)
4	他の大学院を経験後、プログラムに参加	24人 (11.9%)

5	社会人を経験後、プログラムに参加	32人 (15.9%)
6	プログラム参加中も在職していた	4人 (2.0%)
7	プログラム参加中は休職していた	9人 (4.5%)

問5 指導教員(専門分野における研究指導を主に行う教員1名)とプログラムとの関係について選択してください。

1	指導教員がいた — その指導教員がプログラムにも参画していた	129人 (64.2%)
2	指導教員がいた — その指導教員はプログラムには参画していなかった	69人 (34.3%)
3	その他	3人 (1.5%)

3. その他(自由記述)

問6 このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。また、その動機はどの程度満たされましたか。

※プログラムの参加動機で「当てはまる動機」を回答した項目については、修了してからの評価（網掛け部）は必須回答。

	プログラム参加の動機		修了してからの評価			
	当てはまる動機 (複数回答可)	うち、最も強い動機 (単一回答)	期待より良かった	期待どおりだった	期待したほどではなかった	全く期待どおりではなかった
プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている	132人 (65.7%)	21人 (10.4%)	35人 (26.5%)	75人 (56.8%)	22人 (16.7%)	0人 (0.0%)
産業界、官界、NPO、国際機関への就職など自分の将来の可能性が広がる	92人 (45.8%)	13人 (6.5%)	25人 (27.2%)	40人 (43.5%)	21人 (22.8%)	6人 (6.5%)
通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる	175人 (87.1%)	58人 (28.9%)	85人 (48.6%)	80人 (45.7%)	9人 (5.1%)	1人 (0.6%)
他の研究科(専攻)の学生や教員、留学生等との交流の幅が広がる	140人 (69.7%)	8人 (4.0%)	59人 (42.1%)	70人 (50.0%)	8人 (5.7%)	3人 (2.1%)
留学や海外インターンシップなど海外での経験が積める	130人 (64.7%)	26人 (12.9%)	76人 (58.5%)	48人 (36.9%)	3人 (2.3%)	3人 (2.3%)
グローバルな舞台で活躍していくためにPh.D.が必要	78人 (38.8%)	9人 (4.5%)	22人 (28.2%)	48人 (61.5%)	8人 (10.3%)	0人 (0.0%)
経済的な支援が充実している	169人 (84.1%)	50人 (24.9%)	46人 (27.2%)	95人 (56.2%)	23人 (13.6%)	5人 (3.0%)
何となく面白そうだった	90人 (44.8%)	5人 (2.5%)	30人 (33.3%)	50人 (55.6%)	9人 (10.0%)	1人 (1.1%)
友人・知人や研究室の先輩等の教員以外の人にプログラムを勧められた	33人 (16.4%)	1人 (0.5%)	/	/	/	/
指導教員等に勧められた(自分の意志で参加)	116人 (57.7%)	8人 (4.0%)	/	/	/	/
指導教員等に勧められた(断ることができなかった)	6人 (3.0%)	2人 (1.0%)	/	/	/	/

その他の理由がある場合や、上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

問7 プログラムの以下の点をどのように評価しますか。

	非常に 良い	良い	どちらとも 言えない	良いとは 言えない	機会が なかった
他の専門分野の学生との交流	91人 (45.3%)	86人 (42.8%)	19人 (9.5%)	5人 (2.5%)	0人 (0.0%)
他大学の学生との交流	28人 (13.9%)	64人 (31.8%)	63人 (31.3%)	28人 (13.9%)	18人 (9.0%)
専門分野以外の教員との出会い	65人 (32.3%)	104人 (51.7%)	21人 (10.4%)	10人 (5.0%)	1人 (0.5%)
企業人との交流	37人 (18.4%)	91人 (45.3%)	45人 (22.4%)	20人 (10.0%)	8人 (4.0%)
専門分野以外の幅広い知識や経験	70人 (34.8%)	107人 (53.2%)	14人 (7.0%)	9人 (4.5%)	1人 (0.5%)
奨励金や授業料の補助等大学からの 経済的支援	93人 (46.3%)	80人 (39.8%)	15人 (7.5%)	11人 (5.5%)	2人 (1.0%)
議論することに対する自信をつけること	58人 (28.9%)	93人 (46.3%)	36人 (17.9%)	14人 (7.0%)	0人 (0.0%)
アカデミア以外の分野で活躍する自信 をつけること	46人 (22.9%)	84人 (41.8%)	53人 (26.4%)	14人 (7.0%)	4人 (2.0%)
語学力向上のためのカリキュラム	47人 (23.4%)	77人 (38.3%)	55人 (27.4%)	21人 (10.4%)	1人 (0.5%)
インターンシップの機会	77人 (38.3%)	59人 (29.4%)	34人 (16.9%)	7人 (3.5%)	24人 (11.9%)

プログラムでの実施状況等について伺います

問8 このプログラムで以下の指導をどの程度受けましたか。また、受けた場合、それは有効でしたか。

※受けた頻度で「よく受けた」「ある程度受けた」を回答した場合、有効であったか(網掛け部)は必須回答。

	受けた頻度			有効か			
	よく受けた	ある程度受けた	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではなかった	有効ではなかった
指導教員以外の教員からの指導	71人 (35.3%)	117人 (58.2%)	13人 (6.5%)	96人 (51.1%)	77人 (41.0%)	11人 (5.9%)	4人 (2.1%)
企業、官界等の学外者からの指導・助言	23人 (11.4%)	133人 (66.2%)	45人 (22.4%)	53人 (34.0%)	84人 (53.8%)	15人 (9.6%)	4人 (2.6%)
主専攻以外の分野の授業等の履修	89人 (44.3%)	108人 (53.7%)	4人 (2.0%)	69人 (35.0%)	91人 (46.2%)	30人 (15.2%)	7人 (3.6%)
研究室ローテーション ※名称は問わない(他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的知識を身に付ける機会を指す。)	53人 (26.4%)	63人 (31.3%)	85人 (42.3%)	65人 (56.0%)	36人 (31.0%)	9人 (7.8%)	6人 (5.2%)
プロジェクト形式による授業や課題	68人 (33.8%)	114人 (56.7%)	19人 (9.5%)	69人 (37.9%)	89人 (48.9%)	18人 (9.9%)	6人 (3.3%)
授業外のサポート(メンター等)	53人 (26.4%)	109人 (54.2%)	39人 (19.4%)	68人 (42.0%)	69人 (42.6%)	20人 (12.3%)	5人 (3.1%)
産業界、官界、NPO、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	39人 (19.4%)	115人 (57.2%)	47人 (23.4%)	47人 (30.5%)	76人 (49.4%)	25人 (16.2%)	6人 (3.9%)

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

問9A. このプログラムにおいて、以下のことは整備されていましたか。また、それは有効でしたか。（整備されていなかった場合は「該当なし」を選択。）

※整備されていたで「十分にされていた」・「ある程度されていた」・「不十分」を回答した場合、有効であったか（網掛け部）は必須回答。

	整備されていた				有効であったか			
	十分に されていた	ある程度 されていた	不十分	該当なし	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではなかった	有効では なかった
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援	121人 (60.2%)	66人 (32.8%)	12人 (6.0%)	2人 (1.0%)	135人 (67.8%)	50人 (25.1%)	13人 (6.5%)	1人 (0.5%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同のセミナー等	93人 (46.3%)	93人 (46.3%)	14人 (7.0%)	1人 (0.5%)	91人 (45.5%)	85人 (42.5%)	19人 (9.5%)	5人 (2.5%)
通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 例：企業や官界等の学外者、外国人等	80人 (39.8%)	103人 (51.2%)	14人 (7.0%)	4人 (2.0%)	79人 (40.1%)	89人 (45.2%)	25人 (12.7%)	4人 (2.0%)
学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会	91人 (45.3%)	91人 (45.3%)	11人 (5.5%)	8人 (4.0%)	85人 (44.0%)	74人 (38.3%)	26人 (13.5%)	8人 (4.1%)

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）

問9B. このプログラムによって、以下のことを経験しましたか。また、経験した場合それは有効でしたか。(プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がなかった場合は「参加しなかった」を選択してください。)

※参加の有無で「参加した」を回答した場合、有効であったか(網掛け部)は必須回答。

	参加の有無		有効であったか			
	参加した	参加しなかった	有効	ある程度有効	あまり有効ではなかった	有効ではなかった
① 国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月未満)	42人 (20.9%)	159人 (79.1%)	23人 (54.8%)	17人 (40.5%)	2人 (4.8%)	0人 (0.0%)
② 国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1年以上)	60人 (29.9%)	141人 (70.1%)	49人 (81.7%)	9人 (15.0%)	2人 (3.3%)	0人 (0.0%)
③ 国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1	25人 (12.4%)	176人 (87.6%)	18人 (72.0%)	7人 (28.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

※1 「参加した」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。

④ 海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月未満)	15人 (7.5%)	186人 (92.5%)	12人 (80.0%)	3人 (20.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
⑤ 海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1年以上)	38人 (18.9%)	163人 (81.1%)	34人 (89.5%)	4人 (10.5%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
⑥ 本プログラムの中での留学(3月未満)	57人 (28.4%)	144人 (71.6%)	50人 (87.7%)	7人 (12.3%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
⑦ 本プログラムの中での留学(3月以上1年未満)	53人 (26.4%)	148人 (73.6%)	52人 (98.1%)	1人 (1.9%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
⑧ 本プログラムの中での留学(1年以上)	3人 (1.5%)	198人 (98.5%)	3人 (100.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
⑨ 海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動 ※2	35人 (17.4%)	166人 (82.6%)	32人 (91.4%)	3人 (8.6%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

※2 「参加した」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

個人情報非開示の上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

問10 このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。

	参加前			修了後		
	あった	ある程度あった	なかった	向上した	ある程度向上した	変化なし
高度な専門的知識・研究能力	27人 (13.4%)	134人 (66.7%)	40人 (19.9%)	103人 (51.2%)	80人 (39.8%)	18人 (9.0%)
高い国際性	26人 (12.9%)	83人 (41.3%)	92人 (45.8%)	114人 (56.7%)	72人 (35.8%)	15人 (7.5%)
専門以外の分野の幅広い知識	13人 (6.5%)	81人 (40.3%)	107人 (53.2%)	98人 (48.8%)	97人 (48.3%)	6人 (3.0%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	21人 (10.4%)	100人 (49.8%)	80人 (39.8%)	97人 (48.3%)	79人 (39.3%)	25人 (12.4%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	35人 (17.4%)	120人 (59.7%)	46人 (22.9%)	96人 (47.8%)	84人 (41.8%)	21人 (10.4%)
独創的な能力	34人 (16.9%)	106人 (52.7%)	61人 (30.3%)	73人 (36.3%)	80人 (39.8%)	48人 (23.9%)
チームのマネージメント力	27人 (13.4%)	99人 (49.3%)	75人 (37.3%)	83人 (41.3%)	89人 (44.3%)	29人 (14.4%)
企画立案、関係者との調整、統率する能力	28人 (13.9%)	99人 (49.3%)	74人 (36.8%)	85人 (42.3%)	85人 (42.3%)	31人 (15.4%)
他者と協働する力	47人 (23.4%)	126人 (62.7%)	28人 (13.9%)	100人 (49.8%)	80人 (39.8%)	21人 (10.4%)
ディスカッション能力	32人 (15.9%)	125人 (62.2%)	44人 (21.9%)	100人 (49.8%)	81人 (40.3%)	20人 (10.0%)
プレゼンテーション能力	38人 (18.9%)	129人 (64.2%)	34人 (16.9%)	106人 (52.7%)	72人 (35.8%)	23人 (11.4%)
語学力	29人 (14.4%)	100人 (49.8%)	72人 (35.8%)	96人 (47.8%)	84人 (41.8%)	21人 (10.4%)
その他(具体的に:)	1人 (7.1%)	7人 (50.0%)	6人 (42.9%)	9人 (64.3%)	3人 (21.4%)	2人 (14.3%)

問11 以下の点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関等で活躍する人材を育成する可能性が大きい	63人 (31.3%)	105人 (52.2%)	28人 (13.9%)	5人 (2.5%)
所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重の負担になっていた	28人 (13.9%)	75人 (37.3%)	74人 (36.8%)	24人 (11.9%)
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた	75人 (37.3%)	84人 (41.8%)	32人 (15.9%)	10人 (5.0%)
このプログラムによって自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られた	84人 (41.8%)	73人 (36.3%)	30人 (14.9%)	14人 (7.0%)
所属研究室において自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられた	52人 (25.9%)	105人 (52.2%)	30人 (14.9%)	14人 (7.0%)
修了後の進路に不安があった	34人 (16.9%)	71人 (35.3%)	65人 (32.3%)	31人 (15.4%)
後輩にもこのプログラムを勧めたい ※	58人 (28.9%)	115人 (57.2%)	21人 (10.4%)	7人 (3.5%)
※ 「そう思わない」あるいは「全くそう思わない」と回答した場合、その理由を記述してください。				
個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）				

御自身の今後とプログラムによる成果等について伺います

問12 プログラム修了後どのような職等に就きましたか。また、今後の希望は持っていますか。

	大学院入学時の希望 (複数回答可) ※社会人学生は、 入学時の職業を選択	プログラム修了時の状況 ※社会人学生は、 修了時の状況あるいは 転職先として該当するものを選択	平成31(2019)年 4月1日 現在の状況	今後の希望 ※希望のある 場合のみ
民間企業に就職(研究者以外として)	39人(19.4%)	18人(9.0%)	17人(8.5%)	29人(19.1%)
民間企業に就職(研究者として)	116人(57.7%)	68人(33.8%)	73人(36.3%)	75人(49.3%)
官公庁に就職	30人(14.9%)	8人(4.0%)	8人(4.0%)	14人(9.2%)
国際機関に就職	25人(12.4%)	3人(1.5%)	2人(1.0%)	24人(15.8%)
NPO・NGO等(公共的サービスの提供主体)に 就職	5人(2.5%)	1人(0.5%)	1人(0.5%)	12人(7.9%)
医師、弁護士等専門職	7人(3.5%)	2人(1.0%)	1人(0.5%)	7人(4.6%)
起業	21人(10.4%)	2人(1.0%)	1人(0.5%)	36人(23.7%)
大学(海外を含む)に研究者として就職	91人(45.3%)	23人(11.4%)	33人(16.4%)	80人(52.6%)
その他公的研究機関(海外を含む)に研究者と して就職	62人(30.8%)	14人(7.0%)	16人(8.0%)	44人(28.9%)
求職中		8人(4.0%)	7人(3.5%)	
ポスドク(博士研究員)	53人(26.4%)	42人(20.9%)	30人(14.9%)	15人(9.9%)
決めていない	14人(7.0%)	5人(2.5%)	5人(2.5%)	4人(2.6%)
その他(具体的に:)	3人(1.5%)	7人(3.5%)	7人(3.5%)	2人(1.3%)

修了後に就職した場合、就職先、就職時期、就業形態、求職の方法(指導教員等による紹介、博士課程教育リーディングフォーラム等イベントでの人事担当者とのマッチング等)等をできる限り具体的に記入してください。

問13 居住国について選択してください。また、今後の希望は持っていますか。

	現在	今後の希望 (複数回答可)
日本	158人(78.6%)	134人(66.7%)
日本あるいは母国以外の外国	26人(12.9%)	100人(49.8%)
母国に帰国	17人(8.5%)	22人(10.9%)
未定		16人(8.0%)

問14 プログラムへの参加によって、人生観、職業観、世界観、国際意識等がどのように変わったか、また、修了後の活動や進路にどのような影響を及ぼしたかを自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）

問15 産学官民(※)にわたりグローバルに活躍するリーダーとなるため、プログラム修了後主体的に行った活動及びその成果について自由に記述してください。(※「民」とは、NGO、NPO 等公共的サービスの提供主体を指す。)

個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）

全般的な御意見を伺います

問16 参加していたプログラムについて、自身の将来にどう役立ったか、今後どのように役立つと考えるか、また、これからプログラムに参加する学生のために、プログラムがどのように改善すればよいと考えるか、感想、意見を自由に記述してください。(以下①～③のうち1つでも構いません。)

①<プログラムが役立った点・良い点>
個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）
②<改善を要する点(負担を感じた点など)>
個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）
③<その他>
個人が特定されないよう処理をした上で、参加していたプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）

(参考情報) よろしければ御協力ください

問17 あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか。(当てはまるもの全てを選択してください。)

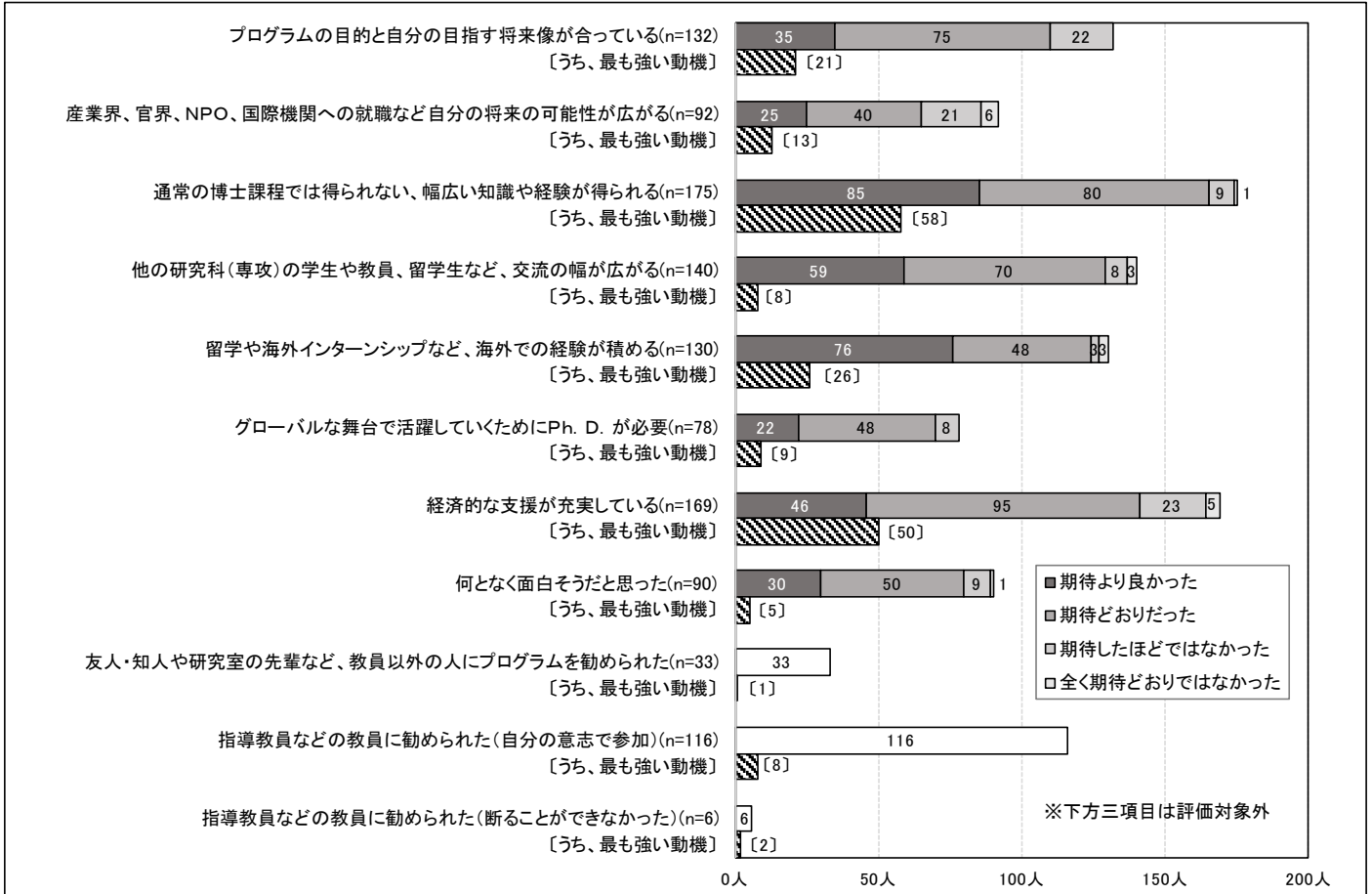
1	参加プログラムのウェブサイト	27人 (13.5%)
2	文部科学省のウェブサイト	3人 (1.5%)
3	日本学術振興会のウェブサイト	6人 (3.0%)
4	参加プログラムのリーフレット等	28人 (14.0%)
5	大学で行われた説明会・シンポジウム等	82人 (41.0%)
6	大学以外の場所で行われた説明会・シンポジウム等	0人 (0.0%)
7	新聞、雑誌等の広告	1人 (0.5%)

8	プログラム担当者の教員	101人 (50.5%)
9	プログラム担当者以外の教員	31人 (15.5%)
10	学内の友人・知人	33人 (16.5%)
11	学外の友人・知人	4人 (2.0%)
12	Facebook 等の SNS	0人 (0.0%)
13	その他(具体的に:)	12人 (6.0%)

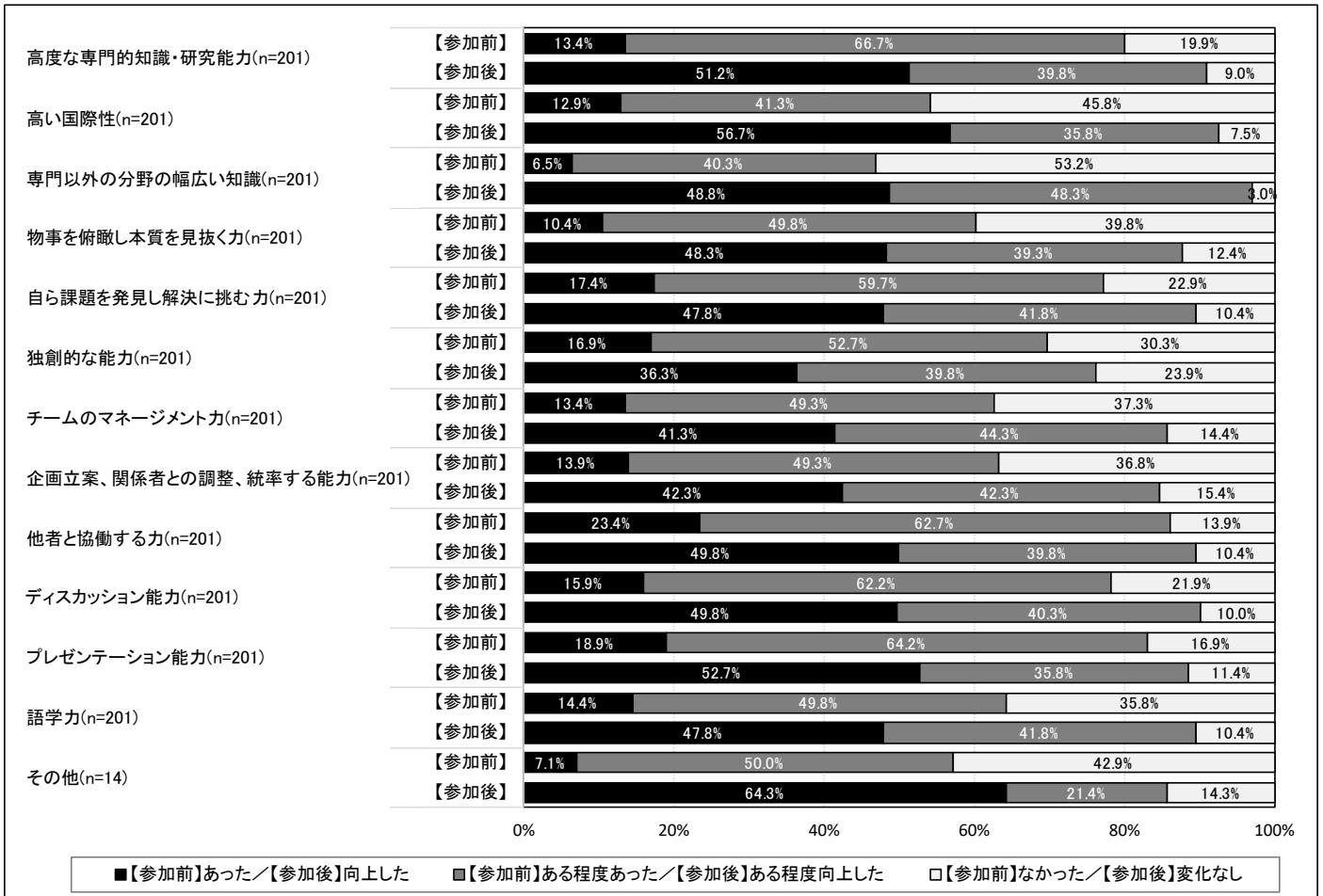
アンケートは以上で終了です。御協力ありがとうございました。

《参考グラフ》

問6 このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。また、その動機はどの程度満たされましたか。



問10 このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。



附録 C 学生アンケート調査と単純集計結果

博士課程教育リーディングプログラム 平成25(2013)年度採択プログラム事後評価

学生アンケート調査

- この調査は、博士課程教育リーディングプログラムの平成25(2013)年度採択プログラムの事後評価の一環として、各大学の御協力により、文部科学省の指導の下で独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して実施するものです。
- プログラムに参加する皆さんに御意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省による新たな施策の検討の参考とします。
- 回答内容は全て統計的に処理されるとともに、回答者個人についての情報が他の目的で使われることはありません。また、調査結果については、プログラムの改善に資するため、回答者個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合等の処理を行った上で、当該大学に対して情報提供するほか、集計結果を公表することがあります。

日本学術振興会 個人情報保護規程

<http://www.jsps.go.jp/koukai/data/filebo/kitei.pdf>

- 5月20日(月)までに御回答ください。

参加するプログラムと、御自身について伺います

問1 参加している大学・プログラム名について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別について選択してください。

	1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30歳代	4. 40歳代以上
年齢	91人 (15.1%)	364人 (60.6%)	126人 (21.0%)	20人 (3.3%)

	1. 女性	2. 男性
性別	227人 (37.8%)	374人 (62.2%)

問3 プログラムとの関係について選択してください。

プログラム参加開始年度	1. 2013年度 (平成25年度)	2. 2014年度 (平成26年度)	3. 2015年度 (平成27年度)	4. 2016年度 (平成28年度)	5. 2017年度 (平成29年度)	6. 2018年度 (平成30年度)
	5人 (0.8%)	36人 (6.0%)	133人 (22.1%)	168人 (28.0%)	129人 (21.5%)	130人 (21.6%)

現在の学年	1. 大学院1年次 (M1)	2. 大学院2年次 (M2)	3. 大学院3年次 (D1)	4. 大学院4年次 (D2)	5. 大学院5年次 (D3)	6. 大学院6年次 以上
	10人 (1.7%)	84人 (14.0%)	119人 (19.8%)	183人 (30.4%)	176人 (29.3%)	25人 (4.2%)
	7. 医歯薬学又は獣 医学系 1年次	8. 医歯薬学又は獣 医学系 2年次	9. 医歯薬学又は獣 医学系 3年次	10. 医歯薬学又は獣 医学系 4年次以上		
	0人 (0.0%)	2人 (0.3%)	0人 (0.0%)	2人 (0.3%)		

プログラム参加時期	1. 大学院入学と 同時に 参加	2. 大学院入学後 1年以内に 参加	3. 大学院入学後 2年目以降に 参加
	364人 (60.6%)	108人 (18.0%)	129人 (21.5%)

学位論文執筆 予定分野	1. 学際・文理融合 分野 (情報学、環境 学、複合領域)	2. 人文社会分野 (総合人文社会、 人文学、社会科 学)	3. 理工分野 (総合理工、数物 系科学、化学、 工学)	4. 生物分野 (総合生物、生物 学、農学・獣医 学、医歯薬系)	5. その他
	66人 (11.0%)	135人 (22.5%)	268人 (44.6%)	105人 (17.5%)	27人 (4.5%)

5. その他(自由記述)

問4 経歴についてあてはまるもの全てを選択してください。

1	プログラムを実施する大学を卒業	311人 (51.7%)
2	留学生	244人 (40.6%)
3	他の大学の学部を卒業(国立高専 専攻科修了後学士を取得した場合 を含む)後、プログラムに参加	129人 (21.5%)
4	他の大学院を経験後、プログラムに 参加	65人 (10.8%)

5	社会人を経験後、プログラムに参加	88人 (14.6%)
6	現在も在職中	37人 (6.2%)
7	在職中だが、休職中	24人 (4.0%)

問5 指導教員(専門分野における研究指導を主に行う教員1名)とプログラムとの関係について選択してください。

1	指導教員がいる — その指導教員がプログラムにも参画している	363 人 (60.4%)
2	指導教員がいる — その指導教員はプログラムには参画していない	232 人 (38.6%)
3	その他	6 人 (1.0%)

3. その他(自由記述)

問6-1 このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。また、そのうちの最も強い動機は何ですか。

	当てはまる動機 (複数回答可)	うち、最も強い動機
プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている	448 人 (74.5%)	92 人 (15.3%)
産業界、官界、NPO、国際機関への就職など自分の将来の可能性が広がる	314 人 (52.2%)	40 人 (6.7%)
通常の博士課程では得られない幅広い知識や経験が得られる	511 人 (85.0%)	151 人 (25.1%)
他の研究科(専攻)の学生や教員、留学生等との交流の幅が広がる	415 人 (69.1%)	25 人 (4.2%)
留学や海外インターンシップなど海外での経験が積める	403 人 (67.1%)	52 人 (8.7%)
グローバルな舞台で活躍していくために Ph.D.が必要	295 人 (49.1%)	38 人 (6.3%)
経済的な支援が充実している	480 人 (79.9%)	164 人 (27.3%)
何となく面白そうだった	300 人 (49.9%)	22 人 (3.7%)
友人・知人や研究室の先輩等の教員以外の人にプログラムを勧められた	196 人 (32.6%)	4 人 (0.7%)
指導教員等に勧められた(自分の意志で参加)	242 人 (40.3%)	11 人 (1.8%)
指導教員等に勧められた(断ることができなかった)	20 人 (3.3%)	2 人 (0.3%)

上記を選択した理由やその他の理由がある場合について、自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

問6-2 このプログラムがなかった場合、最終学位としてどれを選択していましたか。

1	学士(今所属する大学)	13人 (2.2%)	5	修士(他大学)	36人 (6.0%)
2	学士(他大学)	8人 (1.3%)	6	博士(今所属する大学と同じ研究科・専攻等)	217人 (36.1%)
3	修士(今所属する大学と同じ研究科・専攻等)	217人 (36.1%)	7	博士(今所属する大学の別の研究科・専攻等)	21人 (3.5%)
4	修士(今所属する大学の別の研究科・専攻等)	21人 (3.5%)	8	博士(他大学)	68人 (11.3%)

問7 プログラムの以下の点をどのように評価していますか。

	非常に良い	良い	どちらとも言えない	良いとは言えない	機会がなかった
他の専門分野の学生との交流	330人 (54.9%)	205人 (34.1%)	46人 (7.7%)	16人 (2.7%)	4人 (0.7%)
他大学の学生との交流	119人 (19.8%)	195人 (32.4%)	158人 (26.3%)	73人 (12.1%)	56人 (9.3%)
専門分野以外の教員との出会い	285人 (47.4%)	231人 (38.4%)	58人 (9.7%)	22人 (3.7%)	5人 (0.8%)
企業人との交流	165人 (27.5%)	211人 (35.1%)	127人 (21.1%)	58人 (9.7%)	40人 (6.7%)
専門分野以外の幅広い知識や経験	275人 (45.8%)	243人 (40.4%)	57人 (9.5%)	26人 (4.3%)	0人 (0.0%)
奨励金や授業料の補助など大学からの経済的支援	368人 (61.2%)	161人 (26.8%)	38人 (6.3%)	15人 (2.5%)	19人 (3.2%)
議論することに対する自信をつけること	253人 (42.1%)	216人 (35.9%)	108人 (18.0%)	21人 (3.5%)	3人 (0.5%)
アカデミア以外の分野で活躍する自信をつけること	206人 (34.3%)	227人 (37.8%)	122人 (20.3%)	31人 (5.2%)	15人 (2.5%)
語学力向上のためのカリキュラム	191人 (31.8%)	234人 (38.9%)	111人 (18.5%)	45人 (7.5%)	20人 (3.3%)
インターンシップの機会	209人 (34.8%)	171人 (28.5%)	118人 (19.6%)	27人 (4.5%)	76人 (12.6%)

プログラムでの実施状況等について伺います

問8 このプログラムで以下のような指導をどの程度受けましたか。また、受けた場合、それは有効ですか。

※受けた頻度で「よく受けた」・「ある程度受けた」を回答した場合、有効か(網掛け部)は必須回答。

※受けた頻度で「受けていない」を回答した場合、「今後受ける予定」の有・無は必須回答。

	受けた頻度					有効か			
	よく受けた	ある程度受けた	受けていない	今後、受ける予定		有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
				有	無				
指導教員以外の教員からの指導	227人 (37.8%)	320人 (53.2%)	54人 (9.0%)	23人 (42.6%)	31人 (57.4%)	326人 (59.6%)	189人 (34.6%)	28人 (5.1%)	4人 (0.7%)
企業、官界等の学外者からの指導・助言	121人 (20.1%)	309人 (51.4%)	171人 (28.5%)	44人 (25.7%)	127人 (74.3%)	194人 (45.1%)	186人 (43.3%)	43人 (10.0%)	7人 (1.6%)
主専攻以外の分野の授業等の履修	323人 (53.7%)	257人 (42.8%)	21人 (3.5%)	3人 (14.3%)	18人 (85.7%)	270人 (46.6%)	245人 (42.2%)	47人 (8.1%)	18人 (3.1%)
研究室ローテーション ※名称は問わない(他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す)	201人 (33.4%)	142人 (23.6%)	258人 (42.9%)	44人 (17.1%)	214人 (82.9%)	205人 (59.8%)	106人 (30.9%)	25人 (7.3%)	7人 (2.0%)
プロジェクト形式による授業や課題	263人 (43.8%)	292人 (48.6%)	46人 (7.7%)	10人 (21.7%)	36人 (78.3%)	274人 (49.4%)	229人 (41.3%)	41人 (7.4%)	11人 (2.0%)
授業外のサポート(メンター等)	193人 (32.1%)	299人 (49.8%)	109人 (18.1%)	29人 (26.6%)	80人 (73.4%)	230人 (46.7%)	202人 (41.1%)	44人 (8.9%)	16人 (3.3%)
産業界、官界、NPO、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	163人 (27.1%)	322人 (53.6%)	116人 (19.3%)	30人 (25.9%)	86人 (74.1%)	209人 (43.1%)	220人 (45.4%)	47人 (9.7%)	9人 (1.9%)

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

問9A. このプログラムにおいて、以下のことは整備されていますか。また、それは有効ですか。

(整備されていない場合は「該当なし」を選択。)

※整備されているで「十分にされている」・「ある程度されている」・「不十分」を回答した場合、有効か(網掛け部)は必須回答。

	整備されている				有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	不十分	該当なし	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではない	有効 ではない
奨励金や授業料の補助など大学からの金銭的支援	361人 (60.1%)	183人 (30.4%)	43人 (7.2%)	14人 (2.3%)	433人 (73.8%)	134人 (22.8%)	15人 (2.6%)	5人 (0.9%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例:学生が交流するスペース、合同のセミナー等	297人 (49.4%)	238人 (39.6%)	57人 (9.5%)	9人 (1.5%)	308人 (52.0%)	224人 (37.8%)	51人 (8.6%)	9人 (1.5%)
通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 例:企業や官界等の学外者、外国人等	271人 (45.1%)	270人 (44.9%)	47人 (7.8%)	13人 (2.2%)	301人 (51.2%)	229人 (38.9%)	47人 (8.0%)	11人 (1.9%)
学生のみでプロジェクト等を企画・運営する機会	317人 (52.7%)	234人 (38.9%)	35人 (5.8%)	15人 (2.5%)	310人 (52.9%)	203人 (34.6%)	57人 (9.7%)	16人 (2.7%)

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

問9B. このプログラムによって、以下のことを経験しましたか、また、経験した場合それは有効でしたか。
 (プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がない場合は「修了まで参加予定なし」を選択。)

※参加の有無で「参加した」を回答した場合、有効か(網掛け部)は必須回答。

	参加の有無			有効か			
	参加した	これから参加	修了まで参加予定なし	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
① 国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月未満)	80人 (13.3%)	117人 (19.5%)	404人 (67.2%)	55人 (68.8%)	19人 (23.8%)	3人 (3.8%)	3人 (3.8%)
② 国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月以上)	104人 (17.3%)	153人 (25.5%)	344人 (57.2%)	87人 (83.7%)	13人 (12.5%)	4人 (3.8%)	0人 (0.0%)
③ 国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1	77人 (12.8%)	61人 (10.1%)	463人 (77.0%)	59人 (76.6%)	15人 (19.5%)	2人 (2.6%)	1人 (1.3%)

※1 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。

④ 海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月未満)	55人 (9.2%)	76人 (12.6%)	470人 (78.2%)	48人 (87.3%)	6人 (10.9%)	1人 (1.8%)	0人 (0.0%)
⑤ 海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月以上)	78人 (13.0%)	123人 (20.5%)	400人 (66.6%)	71人 (91.0%)	7人 (9.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
⑥ プログラムの中での留学(3月未満)	116人 (19.3%)	113人 (18.8%)	372人 (61.9%)	100人 (86.2%)	15人 (12.9%)	1人 (0.9%)	0人 (0.0%)
⑦ プログラムの中での留学(3月以上1年未満)	82人 (13.6%)	135人 (22.5%)	384人 (63.9%)	78人 (95.1%)	3人 (3.7%)	1人 (1.2%)	0人 (0.0%)
⑧ プログラムの中での留学(1年以上)	9人 (1.5%)	41人 (6.8%)	551人 (91.7%)	8人 (88.9%)	1人 (11.1%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
⑨ 海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動 ※2	63人 (10.5%)	51人 (8.5%)	487人 (81.0%)	55人 (87.3%)	8人 (12.7%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

※2 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。

上記を選択した理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

問10 このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。

	参加前			参加後		
	あった	ある程度あった	なかった	向上した	ある程度向上した	変化なし
高度な専門的知識・研究能力	71人 (11.8%)	391人 (65.1%)	139人 (23.1%)	310人 (51.6%)	236人 (39.3%)	55人 (9.2%)
高い国際性	93人 (15.5%)	293人 (48.8%)	215人 (35.8%)	378人 (62.9%)	188人 (31.3%)	35人 (5.8%)
専門以外の分野の幅広い知識	43人 (7.2%)	278人 (46.3%)	280人 (46.6%)	345人 (57.4%)	238人 (39.6%)	18人 (3.0%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	66人 (11.0%)	342人 (56.9%)	193人 (32.1%)	286人 (47.6%)	255人 (42.4%)	60人 (10.0%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	85人 (14.1%)	388人 (64.6%)	128人 (21.3%)	299人 (49.8%)	246人 (40.9%)	56人 (9.3%)
独創的な能力	95人 (15.8%)	339人 (56.4%)	167人 (27.8%)	250人 (41.6%)	248人 (41.3%)	103人 (17.1%)
チームのマネジメント力	90人 (15.0%)	315人 (52.4%)	196人 (32.6%)	275人 (45.8%)	237人 (39.4%)	89人 (14.8%)
企画立案、関係者との調整、統率する能力	90人 (15.0%)	325人 (54.1%)	186人 (30.9%)	289人 (48.1%)	232人 (38.6%)	80人 (13.3%)
他者と協働する力	147人 (24.5%)	370人 (61.6%)	84人 (14.0%)	325人 (54.1%)	217人 (36.1%)	59人 (9.8%)
ディスカッション能力	106人 (17.6%)	380人 (63.2%)	115人 (19.1%)	328人 (54.6%)	220人 (36.6%)	53人 (8.8%)
プレゼンテーション能力	107人 (17.8%)	363人 (60.4%)	131人 (21.8%)	346人 (57.6%)	203人 (33.8%)	52人 (8.7%)
語学力	116人 (19.3%)	310人 (51.6%)	175人 (29.1%)	303人 (50.4%)	228人 (37.9%)	70人 (11.6%)
その他(具体的に:)	6人 (13.6%)	14人 (31.8%)	24人 (54.5%)	26人 (59.1%)	5人 (11.4%)	13人 (29.5%)

問11 以下のような点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
プログラムに参加する教員間でプログラムについての理解が共有されている	173 人 (28.8%)	271 人 (45.1%)	120 人 (20.0%)	37 人 (6.2%)
一部の教員に負担が集中している	119 人 (19.8%)	283 人 (47.1%)	177 人 (29.5%)	22 人 (3.7%)
指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、プログラムに参加することに協力的である	165 人 (27.5%)	299 人 (49.8%)	107 人 (17.8%)	30 人 (5.0%)
学術研究だけではなく、産業界や官界、NPO、国際機関等で活躍する人材を育成する可能性が大きい	225 人 (37.4%)	283 人 (47.1%)	75 人 (12.5%)	18 人 (3.0%)
所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている	65 人 (10.8%)	186 人 (30.9%)	257 人 (42.8%)	93 人 (15.5%)
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた(得られそうである)	237 人 (39.4%)	268 人 (44.6%)	73 人 (12.1%)	23 人 (3.8%)
このプログラムによって自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られた(得られそうである)	250 人 (41.6%)	254 人 (42.3%)	77 人 (12.8%)	20 人 (3.3%)
所属研究室において自分の専門的な研究を進めて、業績をあげられるか不安がある	97 人 (16.1%)	203 人 (33.8%)	193 人 (32.1%)	108 人 (18.0%)
修了後の進路に不安がある	109 人 (18.1%)	207 人 (34.4%)	184 人 (30.6%)	101 人 (16.8%)
後輩にもこのプログラムを勧めたい ※	222 人 (36.9%)	283 人 (47.1%)	69 人 (11.5%)	27 人 (4.5%)
※ 「そう思わない」あるいは「全くそう思わない」と回答した場合、その理由を記入してください。				
個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)				

御自身の今後の希望やプログラムによる成果等について伺います

問12 修了後の就職等についてどのような希望を持っていますか。

	大学院入学時の希望 (複数回答可) ※社会人学生は、 入学時の職業を選択	平成 31(2019)年 4月1日 現在の希望 (複数回答可) ※社会人学生は、 平成 30(2018)年 4月1日 現在の職業を選択	既に進路が 決定している ※社会人学生は、 修了時の状況あるいは 転職先として該当する ものを選択
民間企業に就職(研究者以外として)	187人(31.1%)	194人(32.3%)	12人(14.3%)
民間企業に就職(研究者として)	287人(47.8%)	315人(52.4%)	23人(27.4%)
官公庁に就職	100人(16.6%)	106人(17.6%)	14人(16.7%)
国際機関に就職	145人(24.1%)	173人(28.8%)	2人(2.4%)
NPO・NGO等(公共的サービスの提供主体)に 就職	78人(13.0%)	102人(17.0%)	1人(1.2%)
医師、弁護士等の専門職	36人(6.0%)	38人(6.3%)	4人(4.8%)
起業	76人(12.6%)	137人(22.8%)	10人(11.9%)
大学(海外を含む)に研究者として就職	275人(45.8%)	292人(48.6%)	5人(6.0%)
その他公的研究機関(海外を含む)に研究者と して就職	214人(35.6%)	246人(40.9%)	2人(2.4%)
ポスドク(博士研究員)	207人(34.4%)	242人(40.3%)	4人(4.8%)
決めていない	41人(6.8%)	28人(4.7%)	
その他(具体的に:)	11人(1.8%)	10人(1.7%)	7人(8.3%)

既に就職が決定している場合(社会人学生については転職することが決定している場合)、就職先、就職時期、就業形態、求職の方法(指導教員等による紹介、博士課程教育リーディングフォーラム等イベントでの人事担当者とのマッチング等)、をできる限り具体的に記入してください。

--

問13 修了後の居住国について希望は持っていますか。

	今後の希望 (複数回答可)
日本	293人(48.8%)
日本あるいは母国以外の外国	223人(37.1%)
母国に帰国	74人(12.3%)
未定	123人(20.5%)

問14 プログラムへの参加によって、人生観、職業観、世界観、国際意識等がどのように変わったかを自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）

問15 産学官民(※)にわたりグローバルに活躍するリーダーとなるため、プログラムにおいて主体的に行った活動及びその成果について自由に記述してください。

(※「民」とは、NGO、NPO など公共的サービスの提供主体を指す。)

個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）

全般的な御意見を伺います

問16 参加するプログラムについて、自身の将来にどう役立つと思うか、また、どのように改善すればよいと考えるか、感想、意見を自由に記述してください。(下記①～③のうち1つでも構いません。)

① <プログラムが役立っている点・良い点>
個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）
② <改善を要する点(負担を感じる点など)>
個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）
③ <その他>
個人が特定されないよう処理をした上で、参加しているプログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。（はい・いいえ）

(参考情報) よろしければ御協力ください

問17 あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか。(当てはまるもの全てを選択してください。)

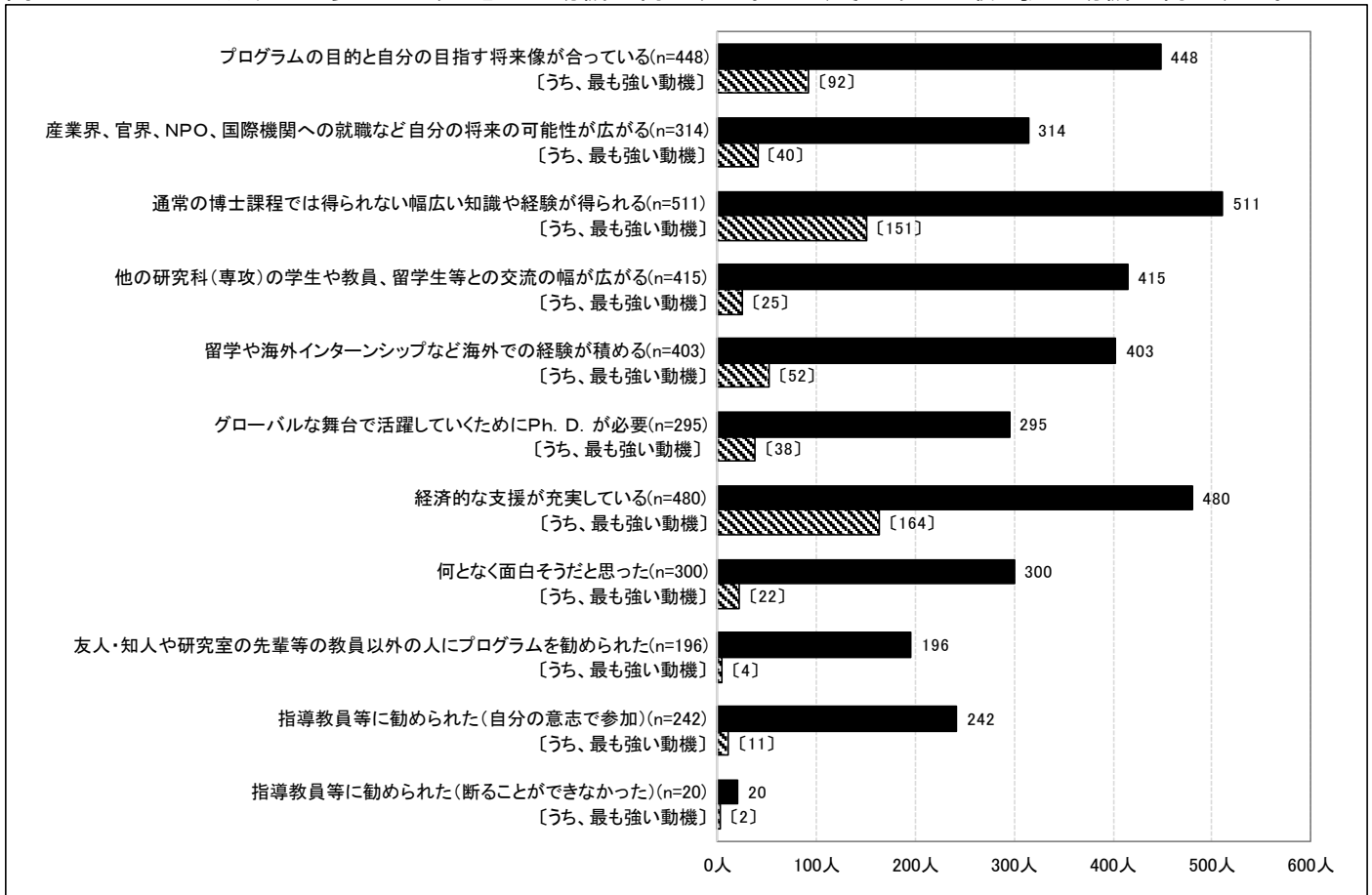
1	参加プログラムのウェブサイト	185人 (31.0%)
2	文部科学省のウェブサイト	19人 (3.2%)
3	日本学術振興会のウェブサイト	13人 (2.2%)
4	参加プログラムのリーフレット等	132人 (22.1%)
5	大学で行われた説明会・シンポジウム等	263人 (44.1%)
6	大学以外の場所で行われた説明会・シンポジウム等	7人 (1.2%)
7	新聞、雑誌等の広告	9人 (1.5%)

8	プログラム担当者の教員	227人 (38.0%)
9	プログラム担当者以外の教員	66人 (11.1%)
10	学内の友人・知人	241人 (40.4%)
11	学外の友人・知人	21人 (3.5%)
12	Facebook等のSNS	4人 (0.7%)
13	その他(具体的に:)	22人 (3.7%)

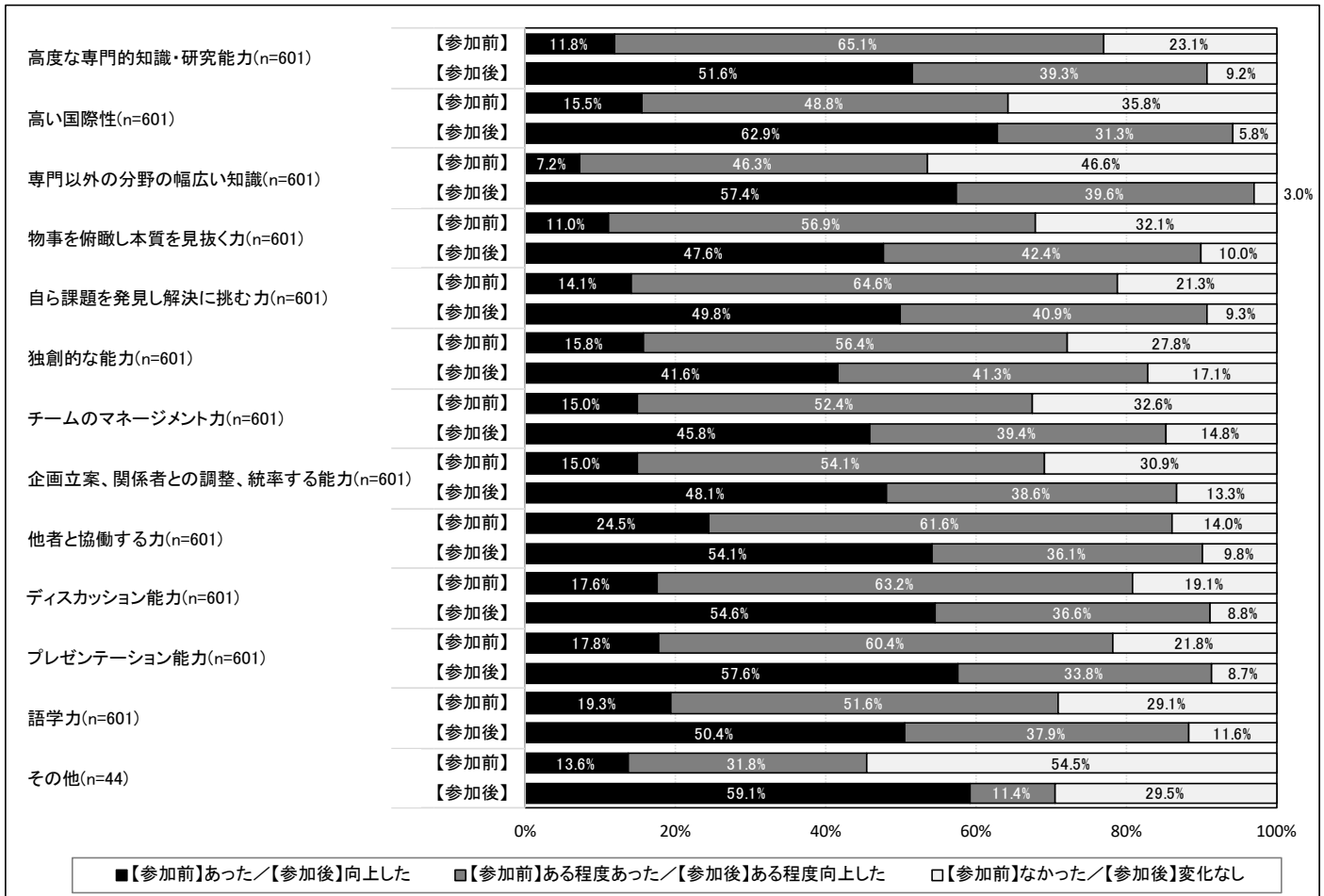
アンケートは以上で終了です。御協力ありがとうございました。

《参考グラフ》

問6-1 このプログラムに参加しようと思った動機は何ですか。また、そのうちの最も強い動機は何ですか。



問10 このプログラムに参加することによって、以下の能力はどう変化しましたか。



附録 D プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果

博士課程教育リーディングプログラム 平成25(2013)年度採択プログラム事後評価

プログラム担当者アンケート調査

- この調査は、博士課程教育リーディングプログラム(※)の平成25(2013)年度採択プログラムの事後評価の一環として、各大学の御協力により、文部科学省の指導の下で独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して実施するものです。
- プログラムを担当しておられる教員の方及び学外から協力いただいている方に御意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省による新たな施策の検討の参考とします。
- 回答内容は全て統計的に処理されるとともに、回答者個人についての情報が他の目的で使われることはありません。また、調査結果については、プログラムの改善に資するため、回答者個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合等の処理を行った上で、当該大学に対して情報提供するほか、集計結果を公表することがあります。

日本学術振興会 個人情報保護規程

<http://www.jsps.go.jp/koukai/data/filebo/kitei.pdf>

※優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院(リーディング大学院)の形成を推進する事業

- 5月20日(月)までに御回答ください。

担当していらっしゃるプログラムと、御自身について伺います

問1 担当の大学・プログラム名について、以下に表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別について選択してください。

年齢	1. 30歳代以下	2. 40歳代	3. 50歳代	4. 60歳代以上
	14人 (6.3%)	54人 (24.4%)	90人 (40.7%)	63人 (28.5%)

性別	1. 女性	2. 男性
	43人 (19.5%)	178人 (80.5%)

問3 プログラムとの関係について選択してください。

プログラムに参加した年 (該当する年度全てを選択)	1. 2013年度 (平成25年度)	2. 2014年度 (平成26年度)	3. 2015年度 (平成27年度)	4. 2016年度 (平成28年度)	5. 2017年度 (平成29年度)	6. 2018年度 (平成30年度)
	130人 (58.8%)	149人 (67.4%)	161人 (72.9%)	166人 (75.1%)	174人 (78.7%)	178人 (80.5%)

エフォート 申請時調査に記載したもの (1つを選択)	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	75人 (33.9%)	39人 (17.6%)	19人 (8.6%)	3人 (1.4%)	1人 (0.5%)	0人 (0.0%)
	7. 6割以上 7割未満	8 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上	11. 採択された後に プログラム担当者 になった	
	1人 (0.5%)	2人 (0.9%)	1人 (0.5%)	3人 (1.4%)	77人 (34.8%)	

エフォート 平成30(2018)年度の実績 (1つを選択)	1. 1割未満	2. 1割以上 2割未満	3. 2割以上 3割未満	4. 3割以上 4割未満	5. 4割以上 5割未満	6. 5割以上 6割未満
	122人 (55.2%)	47人 (21.3%)	16人 (7.2%)	4人 (1.8%)	3人 (1.4%)	3人 (1.4%)
	7. 6割以上 7割未満	8 7割以上 8割未満	9. 8割以上 9割未満	10. 9割以上		
	0人 (0.0%)	4人 (1.8%)	8人 (3.6%)	14人 (6.3%)		

本プログラムの学生に直接 接する頻度 (1つを選択)	1. 日常的	2. 週に1回程度	3. 月に1~2回 程度	4. 年に1回~数回	5. 直接には 接しない
	73人 (33.0%)	24人 (10.9%)	24人 (10.9%)	72人 (32.6%)	28人 (12.7%)

所属(本務)	1. 当該大学院・参 画研究科・専攻 等(プログラムの 経費により雇用 されている者を 除く)	2. 当該大学院・参 画研究科・専攻 等(プログラムの 経費による雇 用)	3. 当該大学 (1、2以外)	4. 他大学	5. 研究機関	6. 民間企業
	125人 (56.6%)	25人 (11.3%)	20人 (9.0%)	13人 (5.9%)	14人 (6.3%)	16人 (7.2%)
	7. 政府・自治体	8. 国際機関	9. その他			
0人 (0.0%)	1人 (0.5%)	7人 (3.2%)				

9. その他(自由記述)

問4 このプログラムではどのようなことを担当していますか。(あてはまる項目全てを選択してください。)

1	プログラムの企画・運営	94人 (42.5%)	7	留学プログラム	21人 (9.5%)
2	単独講義	59人 (26.7%)	8	学生募集・入学者選抜	58人 (26.2%)
3	単独演習	37人 (16.7%)	9	就職支援	17人 (7.7%)
4	協同講義、演習への参加	90人 (40.7%)	10	インターンシップ	42人 (19.0%)
5	個別学生の研究指導	111人 (50.2%)	11	広報	30人 (13.6%)
6	学生のメンター	75人 (33.9%)	12	その他	41人 (18.6%)

12. その他(自由記述)

プログラムの実施状況等について伺います

問5 このプログラムで以下のことを担当していますか。また、担当している場合、それは有効だと思いますか。(カリキュラムにない場合や今後担当予定の場合は「担当していない」を選択。)

※担当状況で「よく担当している」・「担当している」を回答した場合、有効か(網掛け部)は必須回答。

	担当状況			有効か			
	よく担当している	担当している	担当していない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導	30人 (13.6%)	67人 (30.3%)	124人 (56.1%)	60人 (61.9%)	36人 (37.1%)	1人 (1.0%)	0人 (0.0%)
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等	32人 (14.5%)	79人 (35.7%)	110人 (49.8%)	67人 (60.4%)	41人 (36.9%)	3人 (2.7%)	0人 (0.0%)
研究室ローテーションの受入れ ※名称は問わない(他研究室に一定期間滞在する等、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。)	11人 (5.0%)	48人 (21.7%)	162人 (73.3%)	40人 (67.8%)	17人 (28.8%)	2人 (3.4%)	0人 (0.0%)
プロジェクト形式による授業や課題	27人 (12.2%)	46人 (20.8%)	148人 (67.0%)	54人 (74.0%)	18人 (24.7%)	1人 (1.4%)	0人 (0.0%)
授業外のサポート(メンター等)	36人 (16.3%)	66人 (29.9%)	119人 (53.8%)	69人 (67.6%)	31人 (30.4%)	2人 (2.0%)	0人 (0.0%)

問6 このプログラムで以下のことは整備されていますか。また、「十分にされている」あるいは「ある程度されている」を選択した場合、それは有効だと思いますか。

(カリキュラムにない場合や今後実施予定の場合は「されていない」を選択。)

※整備されているかで「十分にされている」・「ある程度されている」を回答した場合、有効か(網掛け部)は必須回答。

	整備されているか				有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	されて いない	分からない	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではない	有効 ではない
企業や官界等、学外者による指導	114人 (51.6%)	67人 (30.3%)	2人 (0.9%)	38人 (17.2%)	126人 (69.6%)	52人 (28.7%)	3人 (1.7%)	0人 (0.0%)
産業界、官界、NPO、国際機関等、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	110人 (49.8%)	70人 (31.7%)	3人 (1.4%)	38人 (17.2%)	124人 (68.9%)	55人 (30.6%)	1人 (0.6%)	0人 (0.0%)
奨励金や授業料の補助等大学からの金銭的支援	134人 (60.6%)	49人 (22.2%)	5人 (2.3%)	33人 (14.9%)	139人 (76.0%)	41人 (22.4%)	3人 (1.6%)	0人 (0.0%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生の交流スペース、合同のセミナー等	135人 (61.1%)	58人 (26.2%)	3人 (1.4%)	25人 (11.3%)	144人 (74.6%)	47人 (24.4%)	2人 (1.0%)	0人 (0.0%)
通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会 例：企業や官界等の学外者、外国人等	134人 (60.6%)	60人 (27.1%)	2人 (0.9%)	25人 (11.3%)	142人 (73.2%)	50人 (25.8%)	2人 (1.0%)	0人 (0.0%)
国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月未満)	79人 (35.7%)	65人 (29.4%)	16人 (7.2%)	61人 (27.6%)	91人 (63.2%)	50人 (34.7%)	3人 (2.1%)	0人 (0.0%)
国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月以上)	94人 (42.5%)	49人 (22.2%)	13人 (5.9%)	65人 (29.4%)	104人 (72.7%)	35人 (24.5%)	3人 (2.1%)	1人 (0.7%)
国内の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1	61人 (27.6%)	37人 (16.7%)	15人 (6.8%)	108人 (48.9%)	73人 (74.5%)	25人 (25.5%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
※1 「十分にされている」あるいは「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。								
海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月未満)	60人 (27.1%)	66人 (29.9%)	25人 (11.3%)	70人 (31.7%)	85人 (67.5%)	39人 (31.0%)	2人 (1.6%)	0人 (0.0%)
海外の民間企業又は官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ(1月以上)	87人 (39.4%)	50人 (22.6%)	10人 (4.5%)	74人 (33.5%)	105人 (76.6%)	29人 (21.2%)	2人 (1.5%)	1人 (0.7%)
本プログラムの中での留学	76人 (34.4%)	49人 (22.2%)	30人 (13.6%)	66人 (29.9%)	96人 (76.8%)	28人 (22.4%)	1人 (0.8%)	0人 (0.0%)
海外の民間企業、官公庁、国際機関等への研修・インターンシップ及び留学以外の国外での学外活動 ※2	51人 (23.1%)	31人 (14.0%)	18人 (8.1%)	121人 (54.8%)	64人 (78.0%)	18人 (22.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
※2 「十分にされている」あるいは「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記入してください。								

問7 このプログラムは、学生が以下の能力を向上させる上でどの程度有効だと思いますか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない	分からない
高度な専門的知識・研究能力	105人 (47.5%)	86人 (38.9%)	22人 (10.0%)	1人 (0.5%)	7人 (3.2%)
高い国際性	146人 (66.1%)	67人 (30.3%)	3人 (1.4%)	0人 (0.0%)	5人 (2.3%)
専門以外の分野の幅広い知識	133人 (60.2%)	76人 (34.4%)	8人 (3.6%)	0人 (0.0%)	4人 (1.8%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	110人 (49.8%)	83人 (37.6%)	16人 (7.2%)	2人 (0.9%)	10人 (4.5%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	147人 (66.5%)	57人 (25.8%)	9人 (4.1%)	2人 (0.9%)	6人 (2.7%)
独創的な能力	90人 (40.7%)	102人 (46.2%)	16人 (7.2%)	2人 (0.9%)	11人 (5.0%)
チームのマネージメント力	116人 (52.5%)	74人 (33.5%)	11人 (5.0%)	1人 (0.5%)	19人 (8.6%)
企画立案、関係者との調整、統率する能力	114人 (51.6%)	75人 (33.9%)	11人 (5.0%)	1人 (0.5%)	20人 (9.0%)
他者と協働する力	137人 (62.0%)	63人 (28.5%)	4人 (1.8%)	2人 (0.9%)	15人 (6.8%)
ディスカッション能力	139人 (62.9%)	70人 (31.7%)	5人 (2.3%)	1人 (0.5%)	6人 (2.7%)
プレゼンテーション能力	155人 (70.1%)	55人 (24.9%)	6人 (2.7%)	0人 (0.0%)	5人 (2.3%)
語学力	115人 (52.0%)	87人 (39.4%)	9人 (4.1%)	0人 (0.0%)	10人 (4.5%)
その他(具体的に:)	35人 (72.9%)	3人 (6.3%)	1人 (2.1%)	0人 (0.0%)	9人 (18.8%)

問8 運営・管理の面で以下の点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない	分からない
産業界、官界、国際機関、NPO・NGO 等によるプログラムへの参画と就職先に関する情報提供が行われている	72人 (32.6%)	93人 (42.1%)	8人 (3.6%)	2人 (0.9%)	46人 (20.8%)
学長のリーダーシップが発揮されている	66人 (29.9%)	81人 (36.7%)	22人 (10.0%)	7人 (3.2%)	45人 (20.4%)
コストを意識した運営がなされている	70人 (31.7%)	99人 (44.8%)	9人 (4.1%)	3人 (1.4%)	40人 (18.1%)
学内へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている	88人 (39.8%)	105人 (47.5%)	7人 (3.2%)	1人 (0.5%)	20人 (9.0%)
学外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている	86人 (38.9%)	93人 (42.1%)	8人 (3.6%)	1人 (0.5%)	33人 (14.9%)
事務職員によるプログラム支援の体制が整っている	98人 (44.3%)	93人 (42.1%)	5人 (2.3%)	4人 (1.8%)	21人 (9.5%)

問9 以下の点についてどう考えますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	分からない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています	71人 (32.1%)	110人 (49.8%)	22人 (10.0%)	1人 (0.5%)	17人 (7.7%)
一部の教員に負担が集中している	36人 (16.3%)	84人 (38.0%)	59人 (26.7%)	6人 (2.7%)	36人 (16.3%)
プログラム担当者以外の教員からの理解があり、協力的である	33人 (14.9%)	111人 (50.2%)	31人 (14.0%)	3人 (1.4%)	43人 (19.5%)
大学の執行部がプログラムの目的を理解し、協力的である	83人 (37.6%)	97人 (43.9%)	10人 (4.5%)	4人 (1.8%)	27人 (12.2%)
優秀な学生が多数入学している	108人 (48.9%)	79人 (35.7%)	15人 (6.8%)	1人 (0.5%)	18人 (8.1%)
今後優秀な学生をより多く獲得できる	63人 (28.5%)	98人 (44.3%)	18人 (8.1%)	3人 (1.4%)	39人 (17.6%)
学生はプログラムの趣旨を良く理解している	83人 (37.6%)	109人 (49.3%)	6人 (2.7%)	1人 (0.5%)	22人 (10.0%)
学生にとって将来の進路が明確になっている	63人 (28.5%)	100人 (45.2%)	23人 (10.4%)	2人 (0.9%)	33人 (14.9%)
学術研究だけでなく、産業界や官界、NPO、国際機関等で活躍する人材を育成する見込みがある	97人 (43.9%)	77人 (34.8%)	9人 (4.1%)	1人 (0.5%)	37人 (16.7%)
このプログラムによって、大学院制度の改善への波及効果が生じている	74人 (33.5%)	73人 (33.0%)	22人 (10.0%)	6人 (2.7%)	46人 (20.8%)
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある	42人 (19.0%)	79人 (35.7%)	17人 (7.7%)	6人 (2.7%)	77人 (34.8%)
これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい	84人 (38.0%)	87人 (39.4%)	18人 (8.1%)	3人 (1.4%)	29人 (13.1%)
学生にとって所属研究室での指導とこのプログラムでの指導が二重負担になっている	12人 (5.4%)	62人 (28.1%)	82人 (37.1%)	28人 (12.7%)	37人 (16.7%)
このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる(得られそうである)	91人 (41.2%)	98人 (44.3%)	10人 (4.5%)	1人 (0.5%)	21人 (9.5%)
このプログラムによって学生自身の進路選択に関して新たな示唆・知見が得られる(得られそうである)	99人 (44.8%)	91人 (41.2%)	8人 (3.6%)	1人 (0.5%)	22人 (10.0%)
学生が所属研究室において専門的な研究を進め業績を上げられるか懸念がある	6人 (2.7%)	28人 (12.7%)	92人 (41.6%)	56人 (25.3%)	39人 (17.6%)
学生の将来の進路に不安がある	4人 (1.8%)	17人 (7.7%)	90人 (40.7%)	78人 (35.3%)	32人 (14.5%)

プログラムの改善のための方策について伺います

問10-1 このプログラムであなたが担当している指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート(紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの)を行っていますか。以下から1つ選択してください。

1	担当する全ての役割等において実施している	39人(17.6%)
2	担当する一部の役割等において実施している	65人(29.4%)
3	実施していない	117人(52.9%)

【1あるいは2を選択した場合】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ具体的に実施した改善内容があれば、以下に記入してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、プログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

全般的な御意見を伺います

問11 このプログラムについて御意見がございましたら御自由に記述してください。

個人が特定されないよう処理をした上で、プログラムへ記述内容を情報提供しても良いですか。(はい・いいえ)

アンケートは以上で終了です。御協力ありがとうございました。